

マイスター・ハイスクール普及促進事業 「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」

令和7年度（2025年度） 成果報告書



商業

家庭

農業

工業

看護

水産

福祉



～専門高校とは～

職業教育を主とする学科を設置する高校を「専門高校」といい、
本道には7つの学科の専門高校が設置されています。



高校と産業界が共に歩む「未来を切り拓く人づくり」

北海道教育庁学校教育局指導担当局長 山城 宏一

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」は、専門高校と産業界との持続可能な連携体制の構築や、専門高校がもつ価値や魅力の発信を目的とした昨年度からの2か年事業です。高校教育課に配置した産学連携コーディネーターを中心として、これまでに、専門高校同士が学科の垣根を越えて連携する「横」のつながりと、専門高校と企業・中学校等が連携・協働する「縦」のつながりの2つの視点で様々な取組を進めてきました。

最終年度である本年度は、こうした取組の成果を各校の教育活動の中に根付かせる重要な一年と捉えており、道内4圏域に配置した拠点校の協力を得ながら、専門高校が形成してきた産学連携のノウハウや生徒の変容等の成果に加え、専門高校がもつ魅力や可能性を広く普及・啓発してきました。

とりわけ、生徒や教員、産業界関係者が集うイベントには、全道各地から多くの皆様に御参加いただいたことで、参加者はそれぞれのニーズを理解し、産学連携の具体をイメージするなど、大変意義のある交流機会を創出できたと考えております。

生徒のアンケート結果には、「企業の方が積極的に動いており、若者に対する期待や熱意が特に印象に残った」や「企業の方の話を聞いて、専門高校で学んでいる自分には大きな将来性があることを実感した」など、大変嬉しい感想が数多く寄せられております。

専門高校で学ぶ生徒には、こうした産学連携の学びを通じて、確かな専門性と実践力を基盤に、変化の激しい社会や産業構造の中でも主体的に学び続け、地域や産業の未来を切り拓く存在へ成長されていくことを強く期待しております。

一方で、こうした連携を学校や産業界の皆様の努力のみに委ねるのではなく、全体を俯瞰して方向性を示し継続的に支えていくことは、教育行政としての重要な責務です。そのため、北海道教育委員会といたしましては、本プロジェクトにおける取組を一過性として終わらせることなく、得られた成果や課題を丁寧に整理・共有し、産業界・関係機関との対話を一層深め、専門高校と産業界が「一緒に人を育てていく」という意識を醸成し続けながら、連携が持続化していく環境づくりに、主体的かつ継続的に取り組んでまいります。

結びになりますが、本プロジェクトに際し、御支援・御協力をいただきました皆様に深く感謝申し上げますとともに、学校や産業界、経済団体など、本道産業教育に関係する多くの皆様に本報告書を御高覧いただき、今後の本道産業教育の充実・発展のため、貴重な御意見や御助言をいただければ幸甚に存じます。



「一緒に学ぶ姿勢」が大切な産学連携の実現

北海道教育庁学校教育局高校教育課

産学連携コーディネーター 月 館 海 斗

令和6年度に始動した「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」は、産学連携の可能性を広げる試みとして、日々が学びの連続であり、答えのない中での模索や学校現場との対話を通して取り組んできた2年間でした。

プロジェクト1年目である令和6年度は、専門高校の生徒、教員、産業界の関係者が一堂に会する「産学連携シンポジウム」などのイベントを札幌市内で開催しました。こうしたイベントでは、参加者が立場や役職を越えて率直に語り合う姿が印象的であり、「お互いの肩書きを越えて共創するからこそ、イノベーションが生まれる」ことを実感しました。

また、中高生向けに制作したガイドブックでは、専門高校卒業生の生の声を通じて、北海道の魅力ある産業に加え、専門高校の価値や魅力を広く発信することができました。

2年目となる本年度は、前年度に培った実践知を4つの拠点校が引き継ぎ、道内全域へと展開していく“成果の普及年”として活動しました。道内4圏域で開催したイベント「ONE-TEAM フォーラム」では、実際の出前授業を見学した上で協議を行い、産学連携の具体的なイメージを参加者全体で共有しました。

また、旅費や謝金等が不要で出前授業等の連携が可能な「産業実務家教員リスト」の運用を開始し、各学校が主体的に産業界とつながるための後押しを行ってきました。

本プロジェクトが始動する際、学校や企業の方々から声を聞くと、「産学連携を進めていきたいが、接点をもつ機会が少ない」との意見が寄せられていました。こうした中、これまでの2年間で実施した学校や産業界関係者を対象としたアンケートの結果を見ると、シンポジウムでのディスカッションやフォーラムでの学校見学等を通して、相互に「理解が深まった」という肯定的な声が数多く寄せられました。

この2年間の活動を通じて、私が最も強く感じているのは、学校と産業界の接点においては「一緒に学ぶ姿勢」が何よりも大切であるということです。形式的な連携や「教える側・教えられる側」といった一方向の関係ではなく、学校と企業が一体となって「一緒に人を育てていく」、そして、大人たち自身も生徒たちと「一緒に学ぶ」という意識をもつことが、真の信頼関係を生み、サステナブルな産学連携へとつながっていくのではないのでしょうか。

終わりになりますが、本プロジェクトの成果は、関係各位の御尽力と御協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。本プロジェクトを通じて生まれた、専門高校を取り巻く人々による「一緒に学ぶ」という温かい関係性が各地域に根差し、これからの北海道を支える人材育成の礎となることを心から願っています。

目次

巻頭言

北海道教育庁学校教育局指導担当局長

山城 宏 一

北海道教育庁学校教育局高校教育課産学連携コーディネーター

月館 海 斗

1	事業の概要	P 1
2	事業概要図	P 2
3	事業内容	
	(1) イベント	
	ア 拠点校ミーティング	P 4
	イ 産学連携シンポジウム（道央・道南・道北・道東）	P 5
	ウ ONE-TEAM フォーラム（道央・道南・道北・道東）	P 7
	エ 専門高校魅力発見ミーティング	P 13
	オ 高校生チャレンジ in どさんこプラザ	P 14
	カ 専門高校ユナイテッド	P 17
	キ S7サミット（専門高校代表者会議）	P 19
	ク 産業実務家教員ミーティング	P 20
	ケ 北の専門高校 ONE-TEAM フェスタ（成果発表会）	P 22
	(2) 刊行物（各刊行物の概要はP24に掲載）	
	ア ONE-TEAM ニュース（第1号～第11号）	P 25
	イ リーフレット「北海道の専門高校が開催する学習成果発表会を紹介します」	P 47
	ウ 専門高校魅力発見ガイド	P 49
	エ おしごとガイドブック～2025年度版～〔中学生版・高校生版〕	P 75
	オ 産業実務家教員リスト 2.0	P 85
	(3) 生徒を対象とした新たな産業や技術革新に対応した取組	
	ア 半導体に関する出前授業等	P 88
	イ 洋上風力発電に関する出前授業・見学バスツアー	P 88
	(4) 各種セミナー	
	ア 半導体実践セミナー2025	P 89
	イ 建設DX理解促進セミナー	P 92
	ウ 洋上風力発電理解促進セミナー	P 93
	エ 観光産業理解促進セミナー	P 94
	オ スマート農林水産業理解促進セミナー	P 95
	(5) ONE-TEAM コミッティ（事業運営委員会）	P 96
4	拠点校アンケート結果	P 98
5	成果指標	P 103
6	「マイスター・ハイスクール事業」企画評価会議委員による講評	P 104
7	成果概要図	P 106
8	次年度以降の方向性	P 109
9	参考資料	
	(1) 報道記事	P 112
	(2) 第29期北海道産業教育審議会建議（概要版）	P 138
	(3) 本プロジェクトに御協力いただいた事業所等並びに事務局一覧	P 142

1 事業の概要

(1) 事業名

北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト

(2) 実施期間

令和6年度（2024年度）から令和7年度（2025年度）の2年間

(3) 令和7年度拠点校

北海道小樽水産高等学校（道央）、北海道室蘭工業高等学校（道南）

北海道旭川商業高等学校（道北）、北海道更別農業高等学校（道東）

(4) 事業内容

次世代半導体製造拠点の立地や洋上風力発電の導入など、産業構造が大きく変化している中、北海道教育委員会に産学連携コーディネーターを配置し、マイスター・ハイスクール事業の指定校における産学連携による教育実践を踏まえ、地域創生を担う産業人材を育成している専門高校と産業界をつなぎ、産学連携を強化するとともに、専門高校の価値や魅力を広く発信し、魅力ある北海道を創る人材育成を推進する。

(5) 事業運営体制

ア 管理機関（北海道教育委員会）

高校教育課に産学連携コーディネーターを配置するとともに、経済団体、自治体、教育機関等の有識者で構成し、産学連携に係る課題解決に向けた協議等を行う事業運営委員会「ONE-TEAM コミッティ」を設置し、静内農業高校がマイスター・ハイスクール事業で取り組んできた地方公共団体や産業界と連携・協働体制を整える中で得たノウハウを、道内の専門高校に広く発信する。

イ 産学連携コーディネーター

産学連携シンポジウム等の各種イベントの開催や、本事業の取組を紹介した学校や産業界向けの通信の発行などを通じて、学科の特性に応じて、専門高校と産業界等を人的につなげる。

ウ ONE-TEAM コミッティ

有識者11名で構成し、本プロジェクトの円滑な推進に向けて、専門高校の視察や産学連携に関する協議を行い、専門的見地から指導・助言を行う。

(6) 連携体制を構築する産業分野

6次産業（農業、商業、水産）、半導体関連（工業）、洋上風力発電（工業、水産）、観光DX（商業）、スマート農業（農業）、スマート水産業（水産）など

(7) 連携する関係機関等

- ・北海道経済連合会
- ・公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
- ・一般社団法人北海道農産協会
- ・北海道産業教育審議会 ほか

(8) 公式ロゴマーク

本事業の取組を、効果的かつ幅広く産業界に周知するため、右に示した公式ロゴマークを制作した。中央の7つの★は、本道に設置している7つの職業学科（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉）を表している。



【図1】公式ロゴマーク

3 事業内容

(1) イベント

ア 拠点校ミーティング [令和7年4月28日(月)開催]

拠点校4校の教頭と担当教諭が、本プロジェクトにおける今年度の取組の概要等について理解を深めるとともに、専門高校と産業界等との連携を推進する上での共通認識を図ることを目的として開催した。

北海道教育委員会による今年度の事業計画の説明、拠点校による産学連携に係る取組の紹介のほか、各圏域で開催する産学連携シンポジウムの実施に向けた打合せなどを行った。



ミーティングの様子

◆説明①「令和7年度の事業計画及び拠点校の役割について」

【主な内容】

- 本事業の目的は、専門高校と産業界をつなぎ、産学連携を強化するとともに、専門高校の価値や魅力を広く発信し、魅力ある北海道を創る人材を育成すること。
- 拠点校の役割は、各圏域で開催するイベントにおける協力のほか、産学連携による好事例や成果の発信など。

◆説明②「産学連携シンポジウムの基本構想について」

【主な内容】

- 令和6年度に札幌市内で開催した産学連携シンポジウム・産学連携カンファレンスでは、産業界と学校はもとより、学科間の交流の重要性等について確認できた。
(成果等については、令和6年度 ONE-TEAM ニュース第3号及び第6号を参照)
- 今年度の産学連携シンポジウムでは、学校・企業による好事例の発表やパネルディスカッションのほか、学科の垣根を越えた協議の場を設定する予定である。

◆発表「各拠点校における産学が連携した特徴的な取組」

【主な内容】

産学連携コーディネーターの進行によって、各拠点校から産学連携に係る自校の取組や、学校・学科の垣根を越えた連携事例について発表を行った。

(各拠点校における取組の詳細は、25ページのONE-TEAM ニュース第1号を参照)

◆協議「産学連携の推進に向けて」

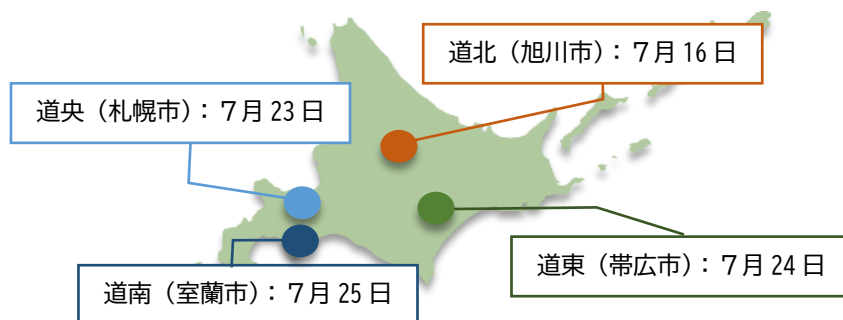
【主な内容】

産学連携における課題点や、連携を推進する上でのポイントとして、現状では、担当教諭と企業の属人的な連携となっているケースが多く、学校として持続可能な連携の形を構築することや、産業界と学校が互いにWin-Winの関係を構築することの重要性などを共有した。

イ 産学連携シンポジウム [令和7年7月開催：4会場]

専門高校の教員と産業界関係者が、産学連携の意義や方法等について理解を深めることを目的に道内4会場で開催し、教員、産業界関係者、生徒それぞれの代表が、産学連携の事例や成果等について発表を行った上で、参加者によるグループ協議を行った。

4会場合わせて194名（教員93名、産業界関係者85名、生徒16名）が参加した。
（各会場における実施状況の詳細は、31ページのONE-TEAMニュース第4号を参照）



◆参加者の主な感想

【高校教員】

- 非常に意義のある取組であった。今後もこうしたイベントに参加して、より多くの企業の方と情報交換したい。(道北)
- 課題研究における学科間で連携した取組は、単年度で完結することが難しいと感じた。どういったことができるのかは分からないが、生徒が達成感を得られる取組ができるのであれば取り組んでみたい。(道北)
- 色々な業種の企業の方や他の専門高校の先生方と交流ができて、大変勉強になる時間だった。(道央)
- 企業側の困りごとを聞いて、非常に参考になる取組だった。(道東)
- 多くの研修では教員同士の協議が多い中、今回のシンポジウムでは企業からの参加者が半数近くいた。企業が学校に対してどのようなことを望んでいるか直に聞くことができ、とても有意義なシンポジウムであった。(道南)
- 生徒を含めたパネルディスカッションは非常に刺激になった。(道南)

【産業界関係者】

- 道北エリアでも産学連携を広げたいと感じた。(道北)
- 新たに DX の分野で専門高校と連携していきたいと思う。折角の機会なのでもっと多くの先生方と意見交換したかった。(道央)
- この産学連携シンポジウムを通じて、今後のよりよい産学連携に向けて、見直しをしていかなければならない部分があると感じた。(道南)

【生徒】

- 生徒の立場からすると、インターンシップの際の学校側と企業側の連携の仕方を見直してほしい。また、教師が転職する際の企業との引継ぎの仕方を考えてほしいと思った。(道北)
- パネリストと発表者の立場で、このシンポジウムに参加できてよかった。自分自身が実現したい未来について自由に発言できる機会というのはなかなか無く、学科間での交流も同時に行えたので、とても貴重な経験ができた。(道東)

道北の高校教員と産業界関係者が、産学連携の意義や方法等について理解を深めるイベントです。

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」 産学連携シンポジウム

【道北地区】

開催日時
2025年7月16日(水)
10:00~15:30

会場
イオンモール旭川駅前
イオンホール(4階)
(旭川市宮下7丁目2番5号)

申込
下の2次元コードがURLから
ウェブページ上で申込み

**道教委による
旅費支給対象者の方**
(詳細は開催要項参照)

上記以外の方

参加対象者

- ・上川、留萌、宗谷管内の専門高校で職業学科を担当する教諭等
- ・道内企業・経済団体等の関係者(管内不問)
- ・その他、産業界に関心のある教育関係者(管内不問)
- ・道内の専門高校で学ぶ代表生徒(関係校には別途連絡)

【主催】 北海道教育庁学校教育局高校教育課
(お問い合わせ先: TEL 011-204-5705)

【共催】 旭川市

【協力】 北海道旭川商業高等学校

【図3-1】チラシ(道北)

道央の高校教員と産業界関係者が、産学連携の意義や方法等について理解を深めるイベントです。

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」 産学連携シンポジウム

第二水産ビル 8階BC会議室
(札幌市中央区北3条西7丁目1)

7.23(水)
09:30-15:00

会場

内容

- ・説明 「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクトの概要等について」
北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係
- ・発表① 「企業と連携した産場再生に向けた取組について」
小樽水産高校栽培漁業科教諭 古賀 英裕
- ・発表② 「未来につながる産場再生への取組について」
御海洋探査執行委員 小笠原 誠
- ・発表③ 「工業高校との連携によるアグリテックの実践」
岩見沢農業高校農業科学科 3年 仁平 佳太
農業土木工学科 3年 岩村 厚希

パネルディスカッション
「サステナブルな産学連携に向けてできること～それぞれの立場から～」
司会 北海道教育庁学校教育局高校教育課産学連携コーディネーター 月館 海斗

パネリスト

- 小樽水産高校栽培漁業科教諭 古賀 英裕
- 小樽水産高校栽培漁業科 3年 小林 一平
- 小樽水産高校栽培漁業科 3年 堀 奏玲
- (株) 海洋探査執行役員 小笠原 誠
- 岩見沢農業高校農業科学科 3年 仁平 佳太
- 滝川工業高校電子機械科 3年 大橋 悠希
- 岩見沢農業高校農業土木工学科教諭 三品 歩
- (株) 砂子組企画営業部長 真坂 紀至

参加対象

- ・空知、石狩、後志管内の専門高校で職業学科を担当する教諭等
- ・道内企業・経済団体等の関係者(管内不問)
- ・その他、産業界に関心のある教育関係者(管内不問)
- ・道内の専門高校で学ぶ代表生徒(関係校には別途連絡)

【主催】 北海道教育庁学校教育局高校教育課

【協力】 北海道小樽水産高等学校

【図3-2】チラシ(道央)

道東の高校教員と産業界関係者が、産学連携の意義や方法等について理解を深めるイベントです。

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」 産学連携シンポジウム

7月24日(木)
9:30~15:00

会場 帯広信用金庫中央支店
3階セミナールーム
(帯広市西3条南14丁目1-1)

内容

- ・説明 「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクトの概要等について」
北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係
- ・発表① 「学科間連携による学びから私たちが得たこと」
更別農業高校生活科学科 2年 安田 恋音
- ・発表② 「マイスター・ハイスクール事業における地域連携と今後の本校の在り方」
厚岸翔洋高校海洋資源科教諭 飯田 直登
- ・発表③ 「産業界から見た産学連携の意義～持続可能な連携に向けて～」
帯広信用金庫地域サポート部調査役 清水 豊

パネルディスカッション 「サステナブルな産学連携に向けてできること～それぞれの立場から～」
司会: 北海道教育庁学校教育局高校教育課 産学連携コーディネーター 月館 海斗

パネリスト: 更別農業高校農業科教諭 原 義幸
更別農業高校生活科学科 2年 安田 恋音
帯広信用金庫地域サポート部調査役 清水 豊
厚岸翔洋高校海洋資源科教諭 飯田 直登
厚岸翔洋高校海洋資源科 3年 藤田 丁史
旭川工業高校定時制建築土木科 3年 後藤 大輝
有限会社レイブプロジェクト代表 清川 博一

協議① 「産学連携のために取り組んでいること」
協議② 「産学連携を持続可能にするためのアイデア」
※参加生徒: 産学連携コーディネーターとともに産学連携について考える

参加対象

- ・秋、十勝、釧路、根室管内の専門高校で職業学科を担当する教諭等
- ・道内企業・経済団体等の関係者(管内不問)
- ・その他、産業界に関心のある教育関係者(管内不問)
- ・道内の専門高校で学ぶ代表生徒(関係校には別途連絡)

【主催】 北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係
【協力】 北海道更別農業高等学校

【図3-3】チラシ(道東)

道南の高校教員と産業界関係者が、産学連携の意義や方法等について理解を深めるイベントです。

産学連携 シンポジウム【道南】

7/25(金)
9:30~15:00

会場 室ガス文化センター4階大会議室
(室蘭市幸町6番23号)

内容

- ◆説明(9:40~9:50) 「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクトの概要等について」
教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係
- ◆発表(9:50~10:35) ①「持続可能な産学連携モデル(M-Con)の構築と実践」
室蘭工業高校建設科教諭 鈴木 圭吾
②「地域のインフラを守り続けるため」
室蘭市建設業協会会長 橋詰 昌明
③「企業や水産高校と連携した学びで得たもの」
大野農業高校農業科学科 2年 野田 和吏

パネルディスカッション(10:50~12:00)
テーマ: 「サステナブルな産学連携に向けてできること～それぞれの立場から～」
司会: 教育庁学校教育局高校教育課産学連携コーディネーター 月館 海斗

パネリスト8名

- ① 室蘭工業高校建設科教諭 鈴木 圭吾
- ② 室蘭工業高校電子機械科 3年 渡辺 陸斗
- ③ 室蘭市建設業協会会長 橋詰 昌明
- ④ 大野農業高校農業科学科教諭 吉川 茂樹
- ⑤ 大野農業高校農業科学科 2年 野田 和吏
- ⑥ 函館水産高校水産食品科 3年 柳屋 唯莉
- ⑦ 函館水産高校水産食品科 3年 山口 彩夏
- ⑧ 函館水産高校水産食品科 3年 山口 彩夏

協議①: 「産学連携のために取り組んでいること」
協議②: 「産学連携を持続可能にするためのアイデア」
※生徒も産学連携コーディネーターと共に、持続可能な産学連携について考える時間です。

参加対象

- ◆胆振、日高、渡島、檜山管内の高校教員等
- ◆道内企業・経済団体等の関係者(管内不問)
- ◆その他、産業界に関心のある教育関係者(管内不問)
- ◆専門高校で学ぶ代表生徒(関係校には別途連絡)

【主催】 北海道教育庁学校教育局高校教育課
【協力】 北海道室蘭工業高等学校

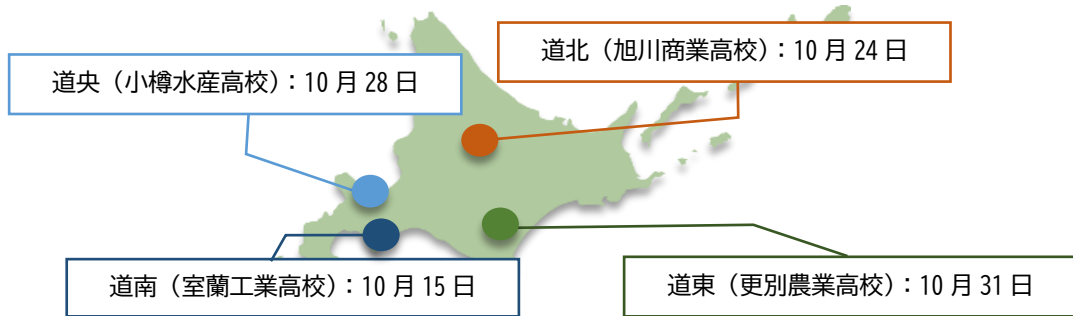
【図3-4】チラシ(道南)

ウ ONE-TEAM フォーラム [令和7年10月開催：4会場]

専門高校の教員や産業界関係者が、産学連携の意義や方法等について理解を深めることを目的として拠点校を会場に開催し、参加者は出前授業の見学を通じて、産学連携の具体や生徒の変容などのイメージを描いた上でグループ協議を行った。

4会場合わせて143名（教員94名、産業界関係者49名）が参加した。

（各会場の実施状況の詳細は、8ページ以降のフォーラムレポートを参照）



出前授業を見学する参加者（旭川商業高校）



ドローンを用いた出前授業（更別農業高校）

◆参加者の主な感想

【高校教員】

- 教育委員会・企業・大学が同じ場で意見交換し、地域・教育・産業界が一体となった議論ができた点は非常に有意義だった。一方で、現状の課題が多岐にわたり、解決への道筋がまだ見えにくいと感じた。また、人手不足や地元離れ、企業と学校との情報ギャップなどの課題は共有されたものの、具体的な解決の仕組みについては今後の検討が必要だと感じた。（道南）
- 学校間での情報共有の機会がさらに増えると、他校の取組を参考にしやすくなると思う。また、教員同士の交流や意見交換の場を増やすことで、より実践的な連携が進むと感じた。（道東）
- 各校の特色ある取組を知ることができ大変参考になった。今後もこうした機会を通じて、学校・地域・産業界が一体となった人材育成を進めていきたい。（道東）

【産業界関係者】

- 企業側の参加者が少ないので、もう少し周知の方法に工夫が必要なのかなと思った。（道南）
- 非常に素晴らしいフォーラムであり、関係者の理念を感じた。（道央）

【経済団体関係者】

- 産業界と学校がつながる機会の創出が大切であり、専門高校の魅力を多くの人に深く知ってもらう機会として、このプロジェクトはとても重要だと思う。（道南）

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト 「ONE-TEAMフォーラム(道南)」 フォーラムレポート



令和7年10月15日(水)開催

室蘭工業高校を会場に、産業界関係者と専門高校の教員が意見交換等を実施し、産学連携の意義等について理解を深めるイベント「ONE-TEAMフォーラム(道南)」を開催しました。

産業界等の関係者13名、道南地域の高校教員21名の合わせて34名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので参考にしてください。

フォーラムの内容

◆説明(出前授業の実施に至った経緯や目的等)

- ① 関西電力(株)グローバルEX事業本部
再生可能エネルギー部門 北海道事務所 所長 住友 真一郎 様
- ② 室蘭工業高校電気科 寺島 賢紀 教諭

◆出前授業の見学

- ・対象学級：電気科2年(36名)
- ・内容：再生可能エネルギーと洋上風力発電について
- ・授業者：関西電力(株)グローバルEX事業本部
再生可能エネルギー部門 北海道事務所 副所長 村上 絢亮 様



【出前授業の目的等を参加者に説明する寺島教諭】



【出前授業を見学する参加者】

◆テーマ別協議(進行：北海道教育庁学校教育局高校教育課 産学連携コーディネーター 月館 海斗) 【協議テーマ】

- A 地域の“働き手不足”に学校と企業がどう応えるのか
- B 変化する“地域産業”に対応できる人材をどう育てるのか
- C 産業界との協働を通して地域への愛着や誇りをどう醸成するのか



【高校教員と産業界関係者による活発な協議】



【他のグループに協議内容をシェア】

参加者の声

【アンケート結果(一部)】

- ▶ 教育委員会・企業・大学が同じ場で意見交換し、地域・教育・産業が一体となった議論ができた点は非常に有意義だった。(専門高校教員)
- ▶ 今後は、デジタル技術を組み合わせた授業を展開していきたいと考えており、生徒が「技術で社会課題を解決できる」という実感を得られる学びを目指したい。(専門高校教員)
- ▶ 生徒が、企業の方から産業構造の変化について学び、「こんな仕事もある」「多様な業界や分野がある」と想像できることは、キャリア教育においても重要なことだと思った。こうした機会を積極的に取り入れている室蘭工業高校の教育の素晴らしさを実感した。(経済団体関係者)

【図4-1】フォーラムレポート(道南)

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト 「ONE-TEAMフォーラム(道北)」 フォーラムレポート



令和7年10月24日(金)開催

旭川商業高校を会場に、産業界関係者と専門高校の教員が意見交換等を実施し、産学連携の意義等について理解を深めるイベント「ONE-TEAMフォーラム(道北)」を開催しました。

産業界等の関係者16名、道南地域の高校教員21名の合わせて37名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので参考にしてください。

フォーラムの内容

◆説明(出前授業の目的等について)

- ・北海道旭川商業高等学校 国際ビジネス科 水野 龍生 教諭

◆出前授業の見学

- ・対象学級：国際ビジネス科2年(40名)
- ・科目：「国際コミュニケーション」(学校設定科目)
- ・内容：観光ビジネスの実際について
- ・授業者：株式会社星野リゾート 北海道統括総支配人 相内 学 様



【出前授業の目的等を説明する水野教諭】



【出前授業を見学する参加者と講師の相内様】

◆テーマ別協議(進行：北海道教育庁学校教育局高校教育課 産学連携コーディネーター 月館 海斗)

【協議テーマ】

- A 地域の“働き手不足”に学校と企業がどう応えるのか
- B 変化する“地域産業”に対応できる人材をどう育てるのか
- C 産業界との協働を通して地域への愛着や誇りをどう醸成するのか



【高校教員と産業界関係者による活発な協議】



【他のグループに協議内容をシェア】

参加者の声

【アンケート結果(一部)】

- ▶ 事前学習、現地見学、まとめなど、複数回にわたって構造的に産業界と連携した授業が行われていて魅力を感じた。自校でも構造的でつながりの深い授業を取り入れていきたい。(専門高校教員)
- ▶ 企業側がインターンシップや見学会、出前授業などに積極的な姿勢だったのが驚きだった。今後は積極的に企業と関わりをもっていこうと思った。(専門高校教員)
- ▶ 定期的に学校と民間企業が情報交換を行い、お互いの立場で何を望むか、何が協力できるかを話し合う場や、他校や他地域の好事例を聞ける機会があればよい。(経済団体関係者)

【図4-2】フォーラムレポート(道北)

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト 「ONE-TEAMフォーラム（道央）」 フォーラムレポート



令和7年10月28日（火）開催

小樽水産高校を会場に、産業界関係者と専門高校の教員が意見交換等を実施し、産学連携の意義等について理解を深めるイベント「ONE-TEAMフォーラム（道央）」を開催しました。

産業界等の関係者8名、道央地域の高校教員25名の合わせて33名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので参考にしてください。

フォーラムの内容

◆説明（（株）海洋探査との連携の経緯と状況）

小樽水産高校栽培漁業科 古賀 英裕 教諭

◆講演（授業）の見学

・対象学級：栽培漁業科2年（33名）

・内容：「課題解決とは？」

・講演者：①（株）海洋探査
取締役 小笠原 誠 様

② 北海道経済連合会
ゼロカーボン・産業立地グループ 部長 山本 基 様



【連携の経緯等を説明する古賀教諭】



【講演の様子（小笠原氏）】



【講演の様子（山本氏）】

◆テーマ別協議（進行：北海道教育庁学校教育局高校教育課 産学連携コーディネーター 月館 海斗）

【協議テーマ】

- A 地域の“働き手不足”に学校と企業がどう応えるのか
- B 変化する“地域産業”に対応できる人材をどう育てるのか
- C 産業界との協働を通して地域への愛着や誇りをどう醸成するのか



【高校教員と産業界関係者による活発な協議】



【他のグループに協議内容をシェア】

参加者の声

【アンケート結果（一部）】

- ▶ 企業側が、インターンシップや見学会、出前授業などに積極的な姿勢だったのが驚きだった。もっと積極的に企業と関わりをもちたいと思った。（専門高校教員）
- ▶ 今回のフォーラムのように、企業が、学校と協力して課題を出し合い、話し合う機会を今後も増やしてほしいと感じた。また、今後は、企業側からもこうした機会をつくってみたい。（企業関係者）
- ▶ 他の専門高校の取組を知ることができ、大変参考になった。（専門高校教員）
- ▶ 今回のフォーラムをきっかけに、学校が積極的に企業に関わることで連携をブラッシュアップできると感じた。（専門高校教員）

【図4-3】フォーラムレポート（道央）

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト 「ONE-TEAMフォーラム(道東)」 フォーラムレポート



令和7年10月31日(金)開催

更別農業高校を会場に、産業界関係者と専門高校の教員が意見交換等を実施し、産学連携の意義等について理解を深めるイベント「ONE-TEAMフォーラム(道東)」を開催しました。

産業界等の関係者12名、道東地域の高校教員27名の合わせて39名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので参考にしてください。

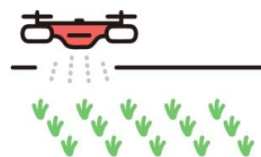
フォーラムの内容

◆説明(出前授業に至った経緯や目的等)

- ① (有)レイブプロジェクト代表 請川 博一 様
- ② 更別農業高校農業科 原 義幸 教諭

◆講演(授業)の見学

- ・対象学級：農業科2年(14名)
- ・内容：「道東圏域での大規模畑作によるドローンを活用した農薬散布の実際」
- ・講演者：(有)レイブプロジェクト代表 請川 博一 様



<連携について説明する請川様(左)と原教諭(右)> <ドローン活用についての出前授業>

<出前授業を見学する参加者>

◆テーマ別協議(進行：北海道教育庁学校教育局高校教育課 産学連携コーディネーター 月館 海斗) 【協議テーマ】

- A 地域の“働き手不足”に学校と企業がどう応えるのか
- B 変化する“地域産業”に対応できる人材をどう育てるのか
- C 産業界との協働を通して地域への愛着や誇りをどう醸成するのか



<高校教員と産業界関係者による活発な協議>

<月館コーディネーターによる協議のまとめ>

参加者の声

【アンケート結果(一部)】

- ▶ 様々な企業、学科の先生方から情報を提供いただき、有意義なフォーラムとなった。(専門高校教員)
- ▶ 今後は、地域企業との協働を通じて、生徒が社会で活躍する姿を具体的にイメージできるような学びを実践してみたいと感じた。(専門高校教員)
- ▶ こうしたイベントの取組は素晴らしいと感じた。農業高校の授業を見ながら、学校の取組についても理解が深まった。(企業関係者)
- ▶ 本プロジェクトへ多くの地元企業が参加することや、中学校を巻き込んだ取組を行うことが必要だと感じた。(経済団体関係者)

【図4-4】フォーラムレポート(道東)

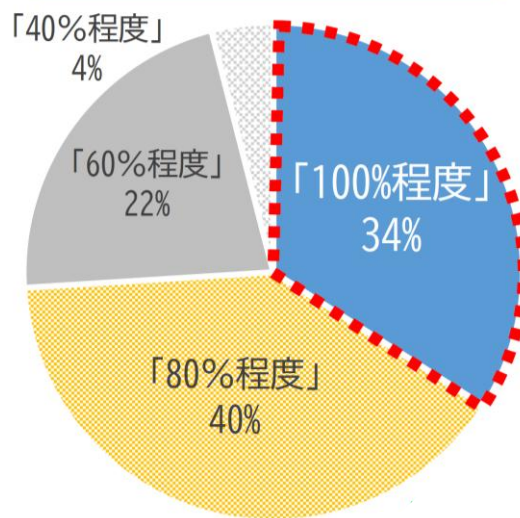
「産学連携シンポジウム」と「ONE-TEAM フォーラム」の比較・分析 ～満足度・充実度に関する参加者アンケートの結果から～

プロジェクト2年目となる本年度は、道内4圏域で「産学連携シンポジウム」と「ONE-TEAM フォーラム」といった2つのイベントを開催した。

両イベントにおける参加者アンケートの結果を比較すると、拠点校を会場として開催し、参加者が出前授業を見学するなどして生徒の活動に触れた「ONE-TEAM フォーラム」の方が、満足度・充実度が高いことが分かった。(図5-1及び図5-2を参照)

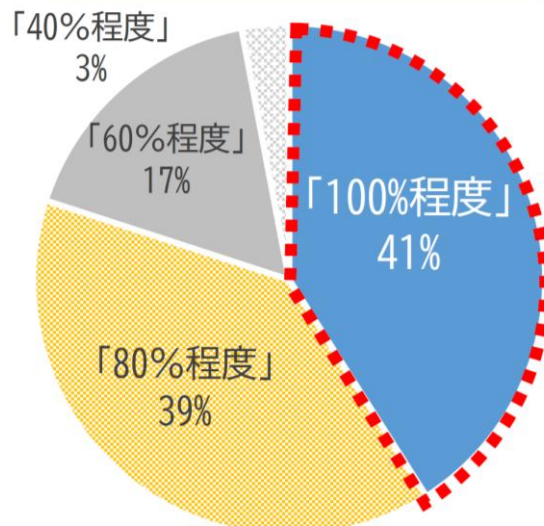
この要因として、参加者が実際に出前授業を見学したことで、産学連携を身近に感じられたことや、具体的な連携のイメージを描けたことなどがアンケートの記述等から読み取れた。

産学連携シンポジウム



【図5-1】産学連携シンポジウムにおける満足度・充実度（アンケート結果）

ONE-TEAM フォーラム



7%上昇

【図5-2】ONE-TEAM フォーラムにおける満足度・充実度（アンケート結果）

エ 専門高校魅力発見ミーティング [令和7年7月10日(木)開催]

中学校教員や中学生保護者の専門高校に関する理解を深めるため、指導主事が7つの職業学科の特徴を説明するとともに、産学連携コーディネーターのファシリテートにより専門高校の在校生と卒業生がトークセッションを行うオンラインイベントを開催した。

さらに、中学生を含めた関係者がいつでも自由にミーティングの様子を見られるよう、ミーティング終了後にはYouTubeによるオンデマンド配信を行い、現在も視聴可能である。

**中学生保護者・中学校教員向け
専門高校魅力発見
ミーティング**
中学生の進路選択に役立つ

中学生の保護者の方や中学校の先生方に、専門高校の価値や魅力を発信する、専門高校魅力発見ミーティングを開催します。

商業 家庭 農業 工業 看護 水産 福祉

令和7年(2025年) **7月10日(木) 13:30~16:05** ※Zoomによるオンライン

日程

(1) 農業科 (13:30~13:50)	---15分休憩---
(2) 家庭科 (13:50~14:10)	(5) 福祉科 (15:05~15:25)
(3) 商業科 (14:10~14:30)	(6) 工業科 (15:25~15:45)
(4) 看護科 (14:30~14:50)	(7) 水産科 (15:45~16:05)

POINT 01 参加者は出入り自由 **POINT 02** 在校生や卒業生によるトークセッション

参加対象

- (1) 中学生の保護者、中学校教員で参加を希望する者
- (2) 市町村教育委員会職員で参加を希望する者
- (3) その他、専門高校に関心のある関係者等
- (4) 教員養成課程を有する大学に在籍する大学生

参加申込

右の2次元コードから、Zoomに接続する端末一台ごとに、参加申込みを行って下さい。【7月3日(木)×切】

【主催】
北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

HOKKAIDO BOARD OF EDUCATION

**産学連携コーディネーターと
在校生や卒業生によるトークセッション (各学科ごと)**

農業科
更別農業高校
生活科学科2年 安田 恋音
能登農場 能登 亮太
(旭川農業高校農業科学科卒)

商業科
函館商業高校
情報処理科3年 宮崎 蒼汰
小樽商科大学学部夜間主コース
横濱 大和
(札幌東商業高校情報処理科卒)

家庭科
江別高校
生活デザイン科3年 今 葵月
光塩学園女子短期大学保育科
立石 乙美
(当別高校家政科卒)

看護科
稚内高校
衛生看護科3年 米木 伶於那
札幌東徳州会病院 武藤 かりん
(美瑛聖華高校看護科卒)

工業科
釧路工業高校
建築科3年 猪股 実莉
株式会社北海電工 長谷川 亜美
(小樽未来創造高校
機械電気システム科卒)

水産科
小樽水産高校
海洋漁業科3年 更谷 奏斗
函館水産高校教諭 工藤 聖矢
(函館水産高校機関工学科卒)

福祉科
置戸高校
福祉科3年 舟根 紗来
西門山病院介護医療院
戸塚 楓佳
(置戸高校福祉科卒)

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」
の取組はこちらのWebページから
https://www.sakori.pref.hokkaido.lg.jp/W/33/sangai_top.html

HOKKAIDO BOARD OF EDUCATION

【図6】チラシ（専門高校魅力発見ミーティング）

中学生の進路選択に役立つ
専門高校魅力発見ミーティング

令和7年7月10日に開催した、専門高校の価値や魅力を発信する、オンラインイベント「専門高校魅力発見ミーティング」を視聴することができます。

農業高校の学びとは
各学科の学びや進路先などについて説明

各学科の魅力を動画で紹介

専門高校の在校生や卒業生と
道教委の産学連携コーディネーター
によるトークセッション

商業 家庭 農業 工業 看護 水産 福祉

各学科の紹介とトークセッションの動画はこちらのWebページから
https://www.sakori.pref.hokkaido.lg.jp/W/33/sangai_top.html

HOKKAIDO BOARD OF EDUCATION

ミーティングの動画は
道教委webページで公開中

【図7】チラシ（専門高校魅力発見ミーティング：オンデマンド配信の案内）

オ 高校生チャレンジ in どさんこプラザ [令和7年12月5日(金)、6日(土)開催]

農業・商業・水産科の生徒が、学校や学科の垣根を越えて連携し、企業と協働で開発した商品を、JR 札幌駅構内にある北海道のアンテナショップ「どさんこプラザ札幌店」で販売し、6次産業化を学ぶ機会を創出した。

◆事前情報交換会

11月20日(木)には参加校による事前情報交換会を行い、北海道教育委員会が作成したチラシやポスターの内容について共有した。また、販売協力校の生徒が全ての商品についてお客様にしっかりと説明できるよう、商品提供校の生徒から、商品のPRポイントなどの説明を行い、情報交換を行った。

【商品提供校】

函館水産高校、富良野高校、下川商業高校、更別農業高校、本別高校、千歳高校

【販売協力校】

千歳高校、富良野高校、更別農業高校

◆販売会当日

商品の陳列やPR方法についてアイデアを出し合い、全ての商品を完売した。



接客する生徒



参加生徒と教育長(中央)

◆事後情報交換会

販売会の2日後、12月8日(月)には事後情報交換会を行った。販売会を振り返り、参加した生徒からは、「事前に他校の商品をもっと研究すべきだった」という反省や、「商品のレシピなどを書いたチラシを作成するとよかった」などの改善案が出された。

また、商品提供校の生徒からは、「昨年より価格が上がった商品を、お客様はどのように受け止めていたか」など、当日のお客様の反応について、販売会に参加した生徒に対して質問するなど、積極的な交流が見られた。

◆来場者の声

当日は多くの方が来場し、生徒に向けた感想や応援の声が多数寄せられた。

【感想の一部】

- ・分かりやすい説明のおかげで商品の特徴が理解でき、購入のきっかけになった。
- ・生徒の皆さんは、積極的で自発性があり素晴らしかった。
- ・これからもたくさんチャレンジして、商品を開発してほしい。
- ・誇りをもってこれからも頑張してほしい。



北海道
教育委員会

高校生チャレンジ in どさんこプラザ

2025年12/5(金)6(土) どさんこプラザ札幌店

函館あさひ ぶりほぐし

函館水産高校 × 株式会社 合食
函館第一工場



道産ブリの活用、地域活性化を念頭に、函館水産高校の生徒が試行錯誤を重ねた試作品を地元企業の株式会社合食様の力をお借りして商品化しました。デザインやラベルも道南の業者で、ブリの生命力と地域の想いが強く結び付いた一品です。程良い塩味と酒粕の風味香る一品です。

ヒメナッツ

富良野高校 × 株式会社 野菜田



地元企業の野菜田様と商業クラブ3年生3名が協働で開発しました。化学調味料不使用でノンフライスナックです。1個で1食分の野菜の栄養素が採れます。

さつまいもうどん

下川商業高校 × 有限会社
たばた商事



恒例となった丸井今井札幌本店の下川商業高校販売実習会に向けて、下川町にある手延べ麺の製麺所と協働して開発したオリジナルうどんです。下川産小麦「はるゆたか」に、さつまいもの甘みがほのかに香る紫色の麺が特徴です。

さらのうばんカレー

更別農業高校 × 北海道エア・ウォーター・
アグリ株式会社
十勝更別工場



更別村は北海道一の畑作地帯である十勝の南西部にあります。本校で人気の加工品である更農産トマトで製造したトマトジュースと5つの野菜（じゃがいも、にんじん、たまねぎ、かぼちゃ、コーン）を使用した製品です。トマトの別名「蕃茄（ばんか）」と「カレー」を組み合わせで名付けています。今年発売した新商品です。

まるで肉?! 混ぜるだけ 担々麺の具 まるで肉?! 混ぜるだけ ジャージャー麺の具

本別高校 × 有限会社浜田旅館



総合的な探究の時間「とかち創生学」の活動で、陸別町の浜田旅館様と協働で開発しました。地元・本別町産の大豆ミートをふんだんに使用し、「まるで肉?!」と驚くほどの食べ応えを実現。ゆでた麺にそのままかけるだけで、ゴマの風味豊かな本格的な担々麺と特製の甘辛い味噌が食欲をそそる本格的なジャージャー麺が手軽に完成します。

千歳オリジナル缶バッジ

千歳高校

×
千歳市観光協会

「カプセルトイで地域活性化～千歳の新たなビジネスチャンス～」というテーマで北海道商業クラブ研究発表大会で全道1位を獲得した千歳高校オリジナルカプセルトイです。キャラクターマーケティングを用いて千歳の特色を前面に押し出した缶バッジです。

【図8】チラシ（高校生チャレンジ in どさんこプラザ）

高校生チャレンジ in どさんこプラザ

令和7年12月5日（金）～6日（土）札幌店



1 事前準備、事前情報交換会（11月20日）

事前情報交換会では、販売協力校の生徒が、他校の商品についても説明できるように、商品提供校から商品のPRポイントや調理方法などについて説明を受けました。また、事前に各学校が作成した商品PR用の動画やPOP、ポスターやチラシの内容について確認しました。

【商品提供校】

函館水産高校 富良野高校
下川商業高校 更別農業高校
本別高校 千歳高校

【販売協力校】

千歳高校 富良野高校 更別農業高校



2 販売会の様子（12月5日、6日）

商品の陳列やPR方法など、改善を加えながら取り組み、全ての商品が完売しました。



【開店前に商品を陳列】



【カプセルトイも設置】



【教育長も応援に来ました】



【商品の説明をする生徒】



【お客様を呼び込みます】



【商品が完売していきます】

3 事後情報交換会（12月8日）

販売会の2日後に、Zoomで事後情報交換会を行いました。今回の販売会を振り返り、商品提供校に販売時の様子を伝えたり、次年度に向けて、「もっとリアルに商品情報を伝えるために、事前に試食ができないか」という意見などが出されました。

また、商品を提供した学校からは、「完成したばかりの商品だったので、お客さまの反応を知りたい」など、お客様の反応についての質問が出されました。

4 来場者の声

来場者からは、「分かりやすい説明で商品の特徴が理解できたので、購入のきっかけになった。」「積極的に自発性があり、素晴らしい。」「気軽に立ち寄れる感じでよかった。」といった生徒に対する感想や、「これからもたくさんチャレンジして、商品を開発してほしい。」「誇りをもってこれからも頑張ってください。」などの応援の声が寄せられました。

【図9】まとめ（高校生チャレンジ in どさんこプラザ）

カ 専門高校ユナイテッド [令和7年12月10日(水)開催]

地域創生を支える人材育成の充実を図るため、福井県と熊本県の教育委員会と連携し、専門高校の生徒や教員が、道や県の垣根を越えて、地域産業の魅力や産学連携における先進的な取組を理解するオンラインの交流イベントを初めて開催し、3つの道県の専門高校で学ぶ生徒14名、教員13名が参加した。

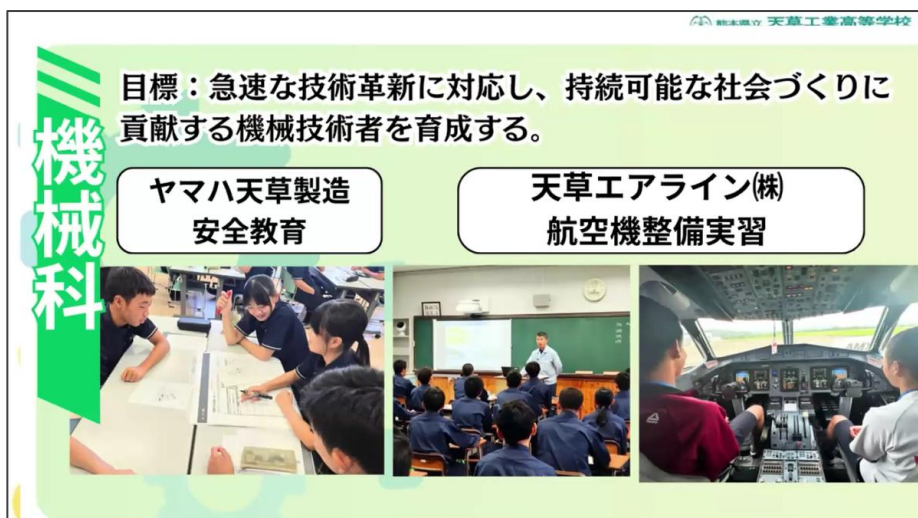
(実施状況の詳細は、18ページの「専門高校ユナイテッド」レポートを参照)



【図10】専門高校ユナイテッド参加道県



【図11】発表資料（北海道：更別農業高校）



【図12】発表資料（熊本県：天草工業高校）

マイスター・ハイスクール普及促進事業 「専門高校ユナイテッド」レポート

令和7年12月10日（水）開催

専門高校で学ぶ生徒等が、道や県の垣根を越えて、地域産業の魅力や産学連携における先進的な取組を理解することで、地域創生を支える人材育成の充実を図ることを目的に、「専門高校ユナイテッド」をオンラインで開催しました。

北海道、福井県、熊本県の3つの道県の専門高校で学ぶ生徒14名、教員13名が参加しました。ここでは取組の実施状況を紹介します。

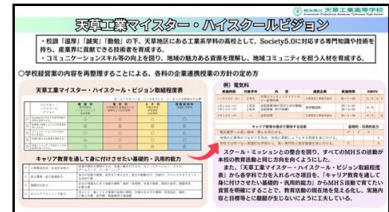
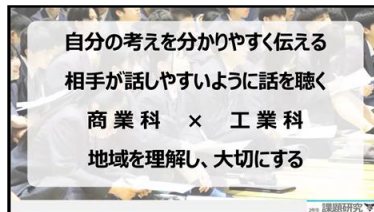
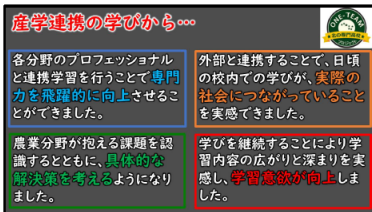
ミーティングの内容

◆生徒代表挨拶

北海道旭川商業高等学校 流通ビジネス科 3年 大橋 くるみ さん

◆発表

北海道：北海道更別農業高等学校 農業科 2年 仲本 太陽 さん
 福井県：福井県立武生商工高等学校 工業科 2年 山腰 来夢 さん
 商業科 2年 村上 莉梨 さん
 熊本県：熊本県立天草工業高等学校 電気科 3年 松本 雄吾 さん



説明資料
(北海道更別農業高等学校)

説明資料
(福井県立武生商工高等学校)

説明資料
(熊本県立天草工業高等学校)

◆協議

<生徒> テーマ：地域産業の魅力や印象に残っている産学連携の事例、将来の目標
 <教員> テーマ：学科の特性に応じた産学連携の好事例の紹介

協議テーマ	質問	回答
1. 【産学連携】 「今の学びを、将来どんな形で見たい? (産業界にどうつながりたい?)」	自動販売機がどこに設置されているか? (コンビニ、スーパー、駅、学校など)	商業科の生徒は、コンビニ、スーパー、駅、学校などに設置されている自動販売機の場所を調査し、その理由を考えた。
2. 産学連携の事例について	「産学連携の事例について、どのような事例があるか?」	商業科の生徒は、コンビニ、スーパー、駅、学校などに設置されている自動販売機の場所を調査し、その理由を考えた。
3. 産学連携の事例について	「産学連携の事例について、どのような事例があるか?」	商業科の生徒は、コンビニ、スーパー、駅、学校などに設置されている自動販売機の場所を調査し、その理由を考えた。
4. まとめ	「今日の学びで、印象に残ったこと」	「産学連携の事例について、どのような事例があるか?」

生徒の協議シート

協議テーマ	質問	回答
1. 【産学連携】 「今の学びを、将来どんな形で見たい? (産業界にどうつながりたい?)」	自動販売機がどこに設置されているか? (コンビニ、スーパー、駅、学校など)	商業科の生徒は、コンビニ、スーパー、駅、学校などに設置されている自動販売機の場所を調査し、その理由を考えた。
2. 産学連携の事例について	「産学連携の事例について、どのような事例があるか?」	商業科の生徒は、コンビニ、スーパー、駅、学校などに設置されている自動販売機の場所を調査し、その理由を考えた。
3. 産学連携の事例について	「産学連携の事例について、どのような事例があるか?」	商業科の生徒は、コンビニ、スーパー、駅、学校などに設置されている自動販売機の場所を調査し、その理由を考えた。
4. まとめ	「今日の学びで、印象に残ったこと」	「産学連携の事例について、どのような事例があるか?」

教員の協議シート

参加者の声

【アンケート結果（一部）】※回答数27

- ▶ 他学科の生徒の生き生きとした表情を見たり、日々の学びを知ったりすることで、専門高校の重要さと地元愛を感じることができました。（専門高校教員）
- ▶ 初めてこういう体験をしました。私は他の県の人と交流する機会がなく、話を聞く機会もなかったため、とてもいい経験になりました。同じ農業でも栽培するものが全く違ったりして、その場の環境にあった作物栽培が大切なんだと改めて考えさせられました。（専門高校生徒）
- ▶ 県を越えた交流、学科を越えた交流はとても刺激的です。様々な取組を知ることで自らの取組を更に発展させるきっかけをもらえました。（専門高校教員）

【図13】「専門高校ユナイテッド」レポート

キ S7サミット（専門高校代表者会議）〔令和7年12月15日（月）開催〕

7つの職業学科（農業・工業・商業・水産・家庭・看護・福祉）の代表校長や拠点校の校長が、第29期北海道産業教育審議会建議の内容を共有し、今後の本道産業教育の在り方等について理解を深めることを目的にしたサミットを開催した。

北海道産業教育審議会の委員4名（会長、副会長、中学校長、経済団体関係者）に参加いただき、今後の産学連携の在り方や専門高校の魅力化などについて意見を交わした。



【図14】S7サミットのロゴマーク



サミット開会の様子

◆説明

内 容：第29期北海道産業教育審議会建議

「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」について

説明者：第29期北海道産業教育審議会会長（小樽商科大学教授） 岡部 善平 氏

◆情報提供

内 容：専門高校の魅力化や産学連携に係る国の動向等について

説明者：北海道教育庁学校教育局高校教育課課長補佐 石田 暁

◆意見交換

- ・協議題①：建議を踏まえた北海道の産業教育の在り方について
- ・協議題②（テーマ別）

A：専門高校の魅力化・魅力発信に向けて取り組むべきこと

〔進行〕第29期北海道産業教育審議会副会長（武蔵女子大学専任講師）

明田川 知美 氏

B：生徒の学びを深める持続可能な産学連携に向けて取り組むべきこと

〔進行〕産学連携コーディネーター

月館 海斗



協議②（テーマA）の様子



協議②（テーマB）の様子

ク 産業実務家教員ミーティング [令和8年1月20日(火)]

産業実務家教員リスト（令和6年度から募集開始）の登録企業を含む産業界等の関係者が、産学連携の意義や事例を共有して互いの知見を深め、専門高校における産学連携のさらなる充実・発展を図ることなどを目的としたオンラインミーティングを開催し、産業界関係者ら13名が参加した。（詳細は21ページのミーティングレポートを参照）

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」
産業実務家教員ミーティング
 令和8年
1月20日(火) Zoom開催 14:00～15:55
 産業界等の関係者が、産学連携の意義や事例を共有し、互いの知見を深め、専門高校における産学連携のさらなる充実・発展を図ります

【産業実務家教員とは】
 本事業では、旅費や謝金が必要で、専門高校との連携が可能な、各産業界に在籍する職人又は事業所のことを「産業実務家教員」と呼んでいます。
 産業界に対して高度な知識・技術や、実践的・体験的な学習機会を提供することを目的とし、継続的で専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる関係を構築することを目指します。

【参加対象】
 (1) 産業実務家教員
 (2) 学校と産業界の連携に関心のある産業界の方

イベント内容

説明 (14:05～14:25)
 「第29期北海道産業教育審議会建議『本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査』について」
 第29期北海道産業教育審議会副会長
 (北海道武蔵女子大学 専任講師) 明田川 知美 氏

発表1 (14:25～14:45)
 「高校との連携で企業が得たもの」
 ニデックSVプローブ電子株式会社
 管理部 人事総務担当責任者 西山 香織 氏

発表2 (14:45～14:55)
 「建設業界を目指したきっかけ～産学連携が生んだ人とのつながり～」
 北海道苫小牧工業高等学校 建築科3年 堂畑 麗音

協議 (14:55～15:35)
 「高校との連携の望ましい在り方」

全体共有 (15:35～15:50)
 各グループの協議内容を発表

【問合せ先】北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係
 Tel: 011-204-5705

【図15】チラシ（産業実務家教員ミーティング）

産業実務家教員に登録後の活動①

インターンシップ受入れ

インターンシップ報告会

【図16】発表資料（ニデックSVプローブ電子株式会社）



産業界と連携した学びによる自身の変容等について発表する
 苫小牧工業高校の生徒（中段中央）と参加者

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト 「産業実務家教員ミーティング」 ミーティングレポート



令和8年1月20日（火）開催

産業界等の関係者が、産学連携の意義や事例を共有し、互いの知見を深めるとともに、横の連携を築くことで、専門高校における産学連携のさらなる充実・発展を図ることを目的に、産業実務家教員ミーティングを開催しました。

全道から産業実務家教員など13名に参加いただきました。ここでは、本ミーティングの実施状況を紹介します。

ミーティングの内容

◆説明

- ・説明：第29期北海道産業教育審議会建議
「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」について
- ・説明者：第29期北海道産業教育審議会副会長（北海道武蔵女子大学 専任講師） 明田川 知美 氏

◆発表①

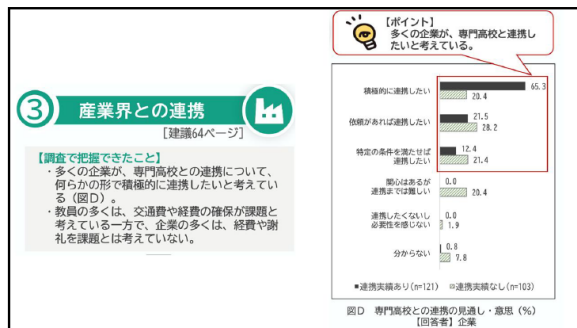
- ・演題：高校との連携で企業が得たもの
- ・発表者：ニデックSVプロープ電子株式会社 管理部 人事総務担当責任者 西山 香織 氏

◆発表②

- ・演題：建設業界を目指したきっかけ～産学連携が生んだ人とのつながり～
- ・発表者：北海道苫小牧工業高等学校 建築科3年 堂畑 麗音 さん

◆協議

- ・テーマ：高校との連携の望ましい在り方
- ・進行役：北海道教育庁学校教育局高校教育課産学連携コーディネーター 月館 海斗



説明資料

（第29期北海道産業教育審議会 明田川様）

講演資料

（ニデックSVプロープ電子株式会社 西山様）

参加者の声

【アンケート結果（一部）】※回答数6

- ▶ とても良い発表内容でした。建設業界はまだまだ女性の活躍が少ないので、発表してくれた堂畑さんのような方が増えることは嬉しく思います。
- ▶ 社会人も学生も、目的をもつことで進むべき道が変わるという良い事例でした。
- ▶ 高校と連携を始めてからのスケジュールの共有や規模感について知ることができて良かったです。
- ▶ 自社の業種（農業）以外の水産・建築・製造などの分野での人材育成・確保の課題や、産学連携の具体的な方法等を知ることができたので良かったです。

【図17】「産業実務家教員ミーティング」ミーティングレポート

ケ 北の専門高校 ONE-TEAM フェスタ（成果発表会）〔令和8年2月13日（金）〕

札幌コンベンションセンターを会場に、専門高校の価値や魅力を発信するとともに、専門高校を取り巻く人と人をつなげることを目的として、本プロジェクトの成果を共有する産学交流イベントを開催した。

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

「北の専門高校ONE-TEAMフェスタ」

レポート



令和8年2月13日（金）開催

専門高校の価値や魅力を発見し、産業界等と専門高校とのサステナブルな産学連携につなげるため、「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の成果を共有し、産学の交流を図るイベント「北の専門高校ONE-TEAMフェスタ」を開催しました。

専門高校の生徒34名、産業界等の関係者51名、専門高校の教員83名の合わせて168名に参加いただいたほか、動画配信では、86名の方々に視聴いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介いたしますので参考にしてください。

フェスタの内容

◆**基調講演**「『海とまちを近くする会社』の地域づくり実践」
 (株)LAUGH GROUP代表取締役社長 大坪 友樹 氏



【主な内容】

- ・強みや夢、社会から求められている価値を理解することが必要
- ・多くの人とつながり、持続可能な地域産業を創造することが大切



◆**成果発表（前半）**

①小樽水産高校栽培漁業科
 依田那奈さん（3年）・小林唯我さん（3年）




◆**成果発表（後半）**

①旭川工業高校電子機械科
 平野真希さん（3年）・渡邊燦人さん（3年）




②旭川商業高校国際ビジネス科 中林華愛さん（2年）
 高瀬拓哉さん（2年）・高柳陽菜さん（2年）




②更別農業高校農業科 仲本太陽さん（2年）
 生活科学科 手塚ゆきなさん（2年）




③室蘭工業高校電子機械科
 五十嵐正彦さん（2年）




③置戸高校福祉科
 舟根紗来さん（3年）




【図 18-1】「北の専門高校 ONE-TEAM フェスタ」レポート（1 ページ目／全 2 ページ）

◆交流会 販売や展示による成果の発表及び生徒・教員・産業界関係者の交流



◆総括（北海道教育庁学校教育局高校教育課産学連携コーディネーター 月館 海斗）

- 地域産業の未来を真剣に考えること、「目的が変われば、意識が変わる」こと
- 産学の双方が諸課題の解決に関わろうとすることが、持続可能な連携にとって重要
- 「振り返り」を丁寧に行うことで、変化の激しい時代でも、挑み続けることができる



参加者の声

【専門高校教員】	【専門高校生徒】
<ul style="list-style-type: none"> ▶ 自校でこれまで取り組んできたことと照らし合わせたり、これからどのように考えアクションしていけばよいのかを見付ける時間になった。 ▶ 今まで交流のなかった企業や団体とつながりをもつことができた。 ▶ 基調講演では、リアルな話や考え方が非常に参考になった。 ▶ 発表した生徒の質疑応答では、今後に生かせそうなこと、役立てられそうなことなどを発見できた。 ▶ 生徒の発表やブース対応が素晴らしかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 他の専門高校の活動を知ることができて、とても興味深かった。
	【企業関係者等】
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 専門高校の生徒が学んでいることが、地域に密着していることがよく分かった。 ▶ ポスター発表やコラボ商品の販売では、生徒さんのお話がとても分かりやすかった。 ▶ 生徒による成果発表では、日々の教育活動を通じた成長が感じられた。異業種間の交流を取り入れたイベントは是非、継続していただきたい。 ▶ 学校と企業のつながりに直接触れたことで、産学連携を実感できた。

【図 18-2】「北の専門高校 ONE-TEAM フェスタ」レポート（2ページ目／全2ページ）

(2) 刊行物

ア ONE-TEAM ニュース

本事業の取組や専門高校における産学連携の好事例のほか、各種イベントやセミナーなどの情報を掲載し、専門高校や産業界等に広く発信した。(令和7年度は11回発行)

産業界関係者からは「専門高校の取組を知ることができるので発行が楽しみ」、高校教員からは「産学連携の参考となる情報を知ることができる」などの声が複数寄せられた。

イ リーフレット「北海道の専門高校が開催する学習成果発表会を紹介します」

専門高校の概要、各学科の学習成果発表会(競技大会、販売会、実習船体験航海等)について紹介するリーフレットを作成し、全道の中学校に配付した。(47ページを参照)

ウ 専門高校魅力発見ガイド

中学生やその保護者、中学校教員の専門高校に関する理解を深めるため、7つの職業学科の学習内容や進路先を小学科のカテゴリー別に紹介するガイドブックを制作し、全道の中学校に配付するとともに道教委のウェブページに掲載した。(49ページを参照)



【図 19】中学生の進路選択における相関図(イメージ)

エ おしごとガイドブック～2025年度版～

専門高校が取り組んでいる「縦」と「横」のつながりにスポットを当てたガイドブックを制作し、道内の中学校1、2年生(約75,000名)及び高校1、2年生(約45,000名)に配付した。(75ページを参照)

【ガイドブックの主な内容】

- ▶ 産学連携コーディネーターから中高生へのメッセージ
- ▶ 先端技術を活用した産業分野で活躍する専門高校卒業生の仕事内容や、やりがい<掲載分野>
 - スマート農業、スマート水産業、半導体関連産業、航空業界、データセンター、建設DX、医療、福祉、食産業
- ▶ 専門高校と地域の企業が連携した取組
- ▶ 学科の垣根を越えた専門高校同士が連携した取組
- ▶ 専門高校と小学校が連携した取組
- ▶ (中学生版のみ) 産学連携コーディネーターと専門高校生3名の対談
- ▶ (高校生版のみ) 北海道の未来と地域を支える人材育成の取組

オ 産業実務家教員リスト 2.0

謝金等が不要で専門高校への出前授業や現場見学の受入れなどが可能な職業人をまとめた「産業実務家教員リスト」(令和6年度作成)の募集を継続し、アップデート版として作成し、全道の専門高校に配付した。(85ページを参照)

[リスト掲載数] 令和6年度:36事業所等、令和7年度:52事業所等



文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」(R6~7年度)の取組や、専門高校と産業界との持続可能な連携に資する情報、さらには各高校で取り組んでいる好事例について情報提供します。

『拠点校ミーティング』を開催しました

令和7年4月28日(月)、拠点校(小樽水産高校、室蘭工業高校、旭川商業高校、更別農業高校)の代表者が、今年度の取組の概要等について理解を深めるとともに、専門高校と産業界等との連携を推進する上での共通認識を図ることを目的として開催しました。4圏域(道央、道南、道北、道東)の拠点校から、教頭及び担当教諭が参加し、今年度の事業内容の説明や、各拠点校における産学連携に係る取組の紹介のほか、各圏域ごとに開催する「産学連携シンポジウム」の実施に向けた打合せなどを行いました。

○説明①「令和7年度の事業計画及び拠点校の役割について」

<主な説明内容>

- 本事業の目的は、専門高校と産業界をつなぎ、産学連携を強化するとともに、専門高校の価値や魅力を広く発信し、魅力ある北海道を創る人材を育成すること
- 道内の4圏域に配置した拠点校の役割として、専門高校の教員、産業界関係者が産学連携の意義や方法等について理解を深める産学連携シンポジウムや、ONE-TEAMフォーラムなどのイベントの開催における協力、好事例や本事業における成果の発信があること など



事業概要についての説明を聞く参加者の様子

○説明②「産学連携シンポジウムの基本構想について」

<主な説明内容>

- 昨年度、札幌市内で開催した産学連携シンポジウム・産学連携カンファレンスでは、産業界と学校、他学科との交流の重要性等について確認できたこと(成果等については、令和6年度 ONE-TEAM ニュース第3号、第6号を参照)
- 今年度、開催する産学連携シンポジウムでは、学校・企業による好事例の発表やパネルディスカッションのほか、学科の垣根を越えた協議の場を設定する予定であること など

○発表・協議「各拠点校における産学が連携した特徴的な取組・産学連携の推進に向けて」

産学連携コーディネーターの進行によって、各拠点校から産学連携に係る自校の取組や、学校・学科の垣根を越えた連携事例について発表がありました。

また、産学連携における課題点や、連携を推進する上でのポイントとして、担当教諭と企業の連携となっており、**学校として持続可能な連携の形を構築することや、産業界と学校が互いに Win-Win の関係を構築することの重要性**などを、拠点校4校で共有しました。

各校の取組の詳細については、下段「各拠点校の産学連携の事例を紹介します」を御覧ください。

○打合せ「産学連携シンポジウムの運営について」

説明②「産学連携シンポジウムの基本構想について」を基に、道内4圏域で実施する本シンポジウムの会場や、事例発表・パネルディスカッションの内容等について、各拠点校の担当者と、担当する指導主事で打合せを行いました。

4つの圏域それぞれの地域の実態を踏まえ、持続可能な産学連携の推進に資するシンポジウムとするために、活発な話し合いが行われました。

※今年度の産学連携シンポジウムについては、内容等の詳細が決まり次第、各校へ案内します。



各拠点校の特徴的な産学連携の事例を紹介します

拠点校ミーティングにおいて、各拠点校から産学が連携した特徴的な取組について発表がありました。内容について紹介しますので、各学校の今後の産学連携の推進に役立ててください。

1 小樽水産高校

- 水産食品科の取組事例
 - ・企業と連携した商品開発(缶詰商品を開発し全道へ販売)
 - ・魚介の出汁を使用したラーメンに関する出前授業
- 栽培漁業科の取組事例
 - ・スクーバ潜水と水中ドローンを活用したコンブ類等の繁殖状況の調査
 - ・ウニ類が忌避する合成ゴム開発に関わる企業との共同研究
- 海洋漁業科の取組事例
 - ・漁獲したマグロ(元気マグロ)の販売実習
 - ・漁業ガイダンスや船舶自動化などに関する各種セミナーへの参加
- 情報通信科の取組事例
 - ・大学等と連携したVR・メタバースを活用した情報通信技術に係る学習



マグロ販売会の様子

2 室蘭工業高校

○ M-Con※ (Muroran Technical Consortium) の取組事例

- ・地元建設業協会と学校が連携し、企業実習・インターンシップを実施
- ・北海道庁、北海道企業局による洋上風力発電等の施設見学・出前授業
- ・専門学校と連携し、生成 AI や BIM ・自動車に関する実習や体験、講義
- ・大学教授による鋳造実習に係る指導
- ・外部講師によるエアコン用電源増設工事に係る実習
- ・関係企業を講師に招いた就労観養成講座の実施



※ M-Conとは？

- ・室蘭市建設業協会、登別建設協会、伊達市建設協会と、企業実習に関する連携協定を締結 (R6.2月)
- ・育成する人材像の共有、企業実習プログラムの共同開発



外部講師の指導によるエアコン用電源増設工事実習の様子

3 旭川商業高校

○ 「ProjectA」の取組

- ・旭川農業高校と旭川商業高校が、ノーステック財団や旭川産業創造プラザ、旭川市立大学の指導・協力のもと、旭川活性化の取組を実施
- ・両校の強みを生かし、中華まん (商品名「あったか旭川まん」) を開発、販売

○ 地域を担う人材育成に向けた産学連携の取組事例

- ・地元就職した卒業生による、在校生向け進路座談会の実施
- ・ハローワーク主催の多業種企業による就職説明会の実施
- ・地域に開かれた教育課程を推進するため、旭川市立大学教授のほか地元の企業・関連団体役員に学校評議員を委嘱
- ・地元企業と協力・連携した実習販売会の実施 など



「あったか旭川まん」販売実習の様子

4 更別農業高校

○ 地元企業・関係機関と連携した取組事例

- ・食品加工会社と連携した商品開発
- ・地元建設業者・農業機械メーカーの支援による、学校園場における「ひまわり迷路」の製作
- ・帯広信用金庫主催の、「地元高校生による十勝の未来づくり応援プロジェクト」(令和6年度で終了)への参加
- ・帯広畜産大学と連携した小麦の品種開発についての研究

○ 学校間連携や、学科の垣根を越えて連携した取組

- ・旭川工業高校定時制と連携した、産業用ドローンの活用における交流学習と、地元食材を活用した試食会の実施
- ・帯広農業高校と連携した飼料作物の栽培についての研究



旭川工業高校定時制と連携して実施した試食会の準備の様子

<月館 海斗 産学連携コーディネーターよりコメント>

- 4校とも大変参考になる取組であり、**各学校の取組のよい点を組み合わせることで、産学連携の課題である「学校と産業界が組織的なつながりになっていないこと」や、「連携において資金面の負担があること」、「企業にとって人材確保がメインになっていないこと」などの解決につながるのではないかと。**
- 外部との連携においては、**産業界はもとより、自治体や大学等との連携も大切**であり、拠点校における好事例を、今後、**圏域内の学校や産業界等にどう波及させていくかが重要**である。



つくだて かいと
月館 海斗 氏

主な経歴等

- ・株式会社すみか代表取締役 (立命館慶祥中学校・高等学校教員を経て、会社設立)
- ・厚岸翔洋高校マイスター・ハイスクール (R4~R6) 事業伴走者
- ・札幌市教育委員会「市立高校コンシェルジュ」任命
- ・その他教育現場での教育支援プログラムを実施



「産業実務家教員リスト」の活用について

本リストは、生徒に対して、高度な知識・技術や実践的・体験的な学習機会を提供することを目的に作成しました。

令和7年3月27日付け教高第3481号で各校へ送付したところですが、専門高校との連携が可能な、各産業に従事する職業人又は事業所を掲載しており、掲載されている講師は、**派遣に係る交通費や謝礼などの支払いは原則ありません。**

ただし、連携内容によっては、材料費など実費がかかる場合がありますので、**詳細については、連携を希望する学校が産業実務家教員と直接連絡を取り確認**してください。



学校や地域の実態に合わせて、是非活用いただき、各学校における地域産業の人材育成に向け、産業実務家教員と意見を交わしながら、よりよい連携が行われることを期待しています。

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」

産業実務家教員リスト

北海道教育庁学校教育局高校教育課
産業実務家教員リスト【表紙】

[令和7年3月27日作成]



文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」(R6~7年度)の取組や、専門高校と産業界との持続可能な連携に資する情報、さらには各高校で取り組んでいる好事例について情報提供します。



産学連携の推進に向けて～厚岸翔洋高校の取組から考える～

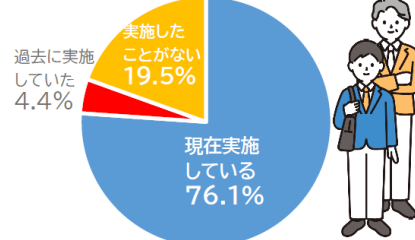
北海道の専門高校においては、約76%の学校^(注)で産業界等と連携した学習を実践している(右図)一方で、費用面の負担や、学校と産業界のつながりが属人的になっている等の課題もあることが分かりました。

本号では、専門高校等と産業界、地方公共団体が一体となって最先端の職業人材育成システムを構築した事例として、R4~R6年度の文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」指定校である厚岸翔洋高校の取組事例について紹介します。

各学校においては、本事例を改めて産学連携の意義や効果を考え、**地域の実態に応じた持続可能な産学連携の在り方**について考える際の参考としてください。

注：調査は大学科ごとに実施

図 産業界と連携した教育活動の実施
(大学科ごとの回答 n=159)



出典：令和6年度「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」
学校ヒアリング調査結果

<厚岸翔洋高校の取組事例>

テーマ「**地域の未来を創るマリン・イノベーターの育成～IT導入による持続可能な地域社会の創造～**」

目的 水産分野の産業構造が変化する中、水産業を基幹産業とする厚岸町において、スマート水産業の実践をとおして、地域の資源管理型漁業の推進に寄与するとともに、デジタル人材の育成をはじめとした地域産業の持続的な成長を牽引する最先端の職業人を育成する。

主な取組と成果

ア 水産資源の持続化に向けた取組

<内容>

- ・スマート機器を用いた海洋環境測定データをデジタル化(見える化)
- ・関係者と協働して各種データの活用促進(カキの成熟予測)

<連携先>

厚岸漁業協同組合、厚岸町カキ種苗センター、釧路地方水産技術普及指導所、釧路水産試験場、公立ほこだて未来大学など



イ 漁家経営の持続化に向けた取組

<内容>

- ・ドローンの有効活用についての実践研究(ホタテの漁場資源量マップ作成)
- ・空撮映像を活用して漁労実習等の充実(実習教材化)など

<連携先>

厚岸漁業協同組合、釧路水産試験場、厚岸観光協会、(株)大歩、東京海洋大学、ソフトバンク(株)など



ウ 地域産業の持続化に向けた取組

<内容>

- ・地域の水産物を活用したレシピ等の開発(「カキンバ」の全道発信)
- ・未利用、低利用魚による新商品の開発・販売(「あめかま」ふるさと納税返礼品化)

<連携先>

(有)野呂田商店、厚岸漁業協同組合、厚岸味覚ターミナル「コンキリ工」、国分北海道(株)、生活協同組合コープさっぽろ、釧路短期大学、札幌テレビ放送(株)、エアウォーター・ラボアンドフーズ(株)など



<取組に係る情報発信>

- ・町内の観光施設等にスマートTVを設置し、研究内容についての情報発信
- ・「あめかま」ふるさと納税返礼品化で全国PR
- ・メディアやスーパーとのコラボ(地域特産物のPR)
- ・大会・コンテストでの研究発表 など

<成果>

○地元産業界の声

- ・漁業者の高齢化により、スマート化には時間がかかるものと思われていたが、**若い漁業者と高校生の相乗効果で、10年かかるものが3年で、その実用性への理解が進んだ。**
- ・高校生の技術の習熟は早かった。**小中学生にも、地元産業界の意義や楽しさを伝えてほしい。** など

○生徒の変容

- ・生徒アンケートにおいて、「地域課題を発見し、解決に向け多面的に考え、行動できた」や、「様々な産業界との交流をとおして、自身の進路を考えることができた」と回答した生徒の割合が大きく増加した。
- ・特に社会人・職業人としての基礎となる知識・技術が身に付いたほか、コミュニケーション力も向上した。 など

厚岸翔洋高校の詳しい取組はこちらから ↓



厚岸翔洋高校では、マイスター・ハイスクール事業における産学連携の推進によって、学校や生徒、地域に上記の成果が見られました。次ページでは、本事例のような地域に根ざした産学連携に向けて、**産業界とつながるきっかけとなる産学連携シンポジウム**や、**専門高校の魅力を発信するオンラインイベント**について紹介します。



「専門高校魅力発見ミーティング」を開催します

中学生の保護者や中学校教員に専門高校の価値や魅力を発信するほか、専門高校と中学校の連携による成果等を普及・啓発する目的で、次のとおり開催します。

- 日時
令和7年(2025年)7月10日(木) 13:30~16:05
- 参加対象者
(1) 中学生の保護者・中学校教員で参加を希望する者
(2) 市町村教育委員会職員で参加を希望する者
(3) その他、専門高校に関心のある関係者等
(4) 教員養成課程(職業学科)を有する大学に在籍する大学生
- 開催形式
Zoomによるオンライン
- 各学科の内容
(1) 各学科における学習内容や進路先等の紹介
(2) 各学科の在校生・卒業生(各1名)と、産学連携コーディネーターによるトークセッション
- 申込み方法・申込みめく
(1) チラシに掲載の二次元コードから申し込んでください。
(2) 申込みめく: 7月3日(木)

専門高校魅力発見ミーティング チラシ



イベントの詳細や、申込みについては、上記二次元コードから御確認ください。



「産学連携シンポジウム」を4圏域で開催します

各圏域における専門高校の教員、産業界関係者が産学連携の意義や方法等について理解を深めることを目的に、産学連携に資する事例発表や、パネルディスカッション、持続可能な産学連携に向けた協議を実施することとしています。本号では、各会場の事例発表や、パネルディスカッションにおけるパネリストを紹介します。

※ パネルディスカッションは、4会場ともにテーマを「サステナブルな産学連携に向けてできること~それぞれの立場から~」として、月館 産学連携コーディネーターを司会に実施します。

<参加対象>

- 各圏域の専門高校で職業学科を担当する教諭等
道央: 空知、石狩、後志
道北: 上川、留萌、宗谷
道南: 胆振、日高、渡島、檜山
道東: オホーツク、十勝、釧路、根室
- 道内企業・経済団体の関係者(管内不問)
- 産業教育に関心のある教育関係者(管内不問)

○道央会場【7月23日(水)】場所: 第二水産ビル

○発表

- 「企業と連携した藻場再生に向けた取組について」
小樽水産高校栽培漁業科教諭 古賀 英裕 氏
- 「未来につながる藻場再生への取組について」
株式会社海洋探査執行役員 小笠原 誠 氏
- 「工業高校との連携によるアグリテックの実践」
岩見沢農業高校農業科学科3年 仁平 佳太 さん
農産土木工学科3年 岩村 厚希 さん

○パネリスト

- 小樽水産高校栽培漁業科教諭 古賀 英裕 氏
- 小樽水産高校栽培漁業科3年 小林 一華 さん
- 小樽水産高校栽培漁業科3年 堀 来玲愛 さん
- (株)海洋探査執行役員 小笠原 誠 氏
- 岩見沢農業高校農産土木工学科教諭 三品 歩 氏
- 岩見沢農業高校農業科学科3年 仁平 佳太 さん
- 滝川工業高校電子機械科3年 大橋 悠希 さん
- (株)砂子組企画営業部部長 真坂 紀至 氏

○道北会場【7月16日(水)】場所: イオンモール旭川駅前

○発表

- 「Project A (Collaboration for Asahikawa) の教育実践」
旭川農業高校食品科学科教諭 沼田 雅美 氏
食品科学科3年 堀内 美咲 さん
食品科学科3年 高村 萌果 さん
- 「若者と地域がつながる力 - 地方創生イニシアチブ」
(一社)産学官創造ネットワーク
- 「地域産業の発展に対する取組~地域の魅力の発信~」
旭川商業高校流通ビジネス科3年 三好 帆希 さん

○パネリスト

- 旭川商業高校主幹教諭 遠山 英幸 氏
- 旭川商業高校流通ビジネス科3年 近藤 湊和 さん
- (一社)産学官創造ネットワーク
- 旭川農業高校食品科学科教諭 沼田 雅美 氏
- 旭川農業高校食品科学科3年 堀内 美咲 さん
- 名寄高校情報技術科1年 濱下 心暖 さん
- ハラダ工業(株)代表取締役 藤野 徹弥 氏

○道南会場【7月25日(金)】場所: 室ガス文化センター

○発表

- 「持続可能な産学連携モデル(M-Con)の構築と実践」
室蘭工業高校建設科教諭 鈴木 圭吾 氏
- 「地域のインフラを守り続けるため」
室蘭市建設業協会会長 橋詰 昌明 氏
- 「企業や水産高校と連携した学びで得たもの」
大野農業高校農業科学科2年 野田 和吏 さん

○パネリスト

- 室蘭工業高校建設科教諭 鈴木 圭吾 氏
- 室蘭工業高校電子機械科3年 渡辺 陸斗 さん
- 室蘭市建設業協会会長 橋詰 昌明 氏
- 大野農業高校農業科学科教諭 古川 茂樹 氏
- 大野農業高校農業科学科2年 野田 和吏 さん
- 函館水産高校水産食品科3年 柳屋 唯莉 さん
- 国分北海道(株)道央支店函館支店営業担当 山口 彩夏 氏

○道東会場【7月24日(木)】場所: 帯広信金中央支店

○発表

- 「学科間連携による学びから私たちが得たこと」
更別農業高校生活科学科2年 安田 恋音 さん
- 「マスター・ハイスクール事業における地域連携と今後の本校の在り方」
厚岸翔洋高校海洋資源科教諭 飯田 直登 氏
- 「産業界から見た産学連携の意義~持続可能な連携に向けて~」
帯広信用金庫地域サポート部考査役 清水 豊 氏

○パネリスト

- 更別農業高校農業科教諭 原 義幸 氏
- 更別農業高校生活科学科2年 安田 恋音 さん
- 厚岸翔洋高校海洋資源科教諭 飯田 直登 氏
- 厚岸翔洋高校海洋資源科3年 藤田 了 さん
- 帯広信用金庫地域サポート部考査役 清水 豊 氏
- 旭川工業高校定時制建築土木科3年 後藤 大輝 さん
- (有)レイブプロジェクト代表 請川 博一 氏



産学連携の推進に資する情報を得られる場です。積極的な参加をお待ちしています！
なお、本イベントの詳細情報や申込みについての情報は、右の二次元コードから御確認ください。



文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」(R6~7年度)の取組や、専門高校と産業界との持続可能な連携に資する情報、さらには各高校で取り組んでいる好事例について情報提供します。

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の詳細はこちら→



「専門高校魅力発見ミーティング」を開催しました

7月10日(木)に、中学生の保護者や中学校教諭等を対象として、専門高校の魅力伝える「専門高校魅力発見ミーティング」をオンラインで開催しました。当日は60名ほどの参加があり、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉の各学科の学びについて説明があったほか、産学連携コーディネーターと在校生、卒業生によるトークセッションも行われ、各学科の価値や魅力、専門高校の学びが働く上で役に立っていると感じるなどについて紹介がありました。

参加した方々からは「各学科の学習内容が理解できたほか、卒業生が高校時代の学びをどのように捉えているか伺うことができてよかった」や、「専門高校での具体的な高校生活をイメージできた」などの感想が寄せられました。

また、本ミーティングのアーカイブ配信を9月を目途に行いますので、紙面上部に掲載している二次元コードからぜひ御覧ください。

なお、各学科の特色や進路実績、在校生と卒業生のインタビューが掲載され、職業学科の学びがよく分かる「専門高校魅力発見ガイド」も道教委ウェブページに掲載されています。

本発見ガイドでは、文部科学省の小中学生・保護者向けサイト「すこいぞ!専門高校」や、専門高校 Instagram についても紹介しています。

専門高校についての理解を深められる内容になっていますので、ぜひご覧ください。



本道産業の担い手を育成する道教委事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」監修

中学生の進路選択に役立つ

専門高校 魅力発見ガイド

01 小学校ごとに学習内容・就職先などの経路を掲載
02 在校生・卒業生のインタビューも多数掲載

農業 家庭 商業 工業 看護 水産 福祉

「専門高校とは」職業教育を主とする学科を設置する高校を「専門高校」といい、本道には7つの学科の専門高校が設置されています。本道では、卒業生や保護者、中学校の先生方に、専門高校の魅力を知ってもらうことを目的として作成しました。

令和7年6月 北海道教育庁学校教育局高校教育課

(上) 専門高校魅力発見ガイド(表紙)
(左)「専門高校魅力発見ミーティング」でのトークセッション(福祉科)の様子

「産業実務家教員」の募集について

本プロジェクトでは、専門高校との連携が可能な各産業に従事する職業者又は事業所を「産業実務家教員」と称し、昨年度、産業実務家教員を専門高校に紹介する「産業実務家教員リスト」を作成しました。今年度も産学連携の一層の充実を図るため、産業実務家教員の募集を継続し、内容を更新した「産業実務家教員リスト2.0」を作成します。

賛同いただける方は、道教委ウェブページに記載している「登録方法について」及び「チラシ」を御確認の上、登録フォーム URL からアクセスし、御登録ください。

[申込締切]
令和7年(2025年)12月19日(金)

[申込に当たって]
○連携の際に、交通費や謝礼などの支払いはありません。
○個人又は営業所や工場などの事業所単位で登録してください。

[登録方法]
紙面上部に記載の二次元コードを読み込み、道教委ウェブページ内「産業実務家教員の募集」の欄に掲載されている URL から登録フォームにアクセスし、御登録ください。

このような方々はぜひ、御登録ください!

- 高校と連携した取組を行いたいが、どこに連絡をするべきか分からない方。
- 高校生に自社や業界の業務内容を是非知ってもらいたいと考えている方。
- 会社に高校生を招いて、職場の意識改革を行いたいと考えている方。
- 業界の発展のために、高校生を積極的に指導したいと考えている方。

登録されたらどうなるの?

登録していただいた皆様の情報を集めた「産業実務家教員リスト」を作成し、全道の専門高校に配付します。

専門高校は各学校のニーズに合わせて、リストの中の産業実務家教員に直接連絡を取り、具体的な連携の実施に向けて、打合せを重ね、連携した取組を実施します。



産業界の皆さん、北海道産業の次代を担う職業人材育成に向けて、御登録をお願いいたします。



「縦」と「横」の連携の実践～富良野高校の好事例～

本号では、富良野高校における地域や産業界と連携した人材を育成するための取組や、園芸観光デザイン科と電気情報システム科の学科の垣根を越えた連携事例について紹介します。

1 学校概要

富良野高校は、富良野高校と富良野緑峰高校が再編統合して今年度新設された学校であり、「伝統継承と新時代への対応、そして、みんなの夢を叶え、選ばれ続ける学校へ」をコンセプトに学校の魅力化の取組を展開しています。

本校は、普通科3学級、農業科（園芸観光デザイン科）1学級、工業科（電気情報システム科）1学級の学科構成となっています。全ての学科で単位制を導入し、生徒の多様なニーズに応える教育を実現するとともに、DXハイスクールとして最新の機器を導入し、社会の変化に対応できる職業人材育成を目指した取組を実践しています。

2 地元産業界と連携したキャリア教育の実践

富良野高校では、今年度、富良野商工会議所、富良野市と連携し、生徒が地元企業や様々な職業について理解を深める目的で、本校を会場に「高校生向け企業体験会」を実施しました。当日は、富良野圏域の企業25社がそれぞれの特色を生かしたブースを学校敷地内に設置し、仕事内容についての説明や、重機の操縦体験などを行い、参加した生徒たちは職業観を醸成するとともに、地域企業への理解を深めることができました。



本イベントには、富良野高校の生徒にとどまらず、近隣の高校の生徒も参加し、地元高校と産業界が地域の職業人材育成の在り方について考えを深める機会にもなりました。



高校生向け企業体験会の様子



地域の基幹産業である農業についての学習の様子

3 学科の垣根を越えた連携

富良野地域は、タマネギ栽培が盛んな地域ですが、管理作業のうち特に重要な水管理について、土壌水分量の把握が難しく、適切な灌水の設定が困難という課題があります。このことを踏まえ、農業特別専攻科と電気情報システム科が連携し、地域の基幹産業である農業に関する研究を行っています。



課題解決に向けて、電気システム科（電気情報システム科）のノウハウを生かし、土質によって変わる土壌水分量を正確に測定するセンサーを製作し、圃場に設置しました。

さらに電子データを、土壌水分量を示すpH値に換算するプログラミングを生徒自ら設定し、規準を下回ると地下灌漑装置により、水が供給される仕組みを考えました。このことに加えて、現在では自作のテンシオメータを製作し、農業分野における工業技術の活用について、さらに学びを深めています。



電気情報システム科で製作した自動灌水装置の模型

本研究により、農業特別専攻科の学生はもとより、農業科の生徒は、高品質な作物生産について学びを深めたとともに、水資源に着目した持続可能な農業生産について深く考える機会となりました。

また、工業科の生徒も、専門的な学習の深化につながっただけではなく、普段の学びが地域産業の今後を考える上で重要であることを実感することにつながりました。

4 今後の取組

(1) 地域の観光産業への貢献

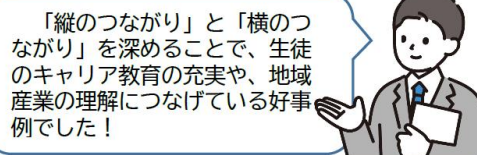
学校外の企業・機関等との連携促進を目的に、新分享として、「教育企画部」を設置しています。例えば、富良野高校（～R6富良野緑峰高校）総合ビジネス科のノウハウを生かし、地元企業「株式会社野菜田」と連携して「野菜スナックサブリ」を開発するなど、地域の基幹産業である観光業に貢献する取組を行う予定です。

(2) 学科の垣根を越えたキャリア教育の推進

普通科の生徒に対して、農業分野の職業に対する理解を深める取組を実施するほか、農業科と工業科の連携を推進し、農業生産の自動環境制御やデジタルデータの活用にも共同で取り組む予定です。



地域イベントにおける「野菜スナックサブリ」販売会の様子



「縦のつながり」と「横のつながり」を深めることで、生徒のキャリア教育の充実や、地域産業の理解につなげている好事例でした！



文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」(R6~7年度)の取組や、専門高校と産業界との持続可能な連携に資する情報、さらには各高校で取り組んでいる好事例について情報提供します。

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の詳細はこちら→



『産学連携シンポジウム』を4会場で開催しました

専門高校教員と産業界関係者が、産学連携の意義や方法等について理解を深めることを目的に「産学連携シンポジウム」を道内4会場で開催しました。本号では各会場の発表内容や、参加者からの声を紹介します。



1 道北会場：7月16日(水) イオンモール旭川駅前 イオンホール

(1) 参加者	専門高校の教員	15名
	産業界等	16名
	専門高校の生徒	5名
	計	36名

- (2) 発表内容
 生徒及び教員：Project A (Collaboration for Asahikawa) の教育実践 (旭川農業高校)
 産 業 界：若者と地域がつながる力 - 地方創生イニシアチブ (一社) 産学官創造ネットワーク
 生 徒：地域産業の発展に対する取組～地域の魅力の発信～ (旭川商業高校)



(3) 会場の様子



旭川農業高校生徒及び教員による発表



参加生徒による研究協議



高校教員・産業界関係者との研究協議

(4) 参加者の声

- 非常に意義のある取組だと思います。今後も参加し、多くの企業の方と情報交換したいと思います。(高校教員)
- 道北エリアでも産学連携を広げたいと感じました。(産業界)

2 道央会場：7月23日(水) 第二水産ビル

(1) 参加者	専門高校の教員	30名
	産業界等	22名
	専門高校の生徒	5名
	計	57名

- (2) 発表内容
 教 員：企業と連携した藻場再生に向けた取組について (小樽水産高校)
 産 業 界：未来につながる藻場再生への取組について (株) 海洋探査
 生 徒：工業高校との連携によるアグリテックの実践 (岩見沢農業高校)



(3) 会場の様子



(株) 海洋探査 小笠原氏の発表



パネルディスカッション



高校教員・産業界関係者との研究協議

(4) 参加者の声

- 色々な業種の企業の方や他の職業高校の先生方と交流ができて大変勉強になりました。(高校教員)
- 新たに DX の分野で専門高校と連携していきたいです。折角の機会なのでもっと多くの先生方と意見交換したかったです。(産業界)

【図 23-1】 ONE-TEAM ニュース第4号 (1 ページ目/全2 ページ)

3 道東会場：7月24日(木) 帯広信用金庫中央支店セミナールーム

(1) 参加者	専門高校の教員	23名
	産業界等	14名
	専門高校の生徒	3名
	計	40名

- (2) 発表内容
- 生徒：学科間連携による学びから私たちが得たこと
(更別農業高校)
- 教員：マイスター・ハイスクール事業における地域連携と今後の本校の在り方
(厚岸翔洋高校)
- 産業界：産業界から見た産学連携の意義～持続可能な連携に向けて～
(帯広信用金庫)



(3) 会場の様子



パネルディスカッション



高校教員・産業界との研究協議



研究協議における生徒の発表

(4) 参加者の声

- 非常に参考になる取組です。今回企業側の困りごとを聞いて参考になりました。(高校教員)
- 学科間での交流を深められたのは、とても貴重な経験になりました。(生徒)

4 道南会場：7月25日(金) 室ガス文化センター会議室

(1) 参加者	専門高校の教員	25名
	産業界等	33名
	専門高校の生徒	3名
	計	61名

- (2) 発表内容
- 教員：持続可能な産学連携モデル (M-Con) の構築と実践
(室蘭工業高校)
- 産業界：地域のインフラを守り続けるため
(室蘭市建設業協会)
- 生徒：企業や水産高校と連携した学びで得たもの
(大野農業高校)



(3) 会場の様子



室蘭工業高校の発表を聞く聴衆



パネルディスカッション



月館産学連携コーディネーターによるまとめ

(4) 参加者の声

- 企業が学校に対してどのようなことを望んでいるか直に聞くことができ、とても有意義なシンポジウムでした。(高校教員)
- 今後のよりよい産学連携について、見直しをしていかなければならない部分があると感じました。(産業界)

4会場合わせて194名の皆様に御参加いただきました。ありがとうございました。
今後実施するイベントにおきましても、多くの御参加をお待ちしております。



産学連携の好事例から学ぶ

「マイスター・ハイスクール普及促進事業」における全国の取組を知る

令和6年度「マイスター・ハイスクール普及促進事業」では、全国で先進的取組型4件(北海道を含む)、連携体制強化型8件が採択され、産業界等と連携した人材育成の広域ネットワークの構築に向けた取組や、産業界等との連携に課題のある地域において連携体制強化の取組等を実施しているところだ。

文部科学省「マイスター・ハイスクール事業」のウェブページには、令和7年1月31日に実施された成果発表会の資料が掲載されています。上記12件の取組のほか、厚岸翔洋高校を含む令和4年度のマイスター・ハイスクール指定校の最終成果発表会も掲載されています。

各学校における産学連携推進の参考となる事例が多くありますので、是非御覧ください。

産学連携に係る新たな視点が得られるかも知れません。



「令和6年度マイスター・ハイスクール事業成果発表会」の詳細はこちら↓





文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」(R6～7年度)の取組や、専門高校と産業界との持続可能な連携に資する情報、さらには各高校で取り組んでいる好事例について情報提供します。

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の詳細はこちら→



専門高校の魅力とは～専門高校魅力発見ミーティングの動画を公開～

7月10日(木)に開催しました「専門高校魅力発見ミーティング」の動画を「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」ウェブページ上で公開しています。

農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉の各学科の卒業生・在校生と、道教委の産学連携コーディネーターによるトークセッションの様子のほか、各学科の学びについての説明を見ることができます。

専門高校についての理解を深められる内容になっていますので、是非御覧ください。

※ 動画の紹介チラシ(下図)は、本プロジェクトのウェブページに掲載しています。(右上の二次元コードを参照)



<トークセッション(農業)の様子>



<動画の紹介チラシ>

※各学科のトークセッション及び説明動画リンク一覧

(1) 農業科
トークセッション

説明



(2) 家庭科
トークセッション

説明



(3) 商業科
トークセッション

説明



(4) 看護科
トークセッション

説明



(5) 福祉科
トークセッション

説明



(6) 工業科
トークセッション

説明



(7) 水産科
トークセッション

説明



トークセッションでは、卒業生と在校生が実体験に基づいて話しをしており、魅力ある専門高校での学びがよく分かる内容です。中学生はもとより、中学生の保護者や中学校教員の方にも参考になる内容です。



第2回 ONE-TEAM コミッティを開催

本プロジェクトを円滑に推進するため、今後の取組及び各専門高校における産学連携の充実に向けた協議を行い、専門の見地から助言を得る目的で「第2回 ONE-TEAM コミッティ」を開催しました。

- 日 時 令和7年10月8日(水) 9:00~12:00
- 場 所 江別高校
- 内 容 (1) 説 明：今年度の進捗状況、事業の総括に向けた取組について
(2) 授業見学：事務情報科及び生活デザイン科の専門科目の授業を見学
(3) 協 議：事業の総括に向けた取組について

○ コミッティ委員からいただいた主な御意見

- ・「産業実務家教員リスト」では、産業界に実践例を紹介し、様々なつながり方があることを広げてほしい。
- ・12月に実施予定の「S7サミット」では、高校側のニーズなどを、どのように発信するとよいのかを検討できるとよい。
- ・2月に実施予定の本プロジェクトの成果発表会「ONE-TEAM フェスタ」では、産学連携は手段であり、目的にならないように、「産学連携で何を実現したいのか」を、学校や産業界に明確に示していく必要がある。



<コミッティ委員による協議の様子>



技術革新に対応したオンラインセミナーを開催

道教委では、産業構造の変化や技術革新に対応した指導の充実を図ることを目的に、教員等を対象としたオンラインセミナーを開催しています。

これまでに開催したセミナー（建設DX、洋上風力発電、観光産業）のレポートについては、本プロジェクトのウェブページ上で見ることができます。



建設DX理解促進セミナー（令和8年8月8日開催）



洋上風力発電理解促進セミナー（令和8年10月3日開催）



観光産業理解促進セミナー（令和8年10月28日開催）



<浜頓別高校による事例発表>

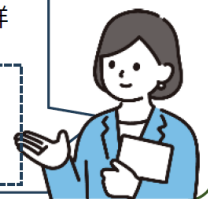
今回はスマート農林水産業理解促進セミナー（令和8年1月20日開催）を予定しており、詳細については12月上旬に各公立高校あてに通知予定です。多くの参加をお待ちしています。

<「スマート農林水産業理解促進セミナー」の内容（予定）>

講演①：「スマート農業の現状とこれからの方向性」（帯広畜産大学）

講演②：「ドローンを活用したスマート水産業の今後の可能性について」（株式会社大歩）

事例発表：「データ駆動型農業の実践に向けた学習」（岩見沢農業高校）



今後のイベント予定(令和7年12月)

- ・ 令和7年12月5日(金)、6日(土) **高校生チャレンジ in どさんこプラザ**
→ JR札幌駅の「どさんこプラザ」で農業・商業・水産科の生徒が企業と連携して開発した商品を販売し、6次産業化を体験するイベント。
- ・ 令和7年12月10日(水) **専門高校ユナイテッド**
→ 北海道、福井県、熊本県の専門高校がタッグを組み、生徒や教員による協議等を行い、日本の専門高校 ONE-TEAM に向けた一歩とするイベント。
- ・ 令和7年12月15日(月) **S7サミット(専門高校代表者会議)**
→ 道立の専門高校7学科の代表者が集まり、第29期北海道産業教育審議会建議(令和7年11月下旬予定)の内容を共有し、今後の産学連携の在り方について意見交換をするイベント。



<R6 どさんこプラザでの販売会の様子>

イベントの実施報告については、本プロジェクトのウェブページや、ONE-TEAM ニュース(1月号)で紹介します。





文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」(R6~7年度)の取組や、専門高校と産業界との持続可能な連携に資する情報、さらには各高校で取り組んでいる好事例について情報提供します。

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の詳細はこちら→



「産業実務家教員リスト」の活用事例

本プロジェクトでは、生徒に対して実践的・体験的な学習機会を提供することを通じて、高度な知識・技術を身に付けさせることを目的として、専門高校との連携が可能な職業人又は事業所をまとめた「産業実務家教員リスト」を令和7年3月に作成し、道内すべての専門高校に配付しました。本号では、「産業実務家教員リスト」の効果的な活用事例を紹介します。

1 ニデック SV プローブ電子株式会社(上富良野町)との連携

ニデック SV プローブ電子(株)は、出前授業や工場見学、インターンシップの受入れなどの連携が可能であり、道内全ての専門高校を対象としています。新たな産業について学ぶ機会として、是非活用してください。

・苫小牧工業高校情報技術科

工業高校の価値や魅力、半導体が社会に与える影響等について広く小・中学生や地域住民に発信することを目的に、企業や自治体と連携したイベント「苫工半導体展」を毎年開催しています。

・名寄高校情報技術科

最新設備を有する実習棟「キタミライ」(令和6年度新設)を活用しながら、半導体に関する基礎について学んでいます。さらに、こうした先端技術に関する学びを一層充実させるために工場見学を行うことで、生徒の進路意識の高揚や学習意欲の向上につながるなど、大きな成果が見られています。



<「苫工半導体展」の様子(苫小牧工業高校)>



<工場見学の様子(名寄高校)>

2 株式会社星野リゾート(札幌市)との連携

株式会社星野リゾートは、観光業やマーケティングに関する出前授業や職場見学、インターンシップの受入れなどが可能であり、道内全ての専門高校を対象としていますので、是非活用してください。

・旭川商業高校国際ビジネス科

国や北海道の観光産業においては、新たな観光資源の創出の動きがある一方、人手不足の問題もあります。こうした中、地域における観光産業の学びに力を入れるため、科目「観光ビジネス」において、株式会社星野リゾートの協力を得て、現場見学や出前授業など行っています。

現場見学の前には、北海道観光人材発掘事業事務局より、宿泊業界や旅行業界について学びを深める事前授業を行っていただくことで、現場見学がより一層、意義のあるものとなっています。



<現場見学の様子>



<事前学習の様子>

【図 25-1】 ONE-TEAM ニュース第6号(1ページ目/全2ページ)

3 (株)NTT e-Drone Technology(埼玉県)との連携

(株)NTT e-Drone Technology は、ドローンのデモフライトのほか、ドローンの仕組みと必要性を学べる出前授業などが可能であり、道内全ての専門高校を対象としています。農業分野に限らず連携可能ですので、是非活用してください。

・岩見沢農業高校農業科学科

(株)NTT e-Drone Technology と連携し、農薬散布用ドローンで肥料や農薬の散布を行っているほか、教諭1名がインストラクターの資格を取得したことで、生徒も学校でドローンの操縦に係る資格取得が可能となり、今年度は7名の生徒が資格を取得しました。

また、NTTグループが開発・製造したドローンに、「クルナレーザー」(一般社団法人地域総研が研究開発・製造)を搭載した鳥獣害対策に係る機器を紹介され、学校園場で試験を行っています。



< 農薬散布用ドローンの操縦実習 >



< 鳥獣害忌避レーザー >

スマート農林水産業理解促進セミナー

農林水産業におけるスマート技術の導入について理解を深めるとともに、農林水産業の価値や魅力を発見するセミナーを、令和8年1月20日(火)にオンラインで開催します。農業や水産業におけるスマート技術についての講演のほか、農業科の生徒による学習成果の発表を行います。

専門高校はもとより、中学校や普通科の高校等においても、先生方や保護者へ周知いただき、生徒の農林水産業への理解を深める機会として御活用ください。また、産業界の皆様のご参加もお待ちしております。



道教委「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」のウェブページに、実施要項及びチラシが掲載されています。御確認ください。

「スマート農林水産業理解促進セミナー」の申込みはこちら→



令和8年1月13日(火) 締切

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」
スマート農林水産業に関する理解を深め、農林水産業の価値や魅力を発見することを目的に、セミナーを開催します。

スマート農林水産業理解促進セミナー
令和8年1月20日(火) 14:00-16:00

Zoomを利用したオンラインセミナーです

講演者 1 (14:40-15:00) 「スマート農業の現状とこれからの方向性」 北海道立大学機械情報工学部 准教授 佐藤 健特 氏
講演者 2 (15:10-15:40) 「ドローンを活用したスマート水産業の今後の可能性について」 株式会社大野代表取締役 中野 謙也 氏
講演者 3 (15:40-15:55) 「データ駆動型農業の実践に向けた学習」 北海道岩見沢農業高等学校 農業科学科2年 戸田 匠輔、西室 悠輝 氏

参加対象
① 公立高校及び中学校教諭等
② 農業・水産・漁業・林業の専攻学生、高校2年以上の学生等
③ 農林水産関係者(農業者、農業者関係者、関係機関職員等)
④ 農林水産関係のキャリアアップ受講生(高校生)

申込方法
この申し込みコードを読み込み、画面上で入力し、ウェブページ上で確認してください。(URL: <https://forms.gle/8a9m9898989898>)

申込締切日 1月13日(火)締切

第29期北海道産業教育審議会建議について

第29期北海道産業教育審議会による建議「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」を道教委ウェブページに掲載しています。

高校生や中学生、教員など、約5,000名を対象に実施したアンケート調査の結果を基に「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の目的にも関連する、持続可能な産学連携の在り方や、専門高校の魅力化など、地域を支える人材育成に重要となる内容が示されています。

ウェブページには、建議をまとめた概要版も掲載されていますので、是非御覧ください。

第29期北海道産業教育審議会 建議はこちら→



本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査

建議

令和7年(2025年)11月25日
北海道産業教育審議会

< 建議 (表紙) >

第29期北海道産業教育審議会建議 (概要版)
「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」

北海道産業教育審議会は、「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」を実施し、令和7年(2025年)11月25日、北海道教育委員会に建議を行いました。

3つに整理した本道産業教育における課題

本道産業教育における課題を次の3つに整理し、13年寄りとなる大規模調査を実施し、調査結果の分析を行いました。(建議2ページ)

【調査課題の整理】
① 調査課題の整理
② 調査課題の整理
③ 調査課題の整理

【調査結果の整理】
① 調査結果の整理
② 調査結果の整理
③ 調査結果の整理

調査対象者(回答者数) 調査実施日

調査対象者(回答者数) 調査実施日

調査対象者(回答者数) 調査実施日

< 概要版 (全4ページ) >

【図 25-2】 ONE-TEAM ニュース第6号 (2ページ目/全2ページ)



マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」

ONE-TEAM News

北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

令和8年(2026年)

第7号

1月7日

文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」(R6~7年度)の取組や、専門高校と産業界との持続可能な連携に資する情報、さらには各高校で取り組んでいる好事例について情報提供します。

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の詳細はこちら→



取組に係るアンケート結果から見てきたもの

本プロジェクトでは、今年度、産業界関係者と高校教員が持続可能な産学連携について理解を深めることを目的に、道内4圏域において「産学連携シンポジウム」及び「ONE-TEAM フォーラム」を開催しました。本号では、各取組におけるアンケート結果を報告します。

<取組の概要>

産学連携シンポジウム(令和7年7月開催)

【主な内容】

事例発表、パネルディスカッション、協議

【参加者数(4会場合計)】

教員 93 名、産業界関係者 85 名、生徒 16 名

【特徴】

学校外を会場とし、生徒・教員・産業界関係者による発表を聞いた上で協議



<拠点校による発表(道南会場)>



<パネルディスカッション(道央会場)>



<意見交換・協議(道北会場)>

ONE-TEAM フォーラム(令和7年10月開催)

【主な内容】

産業界関係者による出前授業の見学、協議

【参加者数(4会場合計)】

教員 94 名、産業界関係者 49 名、出前授業における生徒多数

【特徴】

会場校における出前授業の見学を踏まえ、産学連携の具体や生徒の姿をイメージした上で協議



<出前授業(道北会場)>



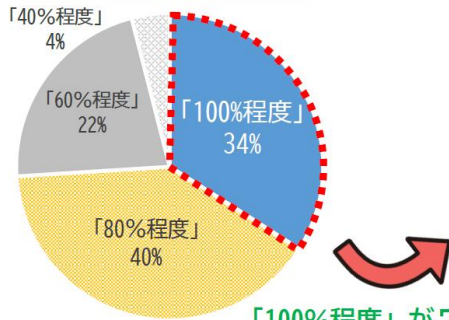
<出前授業(道東会場)>



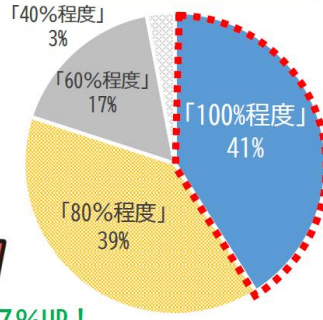
<意見交換・協議(道南会場)>

アンケート結果「満足度・充実度」

産学連携シンポジウム



ONE-TEAM フォーラム



「100%程度」が7%UP!

アンケート結果を比較すると、「ONE-TEAM フォーラム」の方が、満足度・充実度が高いことが分かります。

この要因は、参加者が実際に出前授業を見学したことで、産学連携を身近に感じたことや、具体的な連携のイメージを描くことができたことなどが考えられます。

参加者の声

産学連携シンポジウム

- ・色々な業種の方や、他の高校の先生方と交流ができて大変勉強になった。(専門学校教員)
- ・今後のよりよい産学連携について、見直しをしなければならぬ部分があると感じた。(企業関係者)

ONE-TEAM フォーラム

- ・事前学習、現地見学、まとめなど、複数回にわたって構造的に産業界と連携した授業が行われていて魅力を感じた。(専門学校教員)
- ・専門高校の授業を見ることで、学校の取組についても理解が深まった。(企業関係者)

上記の結果から、教員・産業界関係者が産学連携の在り方について考える際には、出前授業の見学など、実際に体験等を行うことに大きな意味があることが分かりました。

こうしたことから、専門学校においては、産業界の方々に実習の様子を見ていただいた上で、学校の実態に応じて、生徒に実践的・体験的な学びの機会を提供できるよう、持続可能な産学連携の構築を図ることが大切です。

また、産学連携に興味・関心のある産業界の皆様におきましては、専門学校から協力の依頼があった際には、是非、学校に足を運んでいただくなどして授業を見学いただき、連携の内容や方法などについて検討していただきますようお願いいたします。



S7サミット(専門学校代表者会議)を開催

令和7年12月15日(月)、専門学校を代表する校長等が、第29期北海道産業教育審議会建議の内容を共有し、今後の本道産業教育の在り方について理解を深めることを目的に「S7サミット」を開催しました。

当日は、道内の専門学校7学科(農業・工業・商業・水産・家庭・看護・福祉)の代表校長や、北の専門学校ONE-TEAMプロジェクト拠点校の校長、第29期北海道産業教育審議会委員4名に参加いただき、今後の産学連携の在り方や、専門高校の魅力化などについて意見を交わしました。

<内容>

- 説明
建議「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」について
説明者：第29期北海道産業教育審議会会長 岡部 善平 氏
- 情報提供
「専門高校の魅力化や産学連携に係る情報提供」
- 意見交換
①建議を踏まえた北海道の産業教育の在り方について
②テーマ別意見交換
A 専門高校の魅力化・魅力発信に向けて取り組むべきこと
B 生徒の学びを深める持続可能な産学連携に向けて取り組むべきこと



<開会式>

S7サミットで共有された、第29期北海道産業教育審議会 建議はこちら↓



<岡部氏による説明>



<意見交換>

【図 26-2】 ONE-TEAM ニュース第7号 (2ページ目/全2ページ)



本通信の第6号(R7.12.24発行)において、道教委の附属機関である第29期北海道産業教育審議会による建議「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」(R7.11.25)について紹介しました。そこで本号では、各学校において建議で示された提言を実現するに当たって、参考となる先進的な取組について紹介します。

高校と産業界が「一緒に人を育てていく」という意識醸成の工夫

建議では、高校と産業界の連携において大切となる点について、次の3点が示されています。

【高校と産業界の連携において大切となる点】

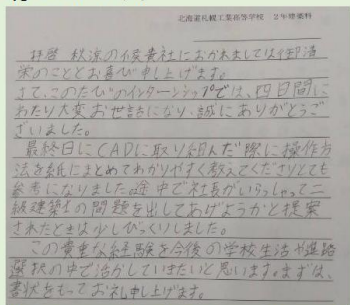
- ◆ 顔の見える関係づくりが大切であり、各学校は**コミュニケーションと協働関係の構築**に努めること。
- ◆ 出前授業や現場見学などの実施に当たっては、企業と一体となって事前・事後指導を行うなど、高校と企業が「**一緒に人を育てていく**」という意識で、連携を進めるよう努めること。
- ◆ 学校は、生徒の変容を企業に伝えたり、アンケートや感想文、成績の向上や「実習」におけるスキル向上の程度を共有したりするなど、企業の方が**教育実践に携わっていると実感できる**よう努めること。

◎ 専門高校と企業が「一緒に人を育てている」といった意識の下で連携し、人材育成に取り組んでいる好事例

例1 企業に礼状や感謝状を送付して、生徒の変容や感謝の思いを伝える(札幌工業高校)

企業にとっては、インターンシップや現場見学会などの連携した取組によって、生徒にどのような変容が見られたのかわかることで、今後の連携の在り方の参考にすることができるほか、担当者のモチベーション向上にもつながります。

札幌工業高校では、インターンシップにおける事後指導の一つとして、生徒が自分の言葉で礼状を作成し、それぞれの受入れ企業に送付しています。また、一般社団法人札幌建設業協会と緊密に連携して、生徒や保護者を対象とした現場見学会を実施しており、協力いただいた企業等に対しては、校長から感謝状を贈呈しているほか、人材育成に関する意見交換を定期的に行っています。



<生徒の気持ちが込められた手書きの礼状>
【出典】大平洋建業株式会社(札幌市) Instagram



<校長(中央)から協力企業に感謝状を贈呈>
【出典】一般社団法人札幌建設業協会ウェブサイト

例2 学校と地域が協働できる体制を構築する(名寄高校)

学校と地域の産業界等が人材育成の理念を共有し、コンソーシアムのような体制を構築することは、連携した取組が継続しやすく、持続可能な産学連携につながります。



<名高応援団チラシ>

名寄高校では、令和7年10月、名寄商工会議所と連携し、学校を支える仕組みを地域社会全体でつくることなどを目的に、パートナーシップ組織「名高(めいこう)応援団」を設立しました。事務局業務を学校と商工会議所で分担し、校内で作成した「名寄高新聞」を団員にメール配信するなどして情報を発信しつつ、団員の確保に努め、授業・探究・部活動などに参画していただける幅広い人材や資金の確保を進めています。



<名寄市の加藤市長(中央)をはじめとした関係者による結団式>



<入団申請フォーム>

【出典】名寄商工会議所ウェブサイト

例3 インターンシップ報告会に受入れ企業の関係者を招待する（札幌琴似工業高校）

インターンシップの実施に当たっては、学校と企業が協力して、事前・事後指導に取り組むことが効果的です。札幌琴似工業高校では、校内で開催するインターンシップ報告会に、協力いただいた企業の方を招待しています。報告会に参加した企業の方は、受入れ生徒が自社の加工装置について説明する姿や質問に回答する姿を目にすることで、生徒の成長を感じるなど、人材育成に携わっているといった意識が醸成されています。



<企業の方による丁寧な指導>



<報告会での質疑応答>

【出典】株式会社札幌ゴムウェブサイト



小学科における特色ある学習内容を見える化する工夫



建議では、専門高校は、先端技術に触れることができるなどの学びの魅力に加え、**学科ごとの特色ある実習等を見える化することが大切**であると示されています。

ここでは、専門高校が、学科ごとの特色ある学習内容を効果的に発信している好事例を紹介しますので、各学校の魅力発信における参考にしてください。

例1 Instagram アカウントを小学科単位で作成・運用する（岩見沢農業高校）

岩見沢農業高校では、Instagramのアカウントを小学科単位で作成・運用し、魅力発信に取り組んでいます。畜産科学科のアカウントでは、恵庭市の愛犬倶楽部から犬を譲渡いただき、愛玩動物の飼育や法令について学ぶ様子など、写真や動画を数多く掲載しており、中学生やその保護者に対して、学習内容を見える化しています。



<畜産科学科のアカウント>



<食品科学科のアカウント>



<森林科学科のアカウント>

例2 note のマガジンを小学科単位で作成・運用する（函館工業高校）

函館工業高校では、noteのマガジンを小学科単位で作成・運用し、魅力発信に取り組んでいます。建築科のマガジンでは、一般社団法人北海道建設業協会と一般社団法人函館建設業協会に協力いただき、高校生が講師を務めて開催した「冬休み親子ものづくり教室」の様子、電子機械科のマガジンでは、電気自動車の分解・組立てなどを行う出前授業の様子など、特色ある教育活動を多くの写真を用いて紹介しており、中学生やその保護者に対して、学科の取組を広く発信しています。



<建築科のマガジン>



<電子機械科のマガジン>



文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」(R6~7年度)の取組や、専門高校と産業界との持続可能な連携に資する情報、さらには各高校で取り組んでいる好事例について情報提供します。

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の詳細はこちら→



産学連携のコーディネートを担う教員の育成に向けて

本通信の第8号(R8.1.27発行)では、第29期北海道産業教育審議会建議の内容を踏まえ、高校と産業界が一緒に人材を育成していく意識を醸成する取組事例を紹介しました。

本号では、同建議で示された(下記参照)産業界との連携において、コーディネートを担う教員の発掘・育成・活用、そのための環境整備について、参考となる事例を紹介します。

【産業界との連携においてコーディネートを担う人材について】※第29期北海道産業教育審議会建議より抜粋・編集

- ◆ 連携の担当者は、企業の担当者との連絡調整や事業の企画運営、校内調整など、多様な役割を担うことから、各学校においては、こうした人材の発掘、育成、活用、そのための環境整備が重要となる。
- ◆ そのため、コーディネートに関わる業務を各学科の業務や校務分掌に位置付けるなど、業務の見える化を図るとともに、連携先や連携内容などに応じて、担当者が臨機応変に対応できるよう、校内体制を整えることも有効である。

事例1 ウェブサイト「マナビカエル」の事例を参考にした連携(文部科学省)

文部科学省では、高校教員のためのポータルサイト「マナビカエル」を開発しており、全国の様々な特色・魅力ある高校の取組や、指導事例を集めて紹介しています。高校の特色化・魅力化のプロセスを紹介する「先生の話を聴く」ページと、全国の専門高校からデジタル教材の工夫と成果を紹介する「授業事例を知る」ページの2つがあります。

「先生の話を聴く」ページでは、「探究的な学習」や「産業界との連携」などのキーワードで事例を検索することが可能です。また、「授業事例を知る」ページでは、農業や工業など、学科等の条件で事例を絞り込むことも可能です。

産学連携に役立つ多くの事例が掲載されていますので、実社会の課題を解決しようとする探究的な学びや、大学や産業界等と連携した高度かつ実践的な学びに取り組むに当たって、是非、参考にしてください。



「先生の話を聴く」ページ



「授業事例を知る」ページ

【出典】文部科学省ウェブサイト「マナビカエル」

事例2 地域の経済団体と連携協定を締結し、産業界と連携した人材育成(留萌高校)

留萌高校は、令和7年8月、生徒と地域との結び付きを強化し、地域産業を支える人材の育成はもとより、市外進学先からのUターン人材の育成などを目的として、留萌商工会議所と連携協定を締結しました。

連携事項には、高校が必要とする講師の派遣や、「総合的な探究の時間」に対する支援などが含まれており、現在、これまで以上に、留萌管内の産業や経済に関する実践的・体験的な学習が展開されています。

留萌商工会議所の大石会頭からは、「企業と学校の距離が近くなることで生徒が企業に興味をもち、今後の留萌の発展につながってほしい」と期待されています。



協定書を手にする左から中西市長、校長、大石会頭



留萌市立病院



興北建設株式会社
<インターンシップの様子>



ホテルニューホワイトハウス

事例3 校内で連携のコーディネートを担う人材の発掘・育成（札幌工業高校）

DX ハイスクール事業（半導体重点枠）に取り組んでいる札幌工業高校では、北海道大学、Rapidus（株）、ミツミ電機（株）、デンソー北海道（株）など、半導体やIT分野における有識者を構成員とした事業運営委員会「テクノロジー人材育成フォーラム」を開催しています。

本フォーラムには、管理職のほか、事業の企画・調整等のコーディネートを担う各科長の教員が参加していますが、本校での人材育成と連携体制の持続化を目的に、科長以外の教員に対しても見学・参加を促しています。この結果、多くの工業科教員に加え、共通教科の教員も参加するなど、産学連携の意識が校内で広く醸成されており、学校全体としての事業が展開されています。



第2回テクノロジー人材育成フォーラム
(奥後列は見学する教員)



大学教授による半導体に関する出前授業



掲載した事例を参考に、各学校や地域において、持続可能な産学連携を推進する体制整備や人材育成について検討の参考にしてください。



産業実務家教員ミーティングを開催



令和8年1月20日(火)、産業界等の関係者が、産学連携の意義や事例を共有し、互いの知見を深めるとともに、横の連携を築くことで、専門高校における産学連携のさらなる充実・発展を図ることを目的に、産業実務家教員ミーティングをオンラインで開催しました。

全道から産業実務家教員、企業関係者など13名に参加いただき、参加者は、高校と産業界の持続可能な連携の在り方などについて理解を深めました。

<内 容>

- (1) 説 明 第29期北海道産業教育審議会建議
「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」について
(第29期北海道産業教育審議会副会長 明田川 知美氏)
- (2) 発表① 高校との連携で企業が得たもの
(ニデックSVプローブ電子(株) 西山 香織氏)
- (3) 発表② 建設業界を目指したきっかけ～産学連携が生んだ人とのつながり～
(苫小牧工業高校建築科3年 堂畑 麗音さん)
- (4) 協 議 高校との連携の望ましい在り方について



スマート農林水産業理解促進セミナーを開催



令和8年1月20日(火)、高校及び中学校の教員や中高生の保護者等が、スマート農林水産業に関する理解を深めるとともに、農林水産業の価値や魅力を発見するため、オンラインセミナーを開催し、全道から農林水産業関係者等を合わせて39名に参加いただきました。

<内 容>

- (1) 講演① 「スマート農業の現状とこれからの方向性」
(帯広畜産大学 佐藤 禎稔氏)
- (2) 講演② 「ドローンを活用したスマート水産業の今後の可能性について」
(株)大歩 中村 徹也氏)
- (3) 事例発表 「データ駆動型農業の実践に向けた学習」
(岩見沢農業高校農業科学科2年 戸田 匠翔さん
四釜 悠瑚さん)
- (4) 質疑応答



帯広畜産大学の佐藤教授による講演の様子



本セミナーの当日の様子や参加者の声については、右の二次元コードから「セミナーレポート」を御覧ください。





文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」(R6~7年度)の取組や、専門高校と産業界との持続可能な連携に資する情報、さらには各高校で取り組んでいる好事例について情報提供します。

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の詳細はこちら→



「北の専門高校 ONE-TEAM フェスタ」を開催

令和8年2月13日(金)、札幌コンベンションセンターにおいて、「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の成果を共有し、産学の交流を図る「北の専門高校 ONE-TEAM フェスタ」を開催しました。専門高校の生徒及び教員のほか、産業界関係者、中学生保護者など254名(会場参集168名、オンライン86名)に参加いただきました。本号では発表内容や当日の様子、参加者からの声を紹介いたします。

基調講演 「海とまちを近くする会社」の地域づくり実例
講演者 株式会社 LAUGH GROUP 代表取締役社長 大坪 友樹 氏



<講演する大坪氏>

【主な内容】

- 日本の水産流通を革新し、2048年問題の解決につながる、「漁業者と食卓をつなぐ、一気通貫の事業運営」
- 事業を行うに至った経緯や思い
- 自分たちの強みや夢、社会から求められている価値を理解した事業の展開
- 持続可能な地域産業の創造

成果発表 「高校生による産学連携を通して学んだこと等について」

本プロジェクトの拠点校(小樽水産、旭川商業、室蘭工業、更別農業)をはじめ、旭川工業高校、置戸高校の6校の生徒が、各校における産学連携の取組から学んだことや、今後に生かしていきたいことなどについて発表しました。生徒の皆さんによる発表や、質疑における発言の中から、特徴的なものを紹介します。

◆ 小樽水産高校 「企業と連携した藻場再生とゼロカーボンへの取組について」

- ・地域課題の解決に向けた藻場再生を通して、環境保全について考える視点をもてるようになった。
- ・水産業について、若い世代に伝える取組が重要であると気付くことができた。

◆ 旭川商業高校 「企業や大学との連携授業を通して学んだこと」

- ・「地域から学ぶ側」から「地域に関わる側」へ、自身の視点や行動が変化した。
- ・農業や林業など、様々な業種と連携し、新たな発見が多くあった。



◆ 室蘭工業高校 「産業界と連携・協働した室蘭工業高校の取組」

- ・コミュニケーションの大切さを強く感じた。
- ・他学科の学びを知り、視野を広げることの重要性や、様々な分野がつながり仕事や社会が成り立っていることを理解し、自分の未来を思い描くことにつながった。



◆ 旭川工業高校 「空調設備の担い手となるために~ダイキンとの出会い~」

- ・エアコン据付実習を通して、当たり前にあるものが、ありがたいと思えるようになった。
- ・作業手順の意味や根拠について理解を深めたことから、「なぜ?」を追究する面白さに気付くことができた。

◆ 更別農業高校 「社会とつながる私たちの学び」

- ・産学連携を通して、農業に関する学びが社会につながっていることを、実感できた。
- ・地域や農業が抱える課題を自分事として捉え、具体的な解決策を考えることができるようになった。

◆ 置戸高校 「福祉×旅 星野リゾート トマムと考える福祉の可能性 ~全ての人々へ!福祉の力で豊かな人生を~」

- ・持続可能な福祉社会についての学びが深まった。
- ・福祉の学びを観光業に生かす取組を通して、社会の広い分野で、福祉の学びや考え方が求められていると気付くことができた。



<成果発表の様子(室蘭工業高校)>



<発表後の質疑応答の様子(左:置戸高校、右:旭川商業高校)>



成果発表資料
下記の二次元コードから、各校の発表資料を御覧になれます。↓



交流会 「産学連携で開発した商品の販売及び学習成果の展示」

12校がブースを設け、企業と連携して開発した商品の販売や、産学連携の成果に係る展示を行いました。会場では、販売や展示などを通して、高校と産業界の活発な交流が図られていたほか、生徒や教員が学科の垣根を越えて情報交換する様子も見られました。

<販売> ※ () 内は展示・販売に関係した学科

- ・札幌東商業高校 (商業)
- ・函館水産高校 (水産)
- ・富良野高校 (商業)
- ・苫小牧総合経済高校 (商業)
- ・旭川商業高校 (商業)
- ・更別農業高校 (農業)



<地域で水揚げされたブリを活用した加工品 (函館水産)>



<道産食材を活用したドレッシングなど (札幌東商業)>



<地域特産物を活用した菓子 (苫小牧総合経済)>

<全体>



<交流会での YouTube 配信 (稚内)>

<展示> ※ () 内は展示・販売に関係した学科

- ・札幌工業高校 (工業)
- ・静内農業高校 (農業)
- ・大野農業高校 (農業)
- ・当別高校 (家庭)
- ・函館工業高校 (工業)
- ・稚内高校 (看護)



<レーザー加工機を使用したコースター製作 (函館工業)>



<地元の食材を活用したカレー開発に係る展示 (静内農業)>



<顔出しパネルでの記念撮影 (旭川工業)>

総括 北海道教育庁学校教育局高校教育課産学連携コーディネーター 月館 海斗

【主な内容】

- 次代の北海道産業の担い手として、地域産業の未来を真剣に考えることの重要性や、働く上で「目的が変われば、意識が変わる」こと
- 産業構造や働き方が変化中、学校側と企業側双方から、地域産業における諸課題の解決に主体的に関わろうとすることが、持続可能な産学連携を実現する上で重要
- 学びの「振り返り」を丁寧に行うことで、変化の激しい時代においても、挑み続けることができる



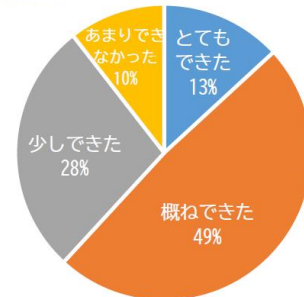
<月館コーディネーターによる総括>

参加者の声 (アンケート調査結果 (76 名回答) から)

<主な感想>

- ・ 専門高校の様々な取組について知ることができ、他校・他学科の取組にとっても興味が湧きました。(専門高校生徒)
- ・ 産学連携についてどのように考え、アクションをしていけばよいのかを見つけるためのよい時間となりました。今後の取組の参考にしていきます。(専門高校教員)
- ・ 専門高校の学んでいる内容が地域に密着していることがよく分かりました。企業として、専門高校を支援していけるか検討していきます。(企業関係者)

本フェスタまたは本プロジェクトを通じて、異なる業界などと「つながり」をもつことができましたか



イベントの様子は、YouTube にてライブ配信も行い、多くの方に視聴いただきました。本フェスタに御協力・御参加いただきました皆様、ありがとうございました。



マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」

ONE-TEAM News

北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

令和8年(2026年)

第11号

(最終号)

3月13日

文部科学省マイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」(R6~7年度)の取組や、専門高校と産業界との持続可能な連携に資する情報、さらには各高校で取り組んでいる好事例について情報提供します。

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の詳細はこちら→



「おしごとガイドブック」(高校生版・中学生版)を発行

本ガイドブックは、全道の中学1、2年生と高校1、2年生向けに先端技術を活用した新たな産業や働き方に関する中高生の理解促進、並びに中学生が専門高校を進路の選択肢の一つとするのを目的に作成したもので、3月中旬頃に送付する予定です。

内容として、社会で活躍する専門高校卒業生の紹介や、専門高校と産業界・小学校との連携事例、学科の垣根を越えた連携事例を紹介しています。

さらに、中学生版には、専門高校の生徒3名と産学連携コーディネーターによる対談の様子、高校生版には、高校と地域が一体となった連携の事例を紹介しています。

今後、「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」ウェブページにも掲載する予定です。産業界の皆様におきましても是非御覧ください。



<おしごとガイドブック表紙(左:高校生版、右:中学生版)>



<専門高校における連携事例の紹介>



<社会で活躍する専門高校卒業生の紹介>



「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」の成果と課題

本プロジェクトにおける2年間の取組について、文部科学省のマイスター・ハイスクール事業成果発表会(東京で開催)及び第3回 ONE-TEAM コミッティ(本プロジェクトの事業運営委員会)において委員の皆様等からの講評、御意見等について紹介します。

マイスター・ハイスクール事業成果発表会: 令和8年1月30日(金)実施

<取組についての評価>

- 「学校と産業界が一緒に人を育てていく」という意識の醸成に意を配していることから、今後のより密度の濃い産学連携の構築が期待される。
- 半導体、洋上風力、六次産業化などに関連する職業への理解を深めるとともに、教員が抱える課題にも目を向け、様々な角度から問いを設定していた点が特徴的。
- 産学連携ユナイテッドなど、道県を超えての取組も素晴らしい。 など

<今後の課題>

- 事業によって生徒にどのような力が付いたのか、どのような力が伸びなかったのかを定量的に把握し、その対応策について協議・実践し、横展開を進めていく必要がある。
- 専門高校における取組は、農業、工業などを中心に、特色ある実践が数多く見られた一方で、今後は看護、福祉といった分野においても、取組の更なる充実が期待される。
- 学校と産業界で一緒に育てている感を作るという意識改革の取組に今後も期待する。 など



文部科学省マイスター・ハイスクール事業成果発表会の詳細はこちら



第3回 ONE-TEAM コミッティ：令和8年2月19日（木）実施

<本事業における成果>

- 生徒たちは、「専門高校で専門分野の学びを深めるほど進路の可能性が広がる」ということを、産学連携を通して理解を深めることができた。
- 本プロジェクトの事業を通して、企業側も産学連携によって、様々な専門性やスキルをもった人々と繋がる機会になった。
- 学校と産業界が「一緒に人を育てる」という意識をもつきっかけとなった。 など



<コミッティ委員による協議>

<本事業における課題・今後に向けた取組>

- 専門高校の学びが「進路を狭めるものではなく、広げるもの」であることを広く発信する必要がある。
- 生徒には、世の中にどのような職業があり、国を支えているのかということを知り、エッセンスラルワーカーがどう仕事に取り組んでいるのかということを知ることが必要である。
- 産業実務家教員リストは、打合せのノウハウや、生徒の変容事例などを具体的に記載することにより、現場の教員が活用しやすくなる。 など

上記のほかにも、多くの御意見・御助言をいただきました。今後の産学連携の充実等に生かしていきます。



2年間の事業を振り返って

北海道教育庁学校教育局高校教育課産学連携コーディネーター 月館 海斗

令和6年度に始まった「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」も、あっという間に2年間の節目を迎えました。

プロジェクト開始当初、多く聞かれたのは「産学連携を進めたいが、接点をもつ機会がない」という声でした。しかし、1年目のシンポジウムでの熱気あるディスカッションや、2年目に道内各地で開催したフォーラムでの出前授業の見学などを通して、状況は大きく変わりました。



企業の方へのアンケートでも「対面でのコミュニケーション」を重視する声が多くありましたが、実際に「直接会って話せる場」を作ることが、産学連携を進める上でいかに大切かを実感しています。これまで接点がなかったお互いの距離がぐっと縮まり、「相互に理解が深まった」という嬉しい声も数多くいただきました。



こうした活動を通して私が最も強く感じたのは、産学連携には「一緒に学ぶ姿勢」が何より大切だということです。企業が「教える」、生徒が「教えられる」という一方通行ではなく、まだ答えのない問いに対して、大人たち自身も生徒と一緒に悩み、学び合い、共に成長していく。そんな温かい関係性こそが、持続可能な連携のカギになると、この2年間の学校と企業連携を通して実感しました。

大人の想像を超える生徒たちの柔軟な発想や、目を輝かせて学ぶ姿に、関わった私たち大人もたくさんの刺激とパワーをもらいました。学校と地域、そして産業界が文字通り「ONE-TEAM」となって歩み始めたこの繋がりは、これからもさらに広がっていくと信じています。

これまで関わってくださった皆様、本当にありがとうございました！
これからも一緒に、北海道の未来を担う若者たちを応援していきましょう！

本通信は「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」における取組の一つとして、高校教員や産業界関係者に向けて作成しており、これまでの2年間で、学校や教育委員会、経済団体等に計17号を配布してきました。

本プロジェクトの取組としては、本号が最後の発行になりますが、道教委では、今後も高校と産業界が連携を図る上での参考となる情報や、専門高校のもつ価値や魅力を広く発信していく予定です。

そこで、次年度以降の参考とするため、本通信の読者アンケートを実施することとしました。学校・産業界等を問わず、御協力いただける方は、4月17日（金）までに、右の二次元コードから回答願います。

「ONE-TEAM ニュース」に対する御意見・御感想はこちら↓



2年間にわたる本事業に、御理解・御協力いただきありがとうございました。「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」は今年度をもって終了しますが、今後も、産業界及び小中学校等との「縦のつながり」、学科の垣根を越えた「横のつながり」を大切に、次代の北海道を創る人材育成に向けた取組を推進していきますので、今後ともよろしくお願いいたします！

【図 30-2】 ONE-TEAM ニュース第 11 号（2 ページ目／全 2 ページ）



北海道の専門高校が開催する 学習成果発表会を紹介します



北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクトとは？

北海道においては、農業や水産業のスマート化、次世代半導体や洋上風力発電など、産業構造が大きく変化しており、道内の専門高校（職業学科を設置する高校）には、仕事内容などの変化に対応した職業人材の育成が求められています。

本プロジェクトは、産業界と専門高校のサステナブル（持続可能）な連携の充実を図るとともに、専門高校の価値や魅力を広く発信し、魅力ある北海道を創る人材育成を推進する2年間（R6, R7）の事業です。

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」のWebページはこちら



本リーフレットでは、**専門高校の概要と、今年度開催される専門高校の魅力**を広く発信する**学習成果発表会**について紹介します。

専門高校って？

1 専門高校とは・・・

農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉などの職業に関する専門学科をもつ高校のことをいいます。

2 勉強は・・・

専門科目について、座学で知識だけを身に付けるのではなく、**演習**や**実習**を通して**技術を身に付けます**。また、生徒個々やグループでテーマを設定し、特定の分野を**研究**する取組を行っています。

3 学科は・・・

公立の専門高校は67校です（農業21、工業16、商業29、水産3、家庭3、看護2、福祉1）

<専門高校における学習内容のイメージ>

1年	共通科目	専門科目
2年	共通科目	専門科目
3年	共通科目	専門科目

<道内にある専門高校（7学科）の学習内容>



農業

持続可能な農業生産、地域資源の活用や農業DXなどを学びます。



工業

ICTや再生可能エネルギーなどのテクノロジーを学びます。



商業

ICTやマーケティング、会計などのビジネススキルを身に付けます。



水産

船舶や、マリンバイオテクノロジー、食品開発などを学びます。



家庭

衣食住や保育・福祉などの知識・技術を身に付けます。



看護

療養の場の多様化に対応した、看護の知識・技術を身に付けます。



福祉

超高齢社会を見据えた、これからの福祉の学びを深めます。

下の二次元コードを読み取ると、「職業学科を設置している道立高校のホームページへのリンク」のページに進みます。最新の情報は、Webページを**Check!**



道内全域から出願が可能です。自分の興味のある学科を選んでみませんか？

【図 31-1】リーフレット「北海道の専門高校が開催する学習成果発表会を紹介します」

(1 ページ目/全 2 ページ)

学習成果発表会の紹介（令和7年度）

各学科の取組が分かる成果発表会や販売会のほか、体験型のイベントもあります。



農業に関する学科

農業クラブ全道実績発表大会

農業高校の生徒が「課題研究」の授業で取り組んでいる栽培や飼育、商品開発などのプロジェクト学習の成果を発表します。

- とき：R7. 8. 21(木)～22(金)
- ところ：遠別農業高校



北海道農業高校収穫祭

生徒が実習で生産した、米、野菜、肉製品の販売などを行います。

- とき：R7. 10. 11(土)
- 各店営業開始時刻から実習生産物がなくなるまで
- ところ：イオン全道6店舗
(発寒店、上磯店、帯広店、旭川西店、釧路店、北見店)



工業に関する学科

高等学校ロボット競技大会

工業科における学びを生かし、仲間と協力しながら製作したロボットを操作し、競技課題に取り組んで、得点を競います。

- とき：R7. 8. 22(金)～23(土)
- ところ：札幌琴似工業高校



高等学校工業クラブ大会

工業科で学んだ知識や技術を生かし、「課題研究」の授業で創意工夫を凝らして製作した作品や工業に関する調査結果について発表します。

- とき：R8. 1. 15(木)～16(金)
- ところ：札幌工業高校

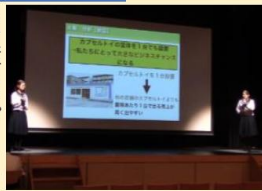


商業に関する学科

高等学校商業クラブ研究発表大会

新しいビジネスを創造するため、マーケティングや経済、産業などをテーマに、仮説設定と検証を行い、その研究成果をプレゼン形式で発表しています。

- とき：R7. 8. 26(火)～27(水)
- ところ：札幌観光プライダル・製菓専門学校



高等学校商業教育フェア

商品販売、ビジネスマナーに関する学習成果の発表を行い、他校生や道民との交流を通してコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高めます。

- とき：R7. 9. 12(金)～13(土)
- ところ：新さっぽろサンピアザ「光の広場」



水産に関する学科

高等学校水産クラブ研究発表大会

水産に関する学習で身に付けた知識や技術を生かして、水産業や関連産業に関して行った調査・研究の成果を発表します。

- とき：R7. 11. 5(水)
- ところ：小樽水産高校



実習船体験航海

保護者や学校の近隣にお住まいの方に、水産高校生が普段乗っている大型実習船に乗船いただき、実習内容などを紹介します。

- とき：R7. 6. 15(日)
- ところ：小樽港（若竹丸）



家庭・福祉に関する学科

意見・体験発表大会

全道の高校で「家庭」や「福祉」を学んでいる生徒が、日頃の学習成果についての意見や体験を発表します。

- とき：R7. 9. 19(金)
- ところ：江別高校



高等学校家庭クラブ連盟研究大会

家庭生活や地域社会の中から課題を見出し、研究発表を通して、クラブ員相互の研修を深め、生活の充実と向上を目指します。

- とき：R7. 9. 25(木)～26(金)
- ところ：札幌北高校



【図 31-2】リーフレット「北海道の専門高校が主催する学習成果発表会を紹介します」
(2ページ目/全2ページ)

本道産業の担い手を育成する道教委事業
「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」監修

中学生の進路選択に役立つ

専門高校

魅力発見ガイド

POINT

01

小学科ごとに学習内容や就職先などの詳細を掲載

POINT

02

在校生や卒業生のインタビューも多数掲載

商業

家庭

農業

工業

看護

水産

福祉



～専門高校とは～

職業教育を主とする学科を設置する高校を「専門高校」といい、本道には7つの学科の専門高校が設置されています。

本ガイドは、中学生や保護者、中学校の先生方に、専門高校の魅力を知ってもらうことを目的として作成しました。

令和7年6月 北海道教育庁学校教育局高校教育課

【図 32-1】 専門高校魅力発見ガイド（1 ページ目／全 26 ページ）

このガイドブックを手にとった皆さんへ



この「専門高校魅力発見ガイド」は、中学生はもとより、保護者や中学校教員などの皆さんに、専門高校がもつ価値や魅力をより深く知ってもらうために制作しました。

このガイドブックをきっかけに、一人でも多くの中学生の皆さんが専門高校についての理解を深め、本道の未来の創り手となることを期待しています。

北海道教育委員会 産学連携コーディネーター 月館 海斗

専門高校についての理解を一層深めるために

ここでは、専門高校のことを理解してもらう上で参考となる情報をお知らせします。

01 文部科学省における魅力発信の取組

文部科学省では、専門高校の魅力を小中学生やその保護者等に広く発信するため、小中学生・保護者向けサイトとSNSを開設しました。

◆小中学生・保護者向けサイト 「すごいぞ！専門高校」

専門高校で行われている授業の様子をショート動画にまとめ、現役高校生の声や、進路状況も掲載しています。

中学生だけでなく、中学校の先生や保護者の方にも参考になる内容です。



【身近な職業マップ（サイト内）】

◆Instagram（専門高校アカウント）

専門高校アカウントの公式Instagramを開設し、全国の専門高校の生徒が制作したショート動画を数多く公開しています。

道内の専門高校も複数掲載されています。



@MEXT_SANGYO



【紹介動画（左：釧路工業高校、右：置戸高校）】

02 工業科・商業科に関する校長会等のウェブサイト

北海道工業高等学校長会・北海道高等学校工業クラブ連盟のウェブサイトでは、ものづくりコンテストやロボット競技大会など、工業科の生徒が参加している大会等を紹介しています。

あわせて、本道の工業教育についてまとめた「新しい時代に向けた本道の工業教育－社会変革に挑戦する人づくりを目指す－」を掲載しています。（右図：表紙）



また、北海道高等学校長協会商業部会のウェブサイトでは、商業科の設置状況や、商業教育に関する各種事業等を紹介しています。（右図：ウェブサイト画面）



目次

・農業科・・・	P1	・看護科・・・	P20
・工業科・・・	P5	・福祉科・・・	P23
・商業科・・・	P9	・寄宿舎について・・・	P24
・水産科・・・	P13	・専攻科について・・・	P24
・家庭科・・・	P17		

【図 32-2】専門高校魅力発見ガイド（2ページ目／全26ページ）

農業科

食料生産・環境創造の未来を支える人づくり

目指す人材像

農業や農業関連産業の学びを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人

学科設置校（20校）

岩見沢農業、深川東、新十津川農業、当別、
倶知安農業、真狩、留寿都、壮瞥、
静内農業、大野農業、旭川農業、富良野、
幌加内、遠別農業、美幌、帯広農業、
更別農業、士幌、別海、中標津農業

（注）令和8年度入学者選抜の実施校

大学等進学率と主な進学先

進学率
48%

・帯広畜産大学
・弘前大学
・酪農学園大学
・東京農業大学 など

（注）令和7年3月卒（道教委調査）

農業科における学びのカテゴリー

農業科の学びは、大きく分けると次の4つのカテゴリーに分類できます。

① 生産技術・経営に関すること

作物や野菜、草花などの栽培、家畜の飼育や農業機械、植物バイオテクノロジー技術や、ICT機器を活用した最先端の農業技術について学びます。

【実習テーマの例】

野菜、草花等の播種から収穫までの管理、ウシ・ブタ・鶏等の飼養管理、ドローンによるセンシング、土壌分析等の栽培環境についての分析・調査、農業経営に関する実践的な学習、トラクターの乗車実習など

【取得できる主な資格等】

農業技術検定、危険物取扱者、土壌医検定、家畜商免許、ガス・アーク溶接技能講習 など

【主な就職先】

就農、北海道庁（農業職）、北海道クボタ、中セキ北海道、カルビー、ホクリョウ など



【稲の収穫作業】



【ウシの飼養管理】

② 食品に関すること

食品加工に関する学習と製造実習、それに関わる微生物のはたらきや、食品の流通の仕組み、地域特産物を活用した商品開発などを学びます。

【実習テーマの例】

農産加工品製造（パン、ジャムなど）、肉加工品製造（ハム、ベーコンなど）、乳加工品製造（市乳、チーズなど）、食品化学・微生物に関する実験・衛生検査、実習生産物の販売実習 など

【取得できる主な資格等】

農業技術検定、食品衛生責任者養成講習、食生活アドバイザー など

【主な就職先】

スターゼンミートプロセッサー、国分北海道、六花亭、雪印メグミルク など



【ソーセージ製造実習】



【食品衛生検査】

【図 32-3】 専門高校魅力発見ガイド（3ページ目／全 26 ページ）



③ 国土の保全や環境創造に関すること

農業土木施工や森林管理、造園など農業生産環境を創造する分野、森林経営等に関する分野について、先端技術の活用も含めて学びます。

【実習テーマの例】

測量や環境調査、ICT機器を使った土木施工、演習林における伐木実習、林道の整備、下草刈り、林産物を使った木工品製造(イスなど)、CADソフトを用いた造園設計、日本庭園・洋風庭園造成・ガーデニング など

【取得できる主な資格等】

農業技術検定、測量士補、土木施工管理技士補、造園技能士、刈払機取扱作業安全衛生教育 など

【主な就職先】

北海道開発局、北海道庁（技術職）、地崎道路、田端本堂カンパニー、砂子組、北海道森林管理局 など



【ドローンを用いた測量実習】



【演習林での木の伐倒実習】



④ 植物や動物、地域資源の活用や地域振興に関すること

農業生産物の活用や新たな価値創造について、さらに地域振興に寄与するため、地域資源を活用した学習などを行います。

【実習テーマの例】

フラワーアレンジメント、園芸セラピー、アニマルセラピーに関する実習、地域資源を生かした商品の開発・販売、実習生産物の販売、小学校等との交流学習 など

【取得できる主な資格等】

農業技術検定、リテールマーケティング（販売士）検定、フラワー装飾技能検定、初級園芸福祉士 など

【主な就職先】

JA、ホクレン、空知商工信用組合、特別養護老人ホーム、障がい者支援施設 など



【フラワーアレンジメント実習】



【ホースセラピーの学習】

特徴的な部活動等

【農業クラブ3大事業】

農業学習を通して、科学性、社会性、指導性の向上を目指し、日常の学習の中で探究活動に取り組みます。日々の探究学習の成果を発表する「実績発表大会」、日頃の学びから考えたことなどを発表する「意見発表大会」、農業に関する専門知識・技術を競う「技術競技大会」があり、優秀な成績を収めると全国大会に出場できます。

【プロジェクト専攻班】

日頃の学びを生かし、自ら課題を設定し、その解決に向けて、チームによる協働学習で、農業高校生全員が取り組みます。例えば、ドローンによるリモートセンシング技術を活用し、高品質な農業生産について研究する班や、地域特産物のコメを活用し、日本酒の開発に取り組む班もあります。また、地元の木材を活用したスロープ玩具を作成し、子ども達が木に親しむ機会を作る活動をしている班など、学校・学科ごとに多様な活動があります。



【農業クラブ実績発表大会】



【木育の活動】

【農業科】夢に向かう在校生インタビュー



帯広農業高校農業科学科3年
松下 剛士 さん

Q1 農業科に入学した理由は？

A1 農業で様々な体験をしたかったこと、そして農業経営やスマート農業についての学習をしたくて入学しました。

Q2 農業科に入学してよかったことは？

A2 農業科では、他学科との交流や実習があります。また、進路では異業種を希望する人もいて、学びを深められることが入学してよかったことです。

Q3 好きな実習は？

A3 アンテナショップ「あぐりす」での販売です。実習で生産した商品について、消費者から直接声を聞くことができ、一次産業に関わることの楽しさ、難しさを実感できるからです。

Q4 将来の目標は？

A4 将来の目標は、家業のリンゴ園を継ぎ、高校で学んだことを生かして、今以上に安定した農業経営を行うことです。

【中学生へのメッセージ】

将来、目標がなくて何をしたいかわからない人が多いと思います。農業高校では、実習や販売会、産業界の方々からの講義など、たくさんの人との出会いがあります。それらの活動を通して、将来の目標を見いだすことができます。



旭川農業高校森林科学科2年
橋本 くるみ さん

Q1 農業科に入学した理由は？

A1 私は幼い時に自然についての本を読んだり、林業をしている祖父の話の話を聞いたりしたことで「林業ってすごい」と思い入学しました。

Q2 農業科に入学してよかったことは？

A2 森林のしくみや樹木のことについて詳しく学ぶことができたことに加えて、演習林で自然を間近に感じることもできたことです。

Q3 好きな実習は？

A3 演習林実習です。この実習では、1年生で樹種について詳しい説明を聞きながら観察することはもちろん、地域の植生を知ることができました。今後は発展的な実習となり、林業に係る学習や動力機械の操作を実学として体験できることを楽しみにしています。

Q4 将来の目標は？

A4 林業系の技術職員になることです。学校で学んだことを生かせるとともに、好きなことや興味あることを仕事にしたいと思っています。

【中学生へのメッセージ】

高校は自身が学びたい、楽しみたいと思ったところを選ぶもので、私は本校に入学できてよかったと思っています。皆さんと出会える日を楽しみにしています。



【農業科】輝く卒業生インタビュー



函館米穀株式会社 澤田 深雪 さん
(大野農業高校食品科学科卒業)

Q1 仕事内容とやりがいは？

A1 主にお米の発注などを行っています。最初は分からないことだらけで、自分にできるのか不安でしたが、次第にできることや任せてもらえる仕事が増えていくことにやりがいを感じています。



Q2 農業科を卒業してよかったことは？

A2 農業や食品に関連する資格を取りやすい環境であったことや、授業や実習を通して食への関心がより一層高まったことです。

Q3 今後の目標は？

A3 高校で学んだことを生かし、自分のペースも大切にしながら、これからも頑張っていきたいと思っています。

【中学生へのメッセージ】

中学校の3年間で、行きたい高校や将来の目標を決めるのは難しいと思いますが、将来について考えたり、様々な高校について調べる中で、きっと自分に合う高校が見つかるはずですよ。



山梨大学地域食物科学科2年 白土 誠鷹 さん
(岩見沢農業高校農業科学科卒業)

Q1 進学しようと思った理由は？

A1 高校の「課題研究」という授業で、醸造用ブドウ栽培に関する活動を行い、主体性をもち、生育調査や茎頂培養という難しい技術に挑戦しました。最初から興味があったわけではありませんでしたが、2年間真剣に取り組む中で、さらに高度な知識を学びたいと思うようになり、ワイン科学研究が盛んである山梨大学への進学を決めました。

Q2 農業科を卒業してよかったことは？

A2 一番は興味のある分野が見つかったことです。様々な実習を通して好きな分野を見つけられることは、普通科とは違う魅力です。また、農業クラブ活動をはじめ、努力すれば報われるものが多くあり、自信が付いたこと、地域の農業者との交流や学会発表など、様々な体験を通して物事の考え方、視野が大きく広がったことです。

Q3 今後の目標は？

A3 大学を卒業し、学んだことを生かして、日本の農業生産に貢献できたらと考えています。

【中学生へのメッセージ】

農業科は、普通科とは違い、体験(特に学校外での活動)がたくさんできます。学科ごとによさがあるので、自身の将来を見据えて進路を選んでみてください。



工業科 テクノロジーで未来を創る人づくり

目指す人材像

ものづくりを通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人

学科設置校（16校）

滝川工業、札幌工業、札幌琴似工業、札幌国際情報、小樽未来創造、函館工業、室蘭工業、苫小牧工業、旭川工業、富良野、名寄、留萌、北見工業、紋別、帯広工業、釧路工業

大学等進学率と主な進学先

進学率
35%

・室蘭工業大学
・北見工業大学
・北海学園大学
・北海道科学大学 など

(注)令和7年3月卒 (道教委調査)

工業科における学びのカテゴリー

工業科の学びは、大きく分けると次の6つのカテゴリーに分類できます。



① 機械系

機械の設計や工作、加工の方法などを学びます。

【実習テーマの例】

溶接、鋳造、旋盤、機械加工、自動制御、原動機 など

【取得できる主な資格等】

ボイラー技士、危険物取扱者、ガス溶接技能講習

【主な就職先】

トヨタ自動車、日本製鉄、北海道旅客鉄道、北海道ガス、北海道電力、デンソー北海道、東芝エレベータ、三菱電機、サッポロビール、官公庁（機械職） など



【自動車整備の出前授業】



② 電気系

発電・送電・配電や自動制御などを学びます。

【実習テーマの例】

電気工事、モーター、自動制御、プログラミング など

【取得できる主な資格等】

電気工事士、電気主任技術者、危険物取扱者

【主な就職先】

トヨタ自動車、アイシン、富士電機、日立ビルシステム、北海道電力、北海電気工事、北海道電気保安協会、三菱電機ビルソリューションズ、官公庁（電気職） など



【洋上風力発電施設の見学】



③ 情報系

コンピュータを使った制御や通信の基礎を学びます。

【実習テーマの例】

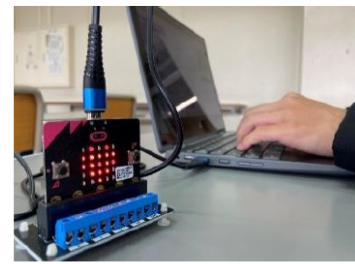
プログラミング、電子回路の特性、光通信の実験 など

【取得できる主な資格等】

工事担任者、ITパスポート、基本情報技術者

【主な就職先】

日立製作所、NTT-ME、キャノン、NTT東日本-北海道、北海道日立、北海道電力ネットワーク、三菱電機、セイコーエプソン、札幌日信電子 など



【プログラミングによるLED制御】

【図 32-7】 専門高校魅力発見ガイド（7ページ目／全 26 ページ）



④ 建築系

ビルや住宅などの設計、製図、施工などを学びます。

【実習テーマの例】

木工、測量、CAD製図、軸組模型の製作、足場組立 など

【取得できる主な資格等】

建築CAD検定、トレース技能検定、建築施工管理技士補

【主な就職先】

浅沼組、鹿島クレス、大成設備、大和ハウスリフォーム、西原衛生工業所、伊藤組土建、岩田地崎建設、岩倉建設、丸彦渡辺建設、北海道開発局、官公庁（建築職） など



【3次元による建築物の設計】



⑤ 土木系

道路や鉄道、橋などの計画、設計、施工などを学びます。

【実習テーマの例】

測量、コンクリートの製作や強度試験、土質試験 など

【取得できる主な資格等】

土木施工管理技士補、測量士補、危険物取扱者

【主な就職先】

東京地下鉄、J-POWERハイテック、東日本高速道路、伊藤組土建、岩田地崎建設、岩倉建設、北海道旅客鉄道、砂子組、北海道開発局、官公庁（土木職） など



【VRを活用した安全教育】



⑥ 化学系

化学の基礎理論や成分分析、材料製造などを学びます。

【実習テーマの例】

水の分析、消しゴムや湿布づくり、UV分析 など

【取得できる主な資格等】

危険物取扱者、毒物劇物取扱責任者、ボイラー技士

【主な就職先】

旭化成、出光興産、AGC、コスモ石油、三井化学、荏原環境プラント、日本製紙、苫東石油備蓄、ホクレン肥料、北海道ガス、ミツミ電機 など



【硫酸銅の製造実験】

特徴的な部活動等

【高校生ものづくりコンテスト】

全国工業高等学校長協会が、産業の発展を支える技術・技能水準の向上を図るとともに、若年技術・技能労働者の育成を目的に開催している全国的な競技大会です。

現在は、旋盤作業、自動車整備、電気工事、電子回路組立、化学分析、木材加工、測量、溶接の8部門で競う大会となっており、道大会の上位者が全国大会に出場できます。



【電気工事部門】

【北海道高等学校ロボット競技大会】

北海道高等学校工業クラブ連盟と北海道工業高等学校長会が、次世代を担う技術者としての資質を向上させることなどを目的に開催している競技大会です。

競技課題は毎年変わり、想像力を発揮して仲間と協力しながら、工夫を凝らしてロボットの製作・調整に取り組み、大会当日の得点を競います。

道大会の上位者は、全国産業教育フェアにおいて開催される全国大会に出場できます。



【ロボットの操作】

【工業科】夢に向かう在校生インタビュー



札幌工業高校機械科3年
河内 裕斗 さん

Q1 工業科に入学した理由は？

A1 小さい頃からものづくりが好きで、工業高校の学習内容を知り、ものづくりへの好奇心が掻き立てられました。

Q2 工業科に入学してよかったことは？

A2 工作機械を使用して金属を加工する「旋盤」という作業に出会い、現在、自分が熱中できていることです。中学校までは、これといった趣味や特技がなく、無駄な時間を多く過ごしていましたが、旋盤に出会ってからは、技能士という資格の取得やものづくりコンテストに出場するなど、過去の自分と比べて大きく成長することができました。

Q3 好きな実習は？

A3 魅力的な実習が多くありますが、一番は旋盤です。

Q4 将来の目標は？

A4 世界各国や地域の予選などを勝ち抜いた選手が集い、技能を競う競技大会「技能五輪国際大会」に出場することです。

【中学生へのメッセージ】

「友人が行くから自分も」などの理由で自分の将来を決めないでください。親や先生など周りの人を頼り、たくさん悩んで自分の進路を決めてください。



釧路工業高校建築科3年
猪股 実莉 さん

Q1 工業科に入学した理由は？

A1 父の影響に加え、製図の授業が気になったことなどがありますが、正直そこまで深くは考えていなかったです。工業高校の魅力には、入学してから気付きました。

Q2 工業科に入学してよかったことは？

A2 塗装業の職業体験を通じて、「塗装の職人になる」といった将来の夢を見付けられたことです。また、企業の方々と一緒に作業することなどを通じて、礼儀や挨拶などの当たり前のことが、しっかりできるようになりました。

Q3 好きな実習は？

A3 土地の形や高さを正確に計る測量実習です。土地の形や高さを把握できていないと、家や道路などの構造物を作ることができません。土木や建築では、絶対に欠かせない大事な作業です。

Q4 将来の目標は？

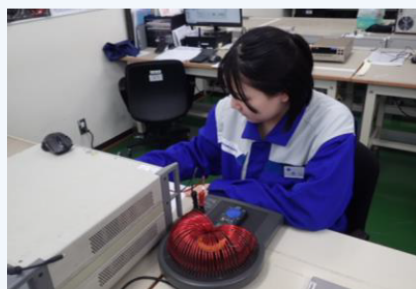
A4 立派な塗装職人になることです。

【中学生へのメッセージ】

工業高校には色々なイメージがあるかと思いますが、実際に入学してみると、教科書には載っていないことがたくさん学べるし、私のような工業女子もたくさんいます。工業高校は良いところがたくさんあるので、全力でお勧めします。



【工業科】輝く卒業生インタビュー



住友電工テクニカル
ソリューションズ株式会社
奥山 乃彩 さん
(旭川工業高校情報技術科卒業)

Q1 仕事内容とやりがいは？

A1 光ファイバなどを製造する際に使用する計測機器について、製品の品質を保証するため、正確に計測できるかチェックするといった校正作業を行っています。

自分の手で編集を行えることにやりがいを感じています。

Q2 工業科を卒業してよかったことは？

A2 専門的な知識を学ぶことができ、職業の選択肢が広がったことで、今の会社に勤めることができました。

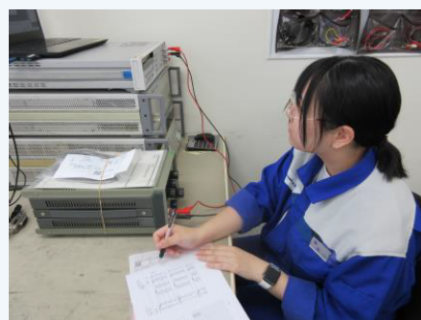
さらに、情報技術科で学んでいたプログラミングの知識や技術を、今の仕事で応用できていることです。

Q3 今後の目標は？

A3 より多くの仕事を覚え、一人前の技術者になることです。

【中学生へのメッセージ】

今、中学校で学んでいること、これから学んでいくことが、将来役に立つことがありますので、勉学に勤しんでください。



室蘭工業大学理工学部
創造工学科1年
飯島 道大 さん
(札幌工業高校土木科卒業)

Q1 進学しようと思った理由は？

A1 初めて進学を意識したのは高校2年の夏頃で、先生との面談の際に、室蘭工業大学への進学を勧められたことがきっかけです。

その際に、工業高校からでも進学できることや、一定の単位を修得すると「技術士補」といった資格が取得できる認定制度のことなどを聞きました。

高校での土木に関する授業が面白く、もっと詳しく学んでみたいと思ったことや、家族や親戚からの後押しもあり、進学することを決めました。

Q2 工業科を卒業してよかったことは？

A2 どの学科でも、工学に関する基礎知識を学べる授業や、コンピュータを活用した授業があります。また、土木科であれば「2級土木施工管理技士補」や「測量士補」などの資格を取得することもできます。

これらは大学進学の有無にかかわらず、社会に出るに当たって強い武器になります。

Q3 今後の目標は？

A3 大学の勉強を頑張りつつ、測量士などの上位の資格取得を目指して頑張ろうと思っています。

【中学生へのメッセージ】

工業高校では資格取得やインターンシップなど、就職する上で役立つ勉強ができます。また、勉強を頑張れば国立大学にも進学できるなど、幅広い道が開かれています。進路に迷っている方は、是非、工業高校への入学を考えてみてください。

商業科

ビジネスを通して未来を創る人づくり

目指す人材像

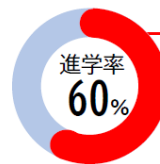
ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人

学科設置校（28校）

岩見沢緑陵、滝川西、札幌国際情報、江別、千歳、札幌東商業、市立札幌啓北商業、有朋、小樽未来創造、岩内、虻田、苫小牧総合経済、函館商業、福島商業、八雲、旭川商業、土別翔雲、下川商業、留萌、苫前商業、稚内、北見商業、網走桂陽、紋別、帯広南商業、釧路商業、根室、中標津

(注)令和8年度入学者選抜の実施校

大学等進学率と主な進学先



- ・千葉商科大学
- ・小樽商科大学
- ・北海商科大学
- ・札幌大学
- ・札幌学院大学 など

(注)令和7年3月卒（道教委調査）

商業科における学びのカテゴリー

商業科の学びは、全員が学ぶ基礎的科目、総合的科目の他に、4つの分野を学習します。4つの分野をどのように学習するかは、各学校に設置されている小学科の特性や、地域の状況によって異なります。



基礎的科目

ビジネスの役割やビジネスに対する心構え、ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションなど、ビジネスの基本を学びます。

【実習テーマの例】

ビジネスに関する計算、販売活動や電話応対時のビジネスマナー など

【取得できる主な資格等】

ビジネス計算実務検定、ビジネスコミュニケーション検定、英語検定 など



① マーケティング分野

消費者が商品を購入するまでの行動や意識などを調査することで顧客を理解し、新しい商品を開発したり、販売するための仕組みや、観光ビジネスを学びます。

【実習テーマの例】

企業における売買、商品開発、プロモーション、観光などのサービス、市場調査及び顧客との対応 など

【取得できる主な資格等】

商業経済検定 など



【販売活動のワークショップ】



② マネジメント分野

グローバルな経済の仕組みや法律などを踏まえて、経営資源を最適に組み合わせ、企業経営や新たなビジネスの創造と展開を学びます。

【実習テーマの例】

企業活動及び地域の経済や産業の動向の調査、法人税や消費税などの申告書の作成 など

【取得できる主な資格等】

商業経済検定、ファイナンシャル・プランナー など



【専門学校での体験学習】

【図 32-11】 専門高校魅力発見ガイド（11 ページ目／全 26 ページ）



③ 会計分野

会社が取引をする際の商品やお金の流れから、その会社の価値や利益などが分かる財務諸表等を作成し、利害関係者にその情報を提供してビジネスに活用する仕組みを学びます。

【実習テーマの例】

企業における会計処理、会計ソフトウェアの活用、財務諸表分析 など

【取得できる主な資格等】

簿記実務検定、財務諸表分析検定、財務会計検定、管理会計検定 など



【財務諸表分析の授業風景】



④ ビジネス情報分野

適切な情報を提供するため、ワープロや表計算、プレゼンテーションソフトの使い方、ネットワークやセキュリティなど、コンピュータの知識・技術を基礎から学びます。

【実習テーマの例】

ソフトウェアを活用した情報の分析、プログラミング、情報システムの開発、ウェブページ制作 など

【取得できる主な資格等】

ITパスポート、基本情報処理技術者、ビジネス文書実務検定、情報処理検定 など



【高大連携でのプログラミング授業】



総合的科目

商業の基礎的科目と上記の4つの分野で学習した内容をもとに、ビジネスに関する課題を解決するために研究したり、より実務に即した体験的・実践的な学習を行います。

【実習テーマの例】

新商品の企画と開発、観光などのサービスに関する実習、パッケージデザイン、地域の経済や産業の動向の調査、コンピュータを活用した経営のシミュレーション、企業の財政状態や経営成績などの分析、コンピュータを活用した会計帳簿の作成、企業活動を改善する情報システムの開発、データベースの構築、アプリ開発 など



主な就職先

事務職や販売、製造、公務員など、就職先は様々です。

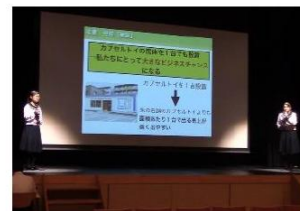
北洋銀行、旭川信用金庫、日本郵便北海道支社、北海道電力、北海道旅客鉄道、旭川トヨタ、ケイシーシー、柳月、イオン北海道、ジョイフルエーカー、星野リゾート、ANA FESTA、北海道職員（一般行政）、北海道警察、市町村職員 など

特徴的な部活動等

【各種競技大会】

全国商業高等学校長協会が、商業教育の一層の充実と振興を図り、商業を学ぶ生徒がそれぞれの技術を高めることを目的に全国的な競技大会を開催しています。

情報処理、簿記、ビジネス計算、ワープロ、プログラミングコンテスト、英語スピーチコンテスト、生徒商業研究の7つの大会があり、各大会における道大会の上位者が全国大会に出場できます。



【生徒商業研究大会】

【商業教育フェア】

道内高等学校で商業に関する科目を学ぶ生徒が、商品の開発や販売等に関する学習活動を実践するイベントです。

他校の生徒や来場されたお客さまとの交流を通して、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高め、将来の産業界を担う「スペシャリスト」の育成と、商業教育の活性化を目指して行われています。



【商業教育フェア】

【図 32-12】 専門高校魅力発見ガイド（12 ページ目／全 26 ページ）

【商業科】夢に向かう在校生インタビュー



北見商業高校流通経済科3年
井田 陽葵 さん

Q1 商業科に入学した理由は？

A1 中学生の頃から、自分のアイデアを形にすることに興味があり、商品開発・販売実習会などを実践的に体験できる流通経済科を選びました。

Q2 商業科に入学してよかったことは？

A2 一番の魅力は、お客さまや企業さまとの関わりが多くもてることだと思います。札幌市で実施される「商業教育フェア」や「道東アークスさまの商品開発及び販売実習」などで、お客さまと関わることの楽しさやコミュニケーションの難しさを実感することができました。

Q3 好きな授業は？

A3 簿記やマーケティング、課題研究の授業が好きです。課題研究では、商品開発や販売実習を行いました。自分たちが試行錯誤しながら考えて商品化・販売する体験は商業科でしか味わうことができないと思います。



Q4 将来の目標は？

A4 将来は商業高校で学んだコミュニケーション能力を生かし、専門学校へ進学し保育士になりたいと考えています。

【中学生へのメッセージ】

商業高校はたくさんの挑戦ができる場所です。商業高校には皆さんの挑戦を応援してくれる先生方や先輩がいます。是非、商業高校への入学を検討してみてください。



函館商業高校情報処理科3年
宮崎 蒼汰 さん

Q1 商業科に入学した理由は？

A1 自ら努力を積み重ねることで、たくさんの資格・検定が取得でき、それが卒業後、地域や社会に貢献でき、役に立つと考えたからです。

Q2 商業科に入学してよかったことは？

A2 情報処理科に入学し、たくさんの資格・検定を取得したことです。特に、国家資格である「基本情報技術者」が取得できたことです。

Q3 好きな授業は？

A3 総合実践です。学んだことが応用できるからです。

Q4 将来の目標は？

A4 取得した「基本情報技術者」を生かし、地元のIT企業に就職し、地域・社会に貢献したいと考えています。



【中学生へのメッセージ】

是非、現在ある北海道立高校で最古の函商で、多くの仲間とマナーを身に付け、資格・検定を取得し、実践的なスキルや知識を習得して自分の未来を広げてみませんか。

【商業科】輝く卒業生インタビュー



日本通運株式会社
北海道総代理支店釧路総代理営業所
米岡 美乙 さん
(釧路商業高校
国際ビジネス科卒業)

Q1 仕事内容とやりがいは？

A1 羽田・丘珠からの到着便のお迎えや出発便の搭乗口でのお見送り、カウンターではお客さまからお預かりした手荷物を裏に流す作業を行ったり、ロビーでお困りのお客さまに声をおかけしています。困りごとがあったお客さまに声をおかけし、「助かりました。ありがとう。」と感謝されたときはこの仕事を選んでよかったと思います。

Q2 商業科を卒業してよかったことは？

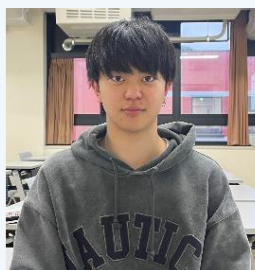
A2 検定が取得できることです。ビジネスマナーの授業があり、そこで航空業界では絶対に必要なビジネスマナーを学べたことが、今の仕事につながっています。

Q3 今後の目標は？

A3 お客さまに安心して楽しい旅行にさせていただけるようなグランドスタッフになれるように頑張りたいです。そのために、まずは業務を一人でできるようになることです。航空会社コードや空港コードなど、覚えなければいけないことを覚え、一日でも早く「頼られる存在」になりたいです。

【中学生へのメッセージ】

商業高校は航空系の仕事に必要なビジネスマナーや英語について学べます。検定はチャレンジして合格できれば自分の自信にもつながるので一生懸命頑張った方がよいと思います。飛行機が好きな方にとっては、私の仕事は最高の仕事です。



小樽商科大学夜間主コース
社会情報学科 2年
横濱 大和 さん
(札幌東商業高校
情報処理科卒業)

Q1 進学しようと思った理由は？

A1 札幌東商業高校で情報処理やマーケティングなどを学習する中で、ビジネスに関する学びの面白さを知り、特に情報系の学習を中心にさらに学びを深めたいと思い、小樽商科大学に進学することを決めました。

Q2 商業科を卒業してよかったことは？

A2 商業高校ならではの魅力は、実社会で使える知識と技術が身に付くことです。簿記、マーケティング、ビジネス基礎、情報処理など多くの商業科目を学びましたが、それぞれがつながっていて経済やビジネスの仕組みを理解できました。

Q3 今後の目標は？

A3 将来はグローバルに活躍する情報系の仕事に就きたいです。大学ではデータの分析やITの知識をより深め、語学勉強にも打ち込みながら社会に出たときに活躍できる力を磨いていきたいです。

【中学生へのメッセージ】

「商業高校って就職したい人が行くところ？」と思っているかもしれませんが、実際には進学にも強く、将来の幅を広げてくれる場所です。

商業では社会で役立つ知識やスキルをたくさん学ぶことができます。普通科とは違った魅力がたくさんあるので「将来何をしようかまだ分からない」という人にも、可能性を広げる選択肢になるはずです。

水産科 海の明日を切り拓く人づくり

目指す人材像

水産業や海洋関連産業を通じ、地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人

学科設置校（3校）

小樽水産、函館水産、厚岸翔洋

水産科における学びのカテゴリー

水産科の学びは、大きく分けると次の5つのカテゴリーに分類できます。



① 海洋漁業系

漁業生産に関する技術の習得及び船舶の運航に必要な資格「海技士」の取得を目指します。

【学科（コース）設置校】

小樽水産（海洋漁業科）
函館水産（海洋技術科）

【取得できる主な資格等】

海技士（航海）、小型船舶操縦士、潜水士など
※海技士は就職後、乗船履歴を得ることで取得できる。

【主な就職先】

漁船、貨物船（タンカー、RORO船等）、フェリー、
海洋調査船、官公庁船（北海道の実習船、取締船等）など

【専攻科】（設置校：小樽水産）



小樽水産の海洋コースでは潜水士の資格を取得できます。



【乗船実習（出航式）】



② 海洋工学系

船舶の運航に必要な資格「海技士」の取得に必要な、エンジンや機械の知識を学ぶことができます。

【学科（コース）設置校】

函館水産（機関工学科）

【取得できる主な資格等】

海技士（機関）、第三種冷凍機械責任者、小型船舶操縦士、ボイラー技士など
※海技士は就職後、乗船履歴を得ることで取得できる。

【主な就職先】

貨物船（タンカー、RORO船等）、フェリー、海洋調査船、
官公庁船（北海道の実習船、取締船等）、造船会社、自動車関連企業、冷凍倉庫業など

【専攻科】（設置校：函館水産）



【CADを用いた設計の実習】



③ 情報通信系

電気通信や情報通信などを学びます。

【学科（コース）設置校】

小樽水産（情報通信科）

【取得できる主な資格等】

総合無線通信士、陸上無線技術士、
特殊無線技士（海上・陸上）、電気
工事士、電気通信工事担任者など

【主な就職先】

電力会社、通信関連企業など

【専攻科】（設置校：小樽水産）



学校の屋上に設置されているアンテナタワー



【電気通信実習】



④ 資源増殖系

種苗生産・資源管理や操船や潜水などを学びます。

【学科(コース)設置校】

小樽水産(栽培漁業科)、厚岸翔洋(海洋資源科)、
函館水産(海洋技術科)

【取得できる主な資格等】

小型船舶操縦士、潜水士など

【主な就職先】

増殖事業に関する団体、水族館、
養殖業者、漁業組合、潜水関連企業、漁業後継など



サケの人工
種苗生産な
ど、本格的
な資源増殖
を学びます。



【水族館メンテナンス実習】



⑤ 水産食品系・その他

食品の加工、管理、開発、調理などを学びます。

【学科(コース)設置校】

小樽水産(水産食品科)、厚岸翔洋(海洋資源科)
函館水産(水産食品科、品質管理流通科)

【取得できる主な資格等】

食品衛生責任者、販売士、食生活アドバイザー
ボイラー技士、調理師(厚岸翔洋のみ)など

【主な就職先】

食品加工業、食品販売業、食品物流関連企業、
船舶(司厨)など



【調理実習】

乗船実習では漁業も学び、国際交流も実施

長期の乗船実習では、これまでにハワイやパラオ、台湾などに寄港し国際交流なども実施しています。その航海中に航海や機関に関する実習のほか、マグロ延縄実習を行うなど、漁業についても学び、水揚げしたマグロは、漁獲した生徒が販売したり、水産食品系の学科が缶詰にして販売するなど、地域の方々に喜ばれています。



2隻の実習船が大海原を駆け抜ける



【若竹丸】

2年次の長期乗船では国際航海を行う。
692トン 定員79名



【北鳳丸】

主に専攻科が乗船。遠洋区域を航行する。
634トン 定員55名

進学や船舶への就職で教員も目指せる

水産・海洋系の大学や短期大学への進学、船舶への就職で教員の資格が得られ、母校で教員として勤務している卒業生も多くいます。

【水産・海洋系への進学実績】 水産大学校、福井県立大学、東海大学、福山大学、徳島文理大学、東洋食品短期大学、国立海上技術短期大学(小樽、宮古、清水)、小樽水産高校専攻科、函館水産高校専攻科など

【図 32-16】 専門高校魅力発見ガイド (16 ページ目/全 26 ページ)

【水産科】夢に向かう在校生インタビュー



小樽水産高校海洋漁業科3年
更谷 奏斗 さん

Q1 水産科に入学した理由は？

A1 内陸育ちで周りに漁業関係者もいませんでしたが、釣りが好きで漁師になりたいと思っていました。海洋漁業科では、船や漁業のことを学ぶことができるので、迷わずここに入学しました。

Q2 水産科に入学してよかったことは？

A2 長期乗船実習で、まぐろ延縄漁業の経験をすることができたばかりでなく、海外に行くこともでき、ここでしかできない貴重な体験ができたことです。

Q3 好きな実習は？

A3 長期乗船実習はもちろんですが、小型船舶操縦士のライセンスを取得するための教習や、漁業実習など、働いてからすぐに使える技術を学べる実習が多く、モチベーションが上がります。

Q4 将来の目標は？

A4 もちろん、漁船の船長になることです。



【中学生へのメッセージ】

将来の日本の水産業や海運業を支えるため、水産高校で漁業や船の勉強をして、船乗りを目指してみませんか。



厚岸翔洋高校海洋資源科
(調理コース)3年
山田 優斗 さん

Q1 水産科に入学した理由は？

A1 小学生の頃から調理師になりたいと思っていました。海洋資源科には、調理師になるために必要な知識を学び、調理師免許を取得するために入学しました。

Q2 水産科に入学してよかったことは？

A2 乗船実習や缶詰実習などは、北海道でも数少ない水産科がある高校でしか経験できず、他にはない貴重な体験ができることです。

Q3 好きな実習は？

A3 調理実習です。実習を重ねていく度に、実際に現場で活躍されている講師の先生などから調理に関する専門的な知識を学ぶことができます。少しずつ成長していける過程がとても好きです。

Q4 将来の目標は？

A4 ホテルの調理スタッフです。私は食を通じて人を幸せにする調理師になりたいです。食材の特徴を活かし、その人が求めている素敵な料理が作れるように頑張っていきたいです。



【中学生へのメッセージ】

この学校では、好きな調理を職業にできるので夢があります。皆さんも好きなことを仕事にできる学校選びをしてください。調理業界を目指すなら、調理でも調理以外でも、貴重な体験ができる水産科のある厚岸翔洋高校に是非お越しください。

【水産科】輝く卒業生インタビュー



青函フェリー株式会社
鈴木 那津 さん
(函館水産高校専攻科機関科卒業)

Q1 仕事内容とやりがいは？

A1 エンジンに関わる仕事と荷物の仕分けや運搬作業です。仕事を通して色々なことを覚え、自分が成長していると実感したときにやりがいを感じます。



Q2 水産科を卒業してよかったことは？

A2 上級海技士免許取得に向けた勉強が、乗船実習中に実際の機器を取り扱いながらできることです。おかげで、在学中に二級海技士(機関)筆記試験に合格できました。また、学校での座学や乗船実習で身に付いた知識やスキルが、仕事で生かせる場面が多いことや、高校時代に多くの仲間に出会い、充実した学校生活を送ることができたことです。

Q3 今後の目標は？

A3 上司に安心して仕事を任せてもらえるようなエンジニアになることです。

【中学生へのメッセージ】

水産高校は、たくさんの資格を取得でき、進路の選択肢が広がります。楽しい高校生活を送ることができます。



Q1 進学しようと思った理由は？

A1 入院していた父と私たちを、食を通じて笑顔にしてくれた病院の管理栄養士の方を見て、自分が考えた献立で人を笑顔に出来る管理栄養士になりたいと思ったからです。

藤女子大学ウェルビーイング学部食環境マネジメント学科1年
赤澤 茜音 さん (小樽水産高校水産食品科卒業)

Q2 水産科を卒業してよかったことは？

A2 高校では、食品について学んできました。大学の授業などでは、高校で習ったこともたくさん出てくるので、授業はとても理解しやすいです。一度理解したことを改めて習うこともあるので、より知識を深めることができるのが強みです。

Q3 今後の目標は？

A3 大学でしっかり勉強して管理栄養士になることです。管理栄養士として病院に就職して、患者さんやその家族など、食事を通してたくさんの人を笑顔にできるようにしたいです。

【中学生へのメッセージ】

水産高校は、学んだことを大学でも社会でも生かせる高校だと思います。進路希望を実現できるように頑張ってください。

家庭科 人と人をつなぐ人づくり

目指す人材像

よりよい社会の構築に向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する職業人



家政系

【学科設置校】

江別高校 [生活デザイン科 (服飾コース・染織インテリアコース)]、
当別高校 [家政科 (保育コース・食物調理コース)]、
三笠高校 [食物調理科 (調理師コース・製菓コース)]

【開設されている授業】

ファッション造形基礎、フードデザイン、住生活デザイン、
生活産業基礎、保育基礎、服飾文化、染織製作など

【取得できる主な資格等】

家庭科被服製作技術検定、家庭科食物調理技術検定、
家庭科保育技術検定、色彩能力検定、建築CAD検定、
食品衛生責任者など

【主な進路先】

札幌大谷大学、北翔大学、酪農学園大学、藤女子大学、
札幌保健医療大学、札幌大学、光塩女子短期大学部、
北海道文化服装専門学校、札幌こども専門学校、
辻調理師専門学校など



【異世代交流ファッションショー】

【家庭科】夢に向かう在校生インタビュー



江別高校生活デザイン科3年
今 葵月 さん

Q1 生活デザイン科に入学した理由は？

A1 中学生の頃から、インテリアやポスター、服などのデザインを考えるのが好きだったため、私の好きなことを被服の視点から幅広く学べる生活デザイン科で学びたいと思い、入学しました。

Q2 生活デザイン科に入学してよかったことは？

A2 調理実習や被服製作など手を動かす授業が多いため、日常生活に役立つ力を自然に身に付けることができたことや、進路実現に向けた多くの検定を取得することができたことです。

Q3 好きな実習は？

A3 藍染めと織物を基本とした染織制作の実習です。学習を始めた頃は、染め方や織り方も何も分からず一からのスタートでしたが、回数を重ねる度に少しずつ形になることが楽しく、毎時間達成感を感じています。

Q4 将来の目標は？

A4 生活デザイン科での学びを生かし、地域社会とデザインを繋ぐことができる仕事に就くことが私の目標です。

【中学生へのメッセージ】

生活デザイン科は他の学校では学べない新しいことに沢山出会える場所です。自分の進むべき道として考えてみてください。



【家庭科】夢に向かう在校生インタビュー



当別高校家政科3年
福島 李理 さん

Q1 家政科に入学した理由は？

A1 子どもの頃から保育士になりたいという夢があり、中学3年生の時に、担任の先生から保育のことを学べる当別高校のことを聞きました。そして、将来の進路に役立つ専門的な知識や技術を習得したい、立派な保育士になりたいと思い、当別高校家政科への入学を決めました。

Q2 家政科に入学してよかったことは？

A2 当別高校の家政科には、保育コースや調理コースのほか、家庭クラブ活動などがあり、様々な行事や活動を行う中で、友人や地域の人々と関わりながら、集団での実習や行事の企画・運営を通じて、実践力や継続力を高めることができました。

Q3 好きな実習は？

A3 当別町の幼稚園や認定こども園で行う保育実習です。初めは、園児との距離の縮め方が分からず、泣かれてしまったこともありましたが、過去の反省を生かしながら、保育士に必要な感性や能力を伸ばすことができ嬉しかったからです。

Q4 将来の目標は？

A4 子どもの成長をしっかりサポートし、子ども一人一人を笑顔にできる立派な保育士になりたいです。

そのために、たくさん勉強して、専門的な知識と技術を習得したいです。



【中学生へのメッセージ】

当別高校の家政科では、自分の特性や興味・関心を生かし、2年生から、保育コースと調理コースの2つのコースに分かれて学びます。家政科は、「人と人をつなぐ仕事」に役立てられるよう学びができる場所なので、興味のある人は、ぜひ家政科と一緒に学びましょう。



当別高校家政科



江別高校生活デザイン科

【家庭科】輝く卒業生インタビュー



Q1 仕事内容とやりがいは？

A1 全国展開のアパレル専門店「Honeys」のバッグやシューズ、帽子等の服飾雑貨アイテムを企画する部署で働いています。自分達が企画した商品がヒットし、街中でその商品をお使いいただいているお客様を見かけると、お客様に響く商品を作れたことに喜びとやりがいを感じます。

株式会社ハニーズホールディングス 鈴木 美友 さん
(江別高校生活デザイン科卒業)



Q2 生活デザイン科を卒業してよかったことは？

A2 服飾のことはもちろん、パソコンやプレゼン、調理のスキルなど、普通の勉強だけでは身に付かない、今後の生活や仕事に必要な知識と技術をたくさん学ぶことができました。さらに、好きなことをのびのびと学べる環境で、楽しみながら学んだことで、自分の夢や目標に近づいたと実感しています。

Q3 今後の目標は？

A3 幼い頃からの夢である、自分のオリジナルブランドを作りたいです。

【中学生へのメッセージ】

私は高校時代、苦手だったことに挑戦し、それをやり切った時から世界が変わった気がしています。新しい知識や技術が身に付きましたし、様々な人との新しい関係が生まれたことも、よい経験になりました。また、自分ができないと思っていたことができたということが自信にもなりました。学生時代の経験が今の自分の糧になっていると感じています。皆さんにも、自分が好きなことも苦手なことも含めて、色々なことに挑戦してみてください。



Q1 進学しようと思った理由とは？

A1 患者さんの健康を支え、一人一人に寄り添える管理栄養士になりたいと思い、進学を決めました。

Q2 家政科を卒業してよかったことは？

A2 高校時代から栄養素について学び、調理実習を通じて理解を深めていました。その経験が大学での授業にも生かされ、より実践的に栄養学を学ぶことができます。

藤女子大学
ウェルビーイング学部食環境マネジメント学科1年
加藤 美咲 さん(当別高校家政科卒業)



Q3 今後の目標は？

A3 栄養学に関する知識を幅広く学びながら、科学的に探究を深め、将来は管理栄養士として活躍し、食を通じて人々の健康を支えられる存在になりたいです。

【中学生へのメッセージ】

これから先、自分の将来について考えることが増えると思います。焦らず自分のペースで、やりたいことや学びたいことを見つけていってください。その積み重ねが、きっと未来の自分をつくる力になります。

看護科 北海道の医療を支える人づくり

目指す人材像

地域や社会の保健・医療を支え、人々の健康の保持増進に寄与する職業人

学科設置校（2校）

美唄聖華、稚内

看護師国家試験合格率



(注)令和7年3月卒（道教委調査）

衛生看護科を設置する2校は、高等学校の看護に関する学科とその専攻科において、5年間の一貫したカリキュラムで看護師を養成するための教育を行う「5年一貫教育」を実施しています。看護科以外の高校から看護師になるためには卒業後に高等看護学院や看護の短期大学（3年）、または大学（4年）進学が必要で、5年一貫教育の看護科は看護師になる最短ルートです。

看護科における学び



衛生看護科

【実習テーマの例】

看護臨地実習（病院で行う看護実習）、体位変換（患者の水平移動や上方移動など）、バイタルサイン測定、血圧測定、ベッドメイキング、シュミレータやICT機器を活用した看護実習など

※多様な看護の場面を想定した実習を行います。

【取得できる主な資格等】

看護師免許

※5年一貫教育で必要な学科を修めることで、受験資格を得ることができます。

【主な進路先】

北海道大学病院、札幌医科大学附属病院、市立美唄病院、市立稚内病院、北海道立旭川高等看護専門学院助産学科、北海教育大学養護教諭特別別科など



【シミュレーション実習】



【ベッドメイキング実習】

特徴的な活動等

【看護臨地実習等の実践的な学び】

看護臨地実習とは、3年生で4～7週間、専攻科（4年目以降）で16週間、病院に行き、看護師として働く際に重要となる患者の個性に応じた看護の実践を行う実習です。

他の職業学科と比べても長期間の実習であり、看護臨地実習に向けて、学校の実習においても多様な看護の場面を想定した実践的な学びを行います。

【戴帽式】

看護臨地実習に臨むに当たり、一定の学びを得た証として、ナースキャップを授かり、誠実で清い看護を行うことを誓う儀式です。

ナイチンゲール像から「看護の灯」をろうそくにもらい受けた後は、「ナイチンゲール誓詞」を唱え、ナイチンゲールの精神を継承します。

戴帽式を終えた生徒は、病院での実習に向けて意識が高まり、看護師になるといった目標もより明確になります。



【模擬血管を使用した採血の実習】



【戴帽式】

【図 32-22】 専門高校魅力発見ガイド（22 ページ目／全 26 ページ）

【看護科】夢に向かう在校生インタビュー



美唄聖華高校衛生看護科3年
櫻庭 有梨 さん

Q1 看護科に入学した理由は？

A1 小さい頃から看護師として働く母の背中を見て育ち、母のような看護師になりたいと思ったことがきっかけです。

Q2 看護科に入学してよかったことは？

A2 「看護師になる」という同じ目標をもった仲間と5年間一緒に学び、切磋琢磨できることです。

Q3 好きな実習は？

A3 血圧測定です。最も苦戦した実習でしたが、その分達成感が大きく、地道な練習の大切さを感じる機会になりました。

Q4 将来の目標は？

A4 患者さんやその家族の不安を取り除き、個に応じた看護を行える看護師になりたいです。

【中学生へのメッセージ】

衛生看護科3年間と、専攻科2年間の5年間の学びとなります。長いと感じるかもしれませんが、同じ志をもつ仲間がいるので大丈夫です。



稚内高校衛生看護科3年
米木 怜於那 さん

Q1 看護科に入学した理由は？

A1 医療に貢献し、誰かの力になりたいという幼い頃からの夢を叶えるためです。

Q2 看護科に入学してよかったことは？

A2 早くから医療を学ぶことです。専門的な分野を学ぶだけでなく、実際に医療施設に行って自分の知識や経験をもとに、自分の手で援助をさせていただくことができます。

Q3 好きな実習は？

A3 バイタルサイン測定です。特に血圧測定はコツをつかむまでが難しく、クラスメイトや先生と練習を重ねました。コツをつかめるようになってきて、数値を正確に測れたときの達成感を今も覚えています。

Q4 将来の目標は？

A4 自分がどんな状況にいても、笑顔で患者さんと接することができる看護師になることです。

【中学生へのメッセージ】

つらいこともあります。実習で関わった患者さんから言われる「ありがとう」が自分の糧となり、未来の看護師としての自分につながられています。人の人生と向き合う仕事を目指しているからこそ、決して楽ではないけれど、自分の努力が今の自分と未来の自分をつくり、それが誰かの力になると私は信じています。つらいときこそ、自分を信じてありのまま進みましょう。



【看護科】輝く卒業生インタビュー



稚内禎心会病院
藤野 由羅 さん
(稚内高校専攻科看護科卒業)

Q1 仕事内容とやりがいは？

A1 患者様の健康状態が変わりないかを観察し、入院生活を安全安楽に過ごしてもらうためのお手伝いをしています。

関わりの中で患者様から感謝を伝えられたり、笑顔になっていただけることがやりがいです。



Q2 看護科を卒業してよかったことは？

A2 国家資格の取得は大きな強みと自信につながりました。また、看護師として早くから働くことができるため、その後のキャリアアップを考えたときに、周りより早い年齢から働き始められるのが利点だと思います。

Q3 今後の目標は？

A3 患者様の疾患や状態について学習し理解を深め、より個別性に応じた看護を実施していきたいと考えています。

【中学生へのメッセージ】

看護科を選択することは、中学生で進路を決めてしまうことにもつながるため、とても勇気があることだと思います。色々な可能性や不安もある中で、自分なりに考え抜いて出した答えには、きっと価値があると思います。よりよい未来のために努力する皆さんを応援しています。



美唄聖華高校専攻科看護科 [教員]
奥山 遥 さん
(美唄聖華高校専攻科看護科卒業)

Q1 教員になろうと思った理由は？

A1 看護師として働き、新人教育に携わる中で、学生指導や看護基礎教育に興味をもちました。

そのタイミングで高校時代の担任の先生に声をかけてもらったことがきっかけで教員になりました。



Q2 看護科を卒業してよかったことは？

A2 高校での5年間を修了した時、人生の1/4をここで過ごしたのだと思いました。聖華高校での経験や学びは、看護師として働いている時も、教員になった今も私の価値観の基盤になっています。同じ目標をもつ友人と一緒に5年間頑張れたことは自分の自信にもつながっていると思います。

Q3 今後の目標は？

A3 これまで同様、生徒の皆さんと一緒に看護について学び、考えを深めていきたいです。

【中学生へのメッセージ】

私は、中学生の時に看護師になりたいと思い、美唄聖華高校に進学しました。看護の仕事は楽しいことばかりではありませんが、やりがいのある仕事だと思います。たくさんの方と関わらせていただけた経験は私の財産です。看護師を目指している方、看護科と一緒に頑張りましょう。

福祉科 持続可能な福祉社会を担う人づくり

目指す人材像

人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う職業人



福祉系

介護福祉士合格率
令和2年度より5年連続100%

【学科設置校】

置戸高校（福祉科）

※介護福祉士国家試験の受験資格が得られるコースと福祉の心を基盤に、さまざまな分野への進学や就職を目指すコースがあります。

【取得できる主な資格等】

介護福祉士、介護職員初任者研修、救急救命講習など

【主な進路先】

特別養護老人ホーム、北海道医療大学、名寄市立大学、福祉系専門学校など

【その他、介護福祉士国家試験の受験資格が得られる公立高校】

留寿都高校（農業福祉科農業福祉コース）、剣淵高校（総合学科生活福祉系列）



【介護実習】

【福祉科】夢に向かう在校生インタビュー



置戸高校福祉科3年
舟根 紗来 さん

Q1 福祉科に入学した理由は？

A1 中学生の頃から介護福祉士になることが夢でした。置戸高校は介護福祉士試験の合格率も100%だと知り、入学を決めました。

Q2 福祉科に入学してよかったことは？

A2 車いすや視覚障がいの方に対して、手を貸すことだけが介護ではないことなど、普通科では学べない障がい者や高齢者への支援について学ぶことができました。健常者の方と一緒に、できることは自分でやってみようといったことを通じて、私自身もチャレンジする大切さを実感することができ、大きく成長できていると感じます。

Q3 好きな実習は？

A3 着脱介助の実習が好きです。利用者様は、好きな服を身に付けることで気分が明るくなって、私たちにも笑顔を見せてくれるからです。一人一人に合わせた介助方法は難しいですが、「ありがとう」と言っていたらとやりの感じがします。

Q4 将来の目標は？

A4 大学に進学して、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を取得し、利用者様の介助だけでなく、相談業務も行うことができる、心から寄り添える介護士になることです。

【中学生へのメッセージ】

将来の夢が決まっているという人は多くないと思います。置戸高校は福祉を学びたい人が集まっていますが、福祉の知識を使って別分野の就職や進学する人もいます。自分の夢に向かってサポートしてくれる体制も充実しています。普通科とは違う置戸高校で青春してみませんか。



【福祉科】輝く卒業生インタビュー



Q1 仕事内容とやりがいは？

A1 食事介助やおむつ交換、移乗介助・トイレ誘導など、利用者様の生活に関わる全般の介助を行っています。利用者様と話しているときや感謝の言葉をいただいた時は、利用者様の生活を支えることができた実感でき、やりがいを感じます。

医療法人溪仁会
介護医療院西円山病院 戸塚 楓佳 さん
(置戸高校福祉科卒業)



Q2 福祉科を卒業してよかったことは？

A2 資格をもって働くことができたことは自分にとっても大きな自信になっています。専門職としての責任も感じますが、高校時代の実習や国家試験の勉強が、働いている今の自分の基礎を作ってくれたと思っています。在学中はつらいこともありましたが、置戸高校を卒業してよかったと今は本当に思います。

Q3 今後の目標は？

A3 利用者様に寄り添い、毎日一緒に笑顔で楽しみ、安全安心を感じてもらえるケアができる介護職員になりたいです。

【中学生へのメッセージ】

介護は自分を成長させ、やりがいを持てる仕事だと思います。自分の力を人へ役立てる仕事です。福祉に興味がある人は是非、福祉科へ。

寄 宿 舎 について

農業科・水産科・看護科・福祉科には、寄宿舍（寮）が設置されている学校もあり、全道から同じ目的をもった生徒が共同生活を送っています。

3年間を寮で過ごす学校のほかに、1年生は全員が入寮し、2・3年生は選考により入寮できるといった制度を設けている学校もあります。



専 攻 科 について

高校を卒業後に進学可能な専攻科（2年間）には、国家資格を取得する目的等で設置されているものと、自営者・後継者を育成するものがあり、要件を満たせば、他の高校を卒業した生徒でも入学することができます。

【国家資格を取得する目的等で設置】

- 美唄聖華高校と稚内高校の看護科では、通常、看護師になるのに6年以上かかるころ、一貫教育によって5年で国家資格を目指すことができます。国家試験の合格率は全国平均を上回り、保健師・助産師・養護教諭を目指して進学する生徒もいます。
- 水産高校の専攻科である、漁業科（小樽水産高校）と機関科（函館水産高校）では、2年間のうち11か月の乗船実習を経て、修了とともに上級の海技士（航海・機関）を取得でき、船長や機関長を目指します。また、情報通信科（小樽水産高校）では、航空局・海上保安庁、警察情報通信部や衛星通信関連企業などへの就職を目指します。

【自営業・後継者を育成する目的で設置】

- 富良野高校と別海高校には、農業特別専攻科が設置されており、農業経営者や酪農自営者となるために、高い教養と専門的知識・技術の深化を図り、新しい時代の農業を発展させる人材育成を行っています。

【図 32-26】 専門高校魅力発見ガイド（26 ページ目／全 26 ページ）

中学生版

For
Junior High School
Students

おしごとガイドブック
～2025年度版～



HOKKAIDO WORK GUIDE

北海道のしごと



私たちの暮らす北海道は、
たくさんの人の仕事に支えられています。
この冊子では働く先輩たちの姿を通じて
北海道の産業や仕事の様子などを紹介します。



北海道教育庁
学校教育局
高校教育課

【図 33-1】 おしごとガイドブック～2025年度版～ [中学生版] (1ページ目/全8ページ)

専門高校が取り組んでいる



工業高校と空調専門メーカーが連携した人材育成

【専門高校×企業の連携事例】

気候変動が進みエアコンの需要が高まる中、旭川工業高校では、空調設備に関する人材育成の充実に向けて、ダイキン工業(株)と連携し、教員対象のセミナーや人材育成に関する意見交換を行ってきました。このような連携によって、ダイキン工業(株)から学校に複数台のエアコンや専用工具が寄贈され、現在は、電子機械科においてエアコンの据付実習が行われています。また、帯広工業高校においても同様の産学連携が進むなど、道内の工業高校において、テクノロジーで未来を創る人づくりが進められています。

旭川工業高校 × ダイキン工業株式会社
帯広工業高校

地域産業について小学生に理解を深めてもらう

【専門高校×小学校の連携事例】

倶知安農業高校では、地域産業について小学生に理解を深めてもらうことを目的に、平成11年度から町内の小学校とジャガイモ栽培に関する交流学習を行っています。

高校生が講師となった小学校における出前授業のほか、農場において、植え付けや収穫などについて指導しており、小学生がジャガイモについて深く学ぶことができます。こうした取組は、学習を体験した小学生が倶知安農業高校へ入学し、自分が教える立場になるなど、学びの好循環を生み出しています。

倶知安農業高校 × 町内の小学校



農業と福祉の関わりについて理解を深める

【学科の垣根を越えた連携事例】

美幌高校農業科と置戸高校福祉科では、学科の垣根を越えた連携学習に取り組んでおり、野菜栽培に関する学習を通して、「農福連携」や「園芸療法」について学んでいます。

具体的な取組としては、農業科の生徒が講師となり、福祉科の生徒に対し、野菜栽培に関する知識・技術を指導するなどして、農福連携について学びを深めています。また、福祉科の生徒は、園芸療法の意義や、その実施方法などの学習を通じて、福祉についての理解を深めています。

美幌高校 × 置戸高校

【図 33-2】 おしごとガイドブック～2025 年度版～ [中学生版] (2 ページ目 / 全 8 ページ)

「縦」と「横」のつながり

専門高校では、北海道の未来を担う人材の育成に向けて、企業や小・中学校との「縦」のつながりと、学科の垣根を越えた専門高校同士の「横」のつながりの両面から、創意工夫のある教育活動に取り組んでいます。北海道教育委員会では、こうした取組を通じて、生徒一人一人がもつ可能性や能力をさらに高める産業教育を推進し、次世代の産業の担い手となる人材の育成を進めていきます。



半導体の価値や魅力を発信する「苫工半導体展」の開催

【専門高校×企業の連携事例】

苫小牧工業高校では、半導体関連企業や周辺の自治体と連携し、小中学生や市民を対象に、半導体に関して理解を深めてもらうイベント「苫工半導体展」を毎年開催しています。

併せて、生徒が講師を務め、小中学生を対象としたプログラミング教室も同時開催しており、参加者は、音楽が鳴ってイルミネーションが点滅する「クリスマスオーナメント」の製作などを行っています。

高校生が中心となって企画したこうしたイベントを通じて、半導体の魅力に加え、工業高校の魅力を広く発信しています。

苫小牧工業高校 × 半導体関連企業・自治体等

地域とともに学ぶ
教育を推進

【専門高校×小学校の連携事例】

下川商業高校では、町内の小学生と合同で販売実習会のロールプレイングを実施するなど、地域とともに学ぶ教育を推進しています。小学生は、高校生の販売練習にお客様役として参加した後、高校生のサポートを受けながら、会計や販売の業務を体験します。こうした取組を通じて高校生には自主性と主体性が身に付き、小学生には勤労観や職業観が醸成されるなど、地域をフィールドとした学びが展開されています。

下川商業高校 × 町内の小学校



地域資源を有効活用した
探究活動に取り組む

【学科の垣根を越えた連携事例】

大野農業高校と函館水産高校では、道南地域において、水揚げ量が多いホッキやホタテの貝殻にミネラルなどの肥料成分が豊富に含まれていることに着目し、連携して地域資源の有効活用に係る探究活動に取り組んでいます。両校では、それぞれの学科の特色を生かし、貝殻を粉砕して肥料化することで、肥料費の削減や廃棄される貝殻の有効活用、病害虫に強い作物づくりなど、一次産業の課題解決につなげています。

こうした取組によって、化学肥料を抑えた持続可能な農業生産の実現や、廃棄物問題の解決など、SDGsについての学びを深めています。

大野農業高校 × 函館水産高校

【図 33-3】 おしごとガイドブック～2025 年度版～ [中学生版] (3 ページ目 / 全 8 ページ)



HOKKAIDO WORK GUIDE
半導体産業
 北海道のしごと

自動搬送ロボットの活用



工場では、荷物を運ぶ自動搬送ロボットを導入しています。おかげで、体力的な負担を軽減できるほか、効率的な人員配置が可能になり、社員は、人間でなければできない業務に、多くの時間を充てることができています。

半導体を活用した自動車産業の魅力

自動車整備をしている父の影響もあり、自動車に携われる仕事を希望しました。自分が製造している部品は、ディーゼルエンジンの燃料を噴射する装置に使用されています。街中で自分が携わっている自動車を多く見かけると、大きなやりがいを感じます。



よりよい製造工程の実現

製造工程において不良の可能性を感じた際には、些細なことでも、上司などに報告することが重要です。また、常によりよい製造工程になるよう考えて行動することが大切であり、自分の考えた改善の提案が実現したときには大きな達成感を得られます。



株式会社デンソー北海道
 【千歳市】
 村井 晴彦さん
 札幌工業高校
 電気科卒業



HOKKAIDO WORK GUIDE
航空業界
 北海道のしごと



お客様の喜びが原動力



国際ビジネス科の授業で学んだ、英語やビジネスマナーはもちろんのこと、在学中に取り組んだ大型客船でのおもてなしを実践する授業は今の仕事をする上で、非常に役立っています。お客様に喜んでいただくと、私も嬉しくなります。

お客様に身近に感じていただける存在

空港で、JALのチェックインカウンター業務や、出発・到着ロビーのご案内などを担当しています。当日の運航状況や搭乗人数などの確認も重要ですが、お客様に身近に感じていただけるよう、表情に気を配っています。常に笑顔を保ち、お客様と積極的にコミュニケーションをとるよう心がけています。



チームワークが重要

到着便を担当する際には、客室乗務員の方と引き継ぎを行います。短時間のやりとりですがケアが必要なお客様の情報など、大切な情報が多いので正確に把握し、次の便の出発が遅れることがないように迅速な対応を心がけています。仲間とのチームワークが重要です。



日本通運株式会社
 【釧路市】
 米岡 美乙さん
 釧路商業高校
 国際ビジネス科
 卒業



【図 33-4】おしごとガイドブック～2025 年度版～ [中学生版] (4 ページ目 / 全 8 ページ)

HOKKAIDO WORK GUIDE
データセンター
北海道のしごと



世界中のどこにいても
仕事ができる



プログラミングにAIを活用するなど、業務の効率化を進めています。また、オフィス勤務と、自宅などで行うリモートワークを組み合わせたハイブリッドワークを導入しています。パソコンとWi-Fiがあれば、場所を問わず仕事ができます。

ITで人々の生活を支える

企業の方が安心して働けるよう、サーバーやネットワークを整えるインフラエンジニアとして働いています。お客様の「こうした」という声を聞き、安全で使いやすいネットワーク環境をつくるのが役割です。災害時にも頼れる仕組みづくりなど、人々の生活を支えているやりのある仕事です。



憧れが自分の仕事に

小さい頃から電子工作が好きで、IT業界に憧れていました。その思いから情報技術を学べる工業高校に進学し、在学中は当社を含む複数社が主催する子ども向けプログラミング教室のアシスタントも経験しました。今は憧れの業界で働くことができ、充実した毎日を過ごしています。



ビットスター株式会社
【札幌市】
大室 秀太さん
札幌琴似工業高校
情報技術科卒業



HOKKAIDO WORK GUIDE
建設DX
北海道のしごと



完成イメージが描ける
最新ソフトの活用



最新のソフトを活用して建物の平面図を作成することで、立体的な完成イメージとともに、必要な部材の数量や仕様、費用、工程に要する時間など、関連する情報を計算してくれます。情報を簡単に把握することで、残業が大幅に減っています。

建築現場のまとめ役となる「施工管理」

小さい頃から大工の仕事に興味があり、建築科に入学しました。インターンシップがきっかけとなり、建築現場における作業工程や資材の管理、事故を起こさない安全管理などを行う施工管理に興味をもちました。これまでに、学校のご修業やお寺の増築などに携わってきました。



地図に残る建設業の魅力

大工や塗装などを専門とする職人さんと一緒に働くことができ、皆さん優しく接してくれます。施工管理の魅力は、多くの方々と一緒に建物を一からつくり上げ、完成したものが地図に残ることです。今後は、木造建築や鉄筋コンクリートなど、多くの工事に携わってまいります。



株式会社高橋組
【函館市】
中村 愛海さん
函館工業高校
建築科卒業



【図 33-5】おしごとガイドブック～2025 年度版～ [中学生版] (5 ページ目 / 全 8 ページ)



HOKKAIDO WORK GUIDE
スマート
農業
北海道のしごと

仲間との情報交換を通じた技術の向上



農作業では、自動操舵トラクターやドローンを活用しています。「美幌町農業ICT推進協議会」に加入し、仲間との情報交換を通して技術を高めるなど、今後の規模拡大も見据えて、更なるICT機器の活用について模索中です。

農業経営者の道

実家が農業を営んでおり、私も農業に興味があったため、美幌高校の農業科に入学しました。高校の専門科目の学びがきっかけで農業経営への理解が深まり、実家を継ぎたいという思いが強くなりました。高校を卒業後、農業大学校に進学し、8年前に就農しました。



農業に従事する喜び

主にトラクターに乗って、作物の管理作業を行います。生育に合わせた管理が必要なため、朝早くから夜遅くまで作業をすることもあります。品質のよい農作物をたくさん収穫した時の喜びは格別です。仕事の段取りや農機具の扱いには、高校の学びが生きています。



東海農場
【美幌町】
東海 翔也さん
美幌高校
生産環境科学科
(現未来農業科)
卒業



HOKKAIDO WORK GUIDE
スマート
水産業
北海道のしごと

自然と人のよりよい関係づくりのために



超音波探知機や各種観測機器、無人撮影装置などを活用し、海だけでなく、山や発電所など、自然やエネルギーに関わる現場の調査を行うほか、予測・評価、保全対策の立案まで幅広い仕事があることが特徴です。

先輩から多くを学び経験を積み毎日

潜水による調査や分析などの作業を通じて、海などの環境を守る仕事をしています。まだまだ、先輩の動きを見て学ぶ毎日ですが、道内外の様々な現場に行き、多くの経験を積んでいけるため、経験値が上がり、とても充実した毎日を送っています。



高校での学びを生かす

生物に興味があり水産高校に入学して、環境を守る仕事に就きました。仕事では、天候などにより作業が大変なこともありますが、船の扱い方やロープワークなど、高校時代に学んだ技術を生かすことができ、苦勞があっても乗り越えることができます。



株式会社エコニクス
【札幌市】
中山 銀牙さん
函館水産高校
海洋技術科卒業



【図 33-6】おしごとガイドブック～2025 年度版～ [中学生版] (6 ページ目 / 全 8 ページ)

HOKKAIDO WORK GUIDE


医療

北海道のしごと




助産師としての
やりがい

市立稚内病院
【稚内市】
西川 優瓜さん
稚内高校
衛生看護科卒業



高校の学びをきっかけに助産師の道へ

看護師への憧れを抱き、稚内高校衛生看護科について調べたところ、最短で看護師の資格を取得できることを知り、受験を決めました。衛生看護科で学ぶ中で、地元の周産期医療に貢献したいといった気持ちが湧き、卒業後に資格を取得し、現在は助産師として勤務しています。



分娩介助や、出生後の処置など、覚えることが大変多いですが、高校時代の学びを生かし、焦らず一つ一つ確実に業務に取り組んでいます。お産に関わった方からの感謝の言葉や、新たに家族が増えた幸せをサポートできていると感じられる点に、助産師としての魅力と大きなやりがいを感じています。

HOKKAIDO WORK GUIDE

福祉

北海道のしごと



介護業界の
魅力

医療法人深仁会
西門山病院
介護医療院
【札幌市】
戸塚 楓佳さん
置戸高校
福祉科卒業



利用者に寄り添う「気持ちの深い理解」

介護人材が不足している中、置戸高校は3年間で介護福祉士の資格が取得できると父から勧められ、入学を決めました。寮生活を過ごした3年間で、先生方、実習先の職員、利用者の方々など、幅広い年齢層の方と関わることで、「気持ちの深い理解」を自然に身に付けることができました。



介護の仕事は、重労働というイメージをもたれるかもしれませんが、使用機器は進化を続けており、腰などへの負担も軽減されています。また、資格取得への挑戦を支援してくれるなど、研修体制も充実しており、仕事で接する看護師などの方から学ぶ機会が多いことも魅力です。

HOKKAIDO WORK GUIDE

食産業

北海道のしごと



人としての“幅”が
広がる仕事

パークハイアットニセコ
HANAZONO
【オリヴィオ】
【倶知安町】
中本 勇翔さん
当別高校
家政科卒業



調理を通じた人とのコミュニケーション

高校時代はグループで料理をすることが多かったため、専門学校に進学後も、段取りから調理中まで、常に仲間への気遣いを忘れずに作業する力が身に付き、それが今の仕事に役立っています。外国人スタッフもたくさんいる職場ですが、高校時代から培ってきたコミュニケーション力が生きています。



外国人スタッフとのコミュニケーションは簡単ではありませんが、徐々に言葉や考え方を理解できるようになり、“つくる”と同時に料理の一連の流れを意識することで、その奥深さを知ることもできました。休暇もしっかり取れるので、リフレッシュしながら仕事と向き合えています。

【図 33-7】 おしごとガイドブック～2025 年度版～ [中学生版] (7 ページ目 / 全 8 ページ)

魅力ある専門高校の学びを通じて北海道の未来を創る



このガイドブックを手にとった中学生の皆さんへ

私は、北海道教育委員会で、産学連携コーディネーターを務めている月館海斗といいます。このガイドブックは、中学生の皆さんに、北海道における産業構造の変化や新たな働き方とともに、専門高校（職業学科を設置する高校）について理解を深めてもらうことを目的として制作しました。

専門高校には、本当に多くの魅力が詰まっています。そこで、今年度、道教委では、専門高校の価値や魅力を広く発信するオンラインイベント「専門高校魅力発見ミーティング」を初開催しました。内容は7つの職業学科ごとに、専門高校の在校生と卒業生でトークセッションを行うというものであり、当日の様子を、道教委Webページに掲載していますので、是非、御覧ください。

皆さん一人一人が、専門高校について理解を深めるとともに、将来は、本道の未来の創り手となることを期待しています。

産学連携コーディネーター 月館 海斗

こちらの二次元コードからもアクセスできます



「専門高校魅力発見ミーティング」のURL

https://www.dokyoipref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/sangyo_top.html

専門高校の生徒3名による対談

高校生たちが語る 産業界とつながった学びと成長の物語

岩見沢農業高校農業科学科3年の仁平佳太さん、
苫小牧工業高校建築科3年の堂畑麗音さん、
美唄聖華高校衛生看護科2年の笈爪玲奈さんが、
専門高校における学習内容や将来の目標などについて
語ってくれました。（進行：月館）



実践的・体験的な学びを通じて、 社会に役立つ実感を得られることが専門高校の魅力

月館 「専門高校に入学したきっかけや、学校の魅力について教えてください。」

仁平 「私の家は農家で、将来は家業を継ぎたいと思い、農業高校に入学しました。農業高校では、家ではやっていない野菜の生育や管理を学びました。スケールの大きい北海道の農業のことを学べたことが自分の財産となっています。」

月館 「農業高校だからこそ得られた経験は、とても魅力的ですね。」

堂畑 「私は、姉も卒業した工業高校の建築科で学ぶうちに、将来のことを考えるようになりました。製図や足場組立てなどの実践的な授業のほか、現場見学など、実際に建設業に携わっている方々との関わりを通じて、建設業に就職することを決めました。」

月館 「まちづくりを支えている建設業には、大きな魅力がありますね。」

笈爪 「私は帯広市の出身ですが、最短で看護師になりたいと思い、今の学校に入学しました。高校卒業後に大学や専門学校に進み看護師になる人も多いですが、私の高校は同じ志を持った仲間と学べるので、毎日がとても充実しています。」

月館 「皆さんのお話を伺って、充実した高校生活を過ごす姿が想像できました。」



専門高校で学んだ経験を生かし、 地域の持続可能な発展を支える人材を目指す

月館 「これからの目標について教えてください。」

仁平 「農業高校で勉強していくうちに、自分に足りないことや身に付いたことが分かりました。また、「こうしたら農業生産がより効率的になるのでは」などといった想いが湧いてきましたので、農業系の大学に進学し、勉強を続けていきたいです。」

堂畑 「私は自宅から通える建設会社に就職します。今は、現場監督に必要な資格の取得に向けて勉強しています。入社後は、さらに上級の資格を取得して、大きな建物の建築に携わるなど、仕事の幅を広げていきたいと思っています。」

笈爪 「私は2年生ですが、3年生の秋頃から始まる病院での実習に向けて、まずは授業を大切にすることです。新しい命が生まれる瞬間に立ち会える助産師の仕事にも興味があるので、3年生から始まる母性看護の勉強も楽しみにしています。」

月館 「皆さんがそれぞれの分野で活躍し、未来の北海道を支えている姿を見られる日を楽しみにしています。今日はありがとうございました。」



高校生版

For
High School
Students

おしごとガイドブック
～2025年度版～



北海道のしごと



私たちの暮らす北海道は、
たくさんの人の仕事に支えられています。
この冊子では働く先輩たちの姿を通じて
北海道の産業や仕事の様子などを紹介します。



北海道教育庁
学校教育局
高校教育課

【図 34-1】 おしごとガイドブック～2025 年度版～ [高校生版] (表紙)
※裏表紙以外は、中学生版と同一の内容であるため掲載を省略している。

産学連携の学びを通して北海道の未来と地域を支える人材に



このガイドブックを手にとった高校生の皆さんへ

私は、北海道教育委員会で、産学連携コーディネーターを務めている月館海斗といいます。皆さんが暮らす北海道の産業は、大きな変化の時代を迎えています。次世代半導体製造拠点の立地や、洋上風力発電などの再生可能エネルギー関連施設の建設、スマート農林水産業の進展など、日々新たな技術や産業が生まれています。

このガイドブックは、高校生の皆さんに、北海道における産業構造の変化や、新たな働き方に対する理解を深めてもらうことを目的として制作しており、専門高校(職業学科を設置する高校)の卒業生が働く姿に加え、高校生が地域を支えている企業の方や他の学科の生徒と連携した学びの事例などを紹介しています。

このガイドブックを通じて、皆さんが自身のキャリアデザインを考え、本道の未来を支える存在となることを期待しています。

産学連携コーディネーター 月館 海斗

～高校における「縦」と「横」のつながりの好事例(富良野高校)～

富良野高校が取り組んでいる、地域の産業を支えている企業の方と高校が連携したキャリア教育、異なる学科の生徒と協働した探究学習の事例を紹介しますので、生徒の皆さんのキャリアを考える上での参考にしてください。

地元産業界と連携した体験的なキャリア教育 ～「縦」のつながり～

高校生の皆さんが、将来の「働く自分」をイメージする際には、地域の産業や多くの職業に目を向けて、広い視野で考えることが大切です。

富良野高校では、富良野市、富良野商工会議所と連携し、地元の企業や職業について理解を深めることを目的に、近隣の高校の生徒も参加対象に加えた「高校生向け企業体験会」を開催しています。

参加企業は、詳細な仕事内容の説明のほか、重機の操縦体験など、体験的な活動を取り入れて実施しており、参加した生徒の地元企業への理解の深化や、職業観の醸成につながっています。

皆さんの周りにも、それぞれの立場で、地域を支えている方々が数多くいますので、是非、多くの声を聞いてください。



重機の操縦体験の様子



仕事内容の説明の様子

社会の変化に対応した学科の垣根を越えた学び ～「横」のつながり～

工業科の生徒は、科目「課題研究」で、農業特別専攻科の学生と連携し、タマネギ栽培の研究に取り組みました。学んできたノウハウを生かし、水分量センサーを製作した上で、土壌水分量の値に応じて水が供給されるようにプログラミングを行いました。今後は、農業科でもこのセンサーを導入するなど、農業の発展的な学びにつなげる予定です。

また、「総合的な探究の時間」を中心に、普通科・農業科・工業科の各学科の特性を生かした学科混合の取組も推進しています。

皆さんが、これからの変化の激しい時代に対応していくためには、このような学科の垣根を越えた学びなど、探究的な学びを通して、多様な視点から物事を捉えたり、考えたりすることが大切です。是非、課題を見付け、仲間とともに解決することに積極的に挑戦してください。



製作した水分量センサー(左)と、タマネギ畑での調査の様子(右)



工業科の生徒が開発した自動水供給システムの模型

専門高校とは農業・工業・商業・水産・家庭・福祉・看護に関する職業学科を設置する高校のことです。



「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」

先生や生徒への技術指導

出前授業

産業実務家教員

大募集!!



職場見学等の受入れ

【産業実務家教員とは？】

本事業では、専門高校との連携が可能な、各産業に従事する職業人又は事業所のことを「産業実務家教員」と呼んでいます。

生徒に対して高度な知識・技術や、実践的・体験的な学習機会を提供することを目的としており、持続的で専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる関係を構築することを目指します。



機材の貸与

産業実務家教員になると

「産業実務家教員リスト2.0」に掲載され、全道の道立専門高校に「高校と連携を望む職業人」として周知されます。

どのように連携するの

専門高校が必要に応じて、各学校のニーズに合わせてリストの中の産業実務家教員に直接連絡を取り連携します。具体的な連携方法は各学校と直接、打合せをして決定します。

こんな方をお待ちしています

- 高校と連携した取組を行いたいが、どこに連絡をするべきか分からない方。
- 高校生に自社や業界の業務内容を是非知ってもらいたいと考えている方。
- 会社に高校生を招いて、職場の意識改革を行いたいと考えている方。
- 業界の発展のために、高校生を積極的に指導したいと考えている方。



登録フォーム

所要時間は10分程度です。



(URL) <https://forms.gle/6AwvSKyvMZdwvc328>

【申込締切】

令和7年(2025年)12月19日(金)

【申込に当たって】

- 連携の際に、交通費や謝礼などの支払いはありません。
- 個人又は営業所や工場などの事業所単位で登録してください。

【登録方法】

左の2次元コードを読み込むか、URLにアクセスして、ウェブページ上で回答してください。

「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」とは？

文部科学省の事業である「マイスター・ハイスクール普及促進事業」として北海道が採択されたプロジェクトです。北海道内の専門高校と地域産業界の連携を強化し、次世代の産業を支える人材育成を目指す取組です。専門高校の生徒が実践的な学びを通じて最新の産業技術や知識を習得できる環境を整えることを目的としています。



←「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の取組はこちらのWebページから

【問い合わせ先】北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

Tel : 011-204-5705



【図 35】 産業実務家教員の募集チラシ



専門高校の実践的・探究的な学びに役立つ

産業実務家教員リスト2.0



北海道教育庁学校教育局高校教育課

【図 36-1】 産業実務家教員リスト 2.0 (表紙)

目次

- リストの活用例 P 1
- 「産業実務家教員」一覧 P 2
- 「産業実務家教員」リスト P 3

「産業実務家教員リスト」について

- 「産業実務家教員リスト」は、専門高校との連携が可能な、各産業に従事する職業人又は事業所のリストです。生徒に対して、高度な知識・技術や実践的・体験的な学習機会を提供することを目的としています。
- このリストは、専門高校と産業界の双方にとってプラスとなる持続的な関係を構築することを目指しています。地域産業の人材育成に向け、産業実務家教員と学校が意見を交わしながら、よりよい連携が行われることを期待しています。
- 産業実務家教員と連携を希望する学校は、リスト内の担当者・連絡先に直接連絡をしてください。教育庁に連絡する必要はありません。
- 交通費や謝礼などの支払いは原則ありません。ただし、連携内容によっては、材料費など実費がかかる場合がありますので、詳細については産業実務家教員と連絡を取り確認してください。

【図 36-2】 産業実務家教員リスト 2.0 (目次)

(3) 生徒を対象とした新たな産業や技術革新に対応した取組

ア 半導体に関する出前授業等

道経済部と連携し、大学教授や企業の技術者等を講師とした半導体に関する出前授業を高校 27 校で実施した。また、地域の半導体関連企業や自治体と連携し、半導体に関するイベント「苫工半導体展」を開催している苫小牧工業高校の取組について、専門高校や産業界に好事例として広く周知した。



出前授業の様子（札幌琴似工業高校定時制）



小中学生向け
プログラミング
教室と同時開催し、
多くの方が来場



「苫工半導体展」チラシ（左）と当日の様子

イ 洋上風力発電に関する出前授業・見学バスツアー

道経済部と連携し、メンテナンス等の人材育成・確保に資する取組として、工業高校等を対象に、オンラインを併用した出前授業とバスツアーを実施した。



出前授業（札幌工業高校）



見学バスツアー（小樽未来創造高校）

(4) 各種セミナー

産業構造の変化に対応した指導の充実を図ることなどを目的に、関係機関等と連携し、教員や産業界関係者等を対象とした各種セミナーを開催した。

ア 半導体実践セミナー2025〔令和7年8月4日（月）～6日（水）開催〕

工業科における半導体分野の指導の充実を図るため、北海道半導体人材育成等推進協議会（事務局：北海道経済産業局、公益財団法人北海道科学技術総合振興センター）、技術研究組合最先端半導体技術センターと連携し、参集形式により3日間の日程で開催した。



次世代半導体の製造を実践的な技術で担う人材育成の充実に向けて、工業科教員を対象としたセミナーを初めて開催します。

2025
本道
初開催
8/4 月 ～ 8/6 水

参加対象

半導体に関する内容を現在指導している又は今後指導予定である公立高校の工業科教諭等（定員：10名程度）

会場

【第1日目】

北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター・セミナー室

【第2日目】

ミツミ電機株式会社千歳事業所、Rapidus株式会社千歳事務所

【第3日目】

経済産業省北海道経済産業局

日程・内容等

実施要項のとおり

【主催】北海道教育委員会

【共催】国立大学法人北海道大学、北海道半導体人材育成等推進協議会（事務局：経済産業省北海道経済産業局、公益財団法人北海道科学技術総合振興センター）、技術研究組合最先端半導体技術センター(LSTC)

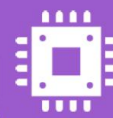
【協力】(株)産業タイムズ社、ミツミ電機(株)、Rapidus(株)、北海道経済部AI・DX推進局次世代半導体戦略室

【図 37】 チラシ（半導体実践セミナー2025）

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

「半導体実践セミナー2025」

兼北海道高等学校産業教育実技講座（工業）



セミナーレポート

令和7年8月4日（月）～6日（水）開催

道教委では、工業科の教員に先端半導体に関する知識と技術を習得させ、実践的な指導力の向上を図ることを目的としたセミナーを初開催し、全道から13名の先生方に参加いただきました。

ここでは、本セミナーの実施状況を紹介します。なお、セミナーの開催に当たっては、次に示したとおり、多くの皆様に御協力をいただきました。

【共催】

北海道大学、北海道半導体人材育成等推進協議会〔事務局：経済産業省北海道経済産業局、（公財）北海道科学技術総合振興センター〕、技術研究組合最先端半導体技術センター（LSTC）

【協力】

株式会社産業タイムズ社、ミツミ電機株式会社、Rapidus株式会社、北海道経済部AI・DX推進局次世代半導体戦略室

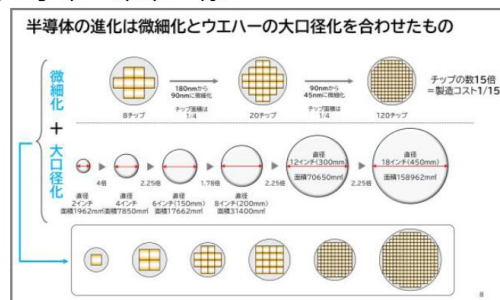
1日目【会場：北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター】

1 講義

- ・内容「半導体概論」
- ・講師：株式会社産業タイムズ社事業開発部課長 小峯 未来 様



ウエハーを手に説明する講師の小峯様



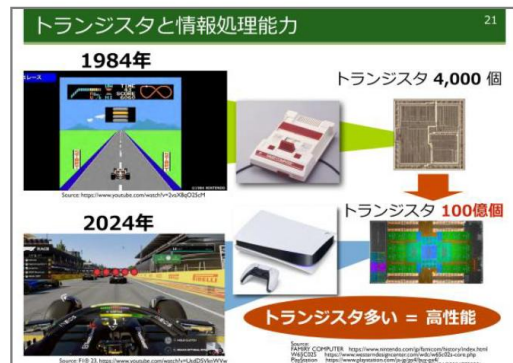
半導体の進化についての説明スライド

2 説明・見学・体験

- ・内容「クリーンルーム等の研究設備についての説明、試作した半導体の顕微鏡観察、半導体応用実機のデモンストレーションなど」
- ・講師：北海道大学量子集積エレクトロニクス研究センター教授 葛西 誠也 様



エアシャワーを浴びる参加者



トランジスタの進化についての説明スライド

2日目【会場：ミツミ電機株式会社・Rapidus株式会社】

1 ミツミ電機株式会社

- ・内容「説明、工場及びショールーム等の見学、意見交換」
- ・講師：千歳事業所 部長 橋本 稔 様

2 Rapidus株式会社

- ・内容「説明、半導体開発製造拠点 IIMの見学、講演、質疑応答」
- ・講師：常務執行役員オペレーション本部副本部長 赤堀 浩史 様
プロフェッショナルエグゼクティブアシスタント 貴島 和美 様



ショールームを見学する様子（ミツミ電機）



IIMを見学する様子（Rapidus）

3日目【会場：経済産業省北海道経済産業局】

1 説明

- ・内容「北海道の半導体産業について」
- ・講師：北海道経済産業局地域経済部製造・情報産業課
課長補佐(半導体担当) 鈴木田 惇 様

2 講義

- ・内容「前工程について」「後工程について」
- ・講師：ノーステック財団アドバイザー 小黒 敏 様
ノーステック財団アドバイザー 平野 次彦 様

3 意見交換



参加者と講師の意見交換の様子

セミナー参加者の声

- ▶ 見学や意見交換を通じて、科目「実習」や「課題研究」などの内容に、半導体の内容を組み入れるヒントを得ることができた。
- ▶ 卒業生が入社しているミツミ電機について、社内の様子を自分の目で確かめることができ、とても安心できた。
- ▶ Rapidusの見学では、この研修でなければ見ることや聞くことのできない体験ができ、生徒に還元しようという意識が高まった。
- ▶ 前工程のことはある程度理解していたが、後工程を知る機会は今回が初めてで印象に残った。
- ▶ お互いの実情を知ることができる有意義な意見交換を実施できた。
- ▶ 卒業生の就職先の中でもクリーンな職場環境であり、特に女子生徒に需要があると感じた。
- ▶ この研修に関わっている全ての方々が、業界を盛り上げようと熱い気持ちを持っていることを知った。
- ▶ 2ナノの半導体を量産できるようになると、オペレーターとしての業務に工業高校の卒業生が参入できると感じた。

【アンケート結果（一部）】※回答数13

①本研修を通じて、半導体業界を生徒の就職先に勧めたいと思ったか。



「思った」 100%
「思わなかった」 0%

②セミナーの成果を今後、どのように生かしていくか。（複数回答可）

教科指導：12
進路指導・キャリア教育：11
自己の教材研究：11

イ 建設DX理解促進セミナー [令和7年8月8日(金)開催]

道建設部と連携し、中学校や高校の教員等が、DX化が進む建設業に関する理解を深めることを目的にオンラインで開催した。

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

「建設DX理解促進セミナー」



セミナーレポート

令和7年8月8日(金)開催

進路指導を担当する中学校や高校の教員等が、DX化が進む建設業に関する理解を深めるとともに、建設業の価値や魅力を発見するため、道建設部と連携し、オンラインセミナーを開催しました。全道から中学・高校教員、建設業界関係者、教育委員会関係者合わせて約40名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介いたしますので参考にしてください。

セミナーの内容

◆講演

- ・演題：「建設DXの現状と取組事例」
- ・講師：株式会社砂子組 常務執行役員 企画営業部部长 真坂 紀至 様

◆説明

- ・内容：「建設業における働き方改革の現状と取組事例」
- ・説明者：ハラダ工業株式会社 土木事業部建設DX推進委員長 吉村 篤 様

◆体験談

- ・内容：「バックオフィス業務等の魅力とやりがいについて」
- ・発表者：ハラダ工業株式会社 工事支援部 佐藤 ゆうか 様 (留萌千望高校卒)、西淵 舜亮 様 (留萌高校卒)

◆事例発表

- ・内容：「建設業をテーマとした『総合的な探究の時間』の取組
- ・発表者：北海道浜頓別高等学校 林田 保輝 教諭

◆意見発表

- ・内容：「土木科で学んだテクノロジーで北海道の未来を創る」
- ・発表者：北海道札幌工業高等学校 土木科3年 野村 彩華 さん



講演資料 (株式会社砂子組)



事例発表資料 (浜頓別高校)

参加者の声

【アンケート結果(一部)】※回答数20

- ▶ 生徒が工業高校へ進学するときのアドバイスに生かすことができる内容だった。(中学校教員)
- ▶ 担当教科である商業科のマーケティングなどの授業と関連する部分が多かったことが印象的であり、今後の授業にも生かしていきたい。(高校教員)
- ▶ 教育業界と同じように、建設業界でも業務の効率化や事務作業の簡素化を図るため、ICTを活用して、働き方改革を進めていることが分かった。(高校教員)
- ▶ 来年度から農業土木の科目を導入することになっており、今後、関連企業等との連携を深めたい。(高校教員)
- ▶ 進路を考える子どもたちにも直接届けられるよう、活動の範囲をさらに広げ、企業と子どもたちを結ぶ架け橋になってほしい。(企業関係者)

【図39】「建設DX理解促進セミナー」セミナーレポート

ウ 洋上風力発電理解促進セミナー [令和7年10月3日(金)開催]

大学等と連携し、高校教員等が洋上風力発電に関する理解を深め、洋上風力発電に関する人材育成の取組を推進することを目的にオンラインで開催した。

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト
 「洋上風力発電理解促進セミナー」
 セミナーレポート
 令和7年10月3日(金)開催

進路指導や総合的な探究の時間等を担当する高校の教員等が、洋上風力発電に関する理解を深めるとともに、今後の本道産業構造の変化に対応した指導の充実が図られるよう、道経済部と連携し、オンラインセミナーを開催しました。

全道・全国から高校教員、教育委員会関係者合わせて約40名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので参考にしてください。

セミナーの内容

◆講演

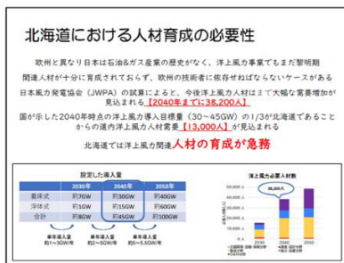
- ・演 題：「洋上風力発電と地域創生」
- ・講 師：北海道大学 北方生物圏フィールド科学センター長・教授 宮下 和士 様

◆発表

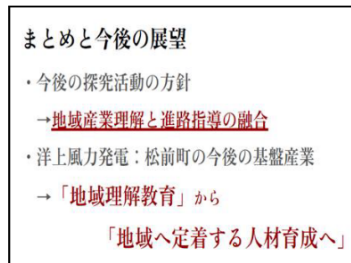
- ・内 容：「探究活動を通じた洋上風力発電の理解の促進と進路指導」
- ・発表者：北海道松前高等学校 村上 謙吾 教諭

◆説明

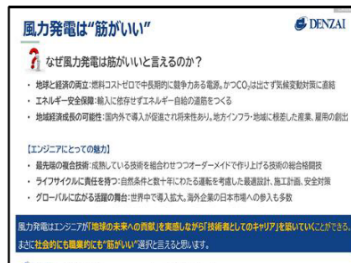
- ・内 容：「洋上風力従事者の業務内容と地元での雇用について」
- ・発表者：DENZAI株式会社 取締役専務執行役員 吉田 昌弘 様



講演資料(北海道大学)



発表資料(松前高校)



説明資料(DENZAI)

参加者の声

【アンケート結果(一部)】※回答数13

- ▶ 今後どのような仕事が必要とされ拡大していくのかという点について非常に勉強になった。(専門高校教員)
- ▶ 洋上風力発電に関する基礎的な知識だけでなく、今後の地域産業などの知見について幅広く知ることができた。(普通科高校教員)
- ▶ 松前高校の発表は、生徒が風力発電を自分事として探究活動に結び付ける過程が紹介され、参考になった。(専門高校教員)
- ▶ 洋上風力発電が本格的にスタートしていない中、実際の進路指導をイメージすることは難しいため、今後は、働く上での明確なメリットが伝わるような話があるとよい。(普通科高校教員)
- ▶ 探究活動を通じて、生徒の進路意識の向上が図られ、将来に生かされる取組になっていると感じた。(その他の教育関係者)

【図40】「洋上風力発電理解促進セミナー」セミナーレポート

工 観光産業理解促進セミナー [令和7年10月28日(火)開催]

関係機関等と連携し、高校教員等が観光産業に関する理解を深め、高校と産業界等が一体となった観光産業を担う人材育成を推進することを目的にオンラインで開催した。

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

「観光産業理解促進セミナー」

セミナーレポート



令和7年10月28日(火)開催

高校の教員等が、観光産業に関する理解を深め、本道産業構造の変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界が一体となった観光産業を担う人材育成の取組を推進するため、オンラインセミナーを開催しました。

全道から高校教員、観光業界関係者、教育委員会関係者合わせて25名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので参考にしてください。

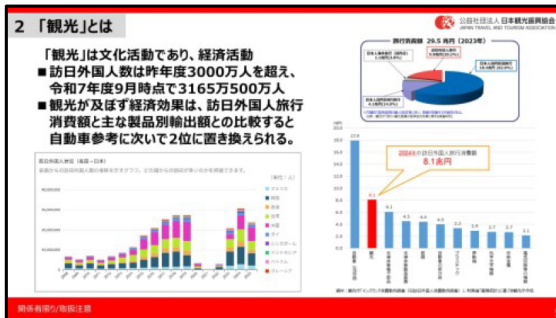
セミナーの内容

◆講演①

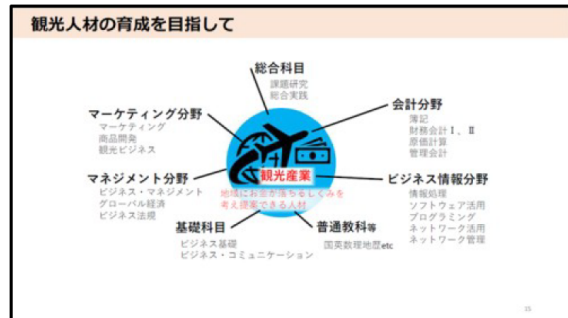
- ・演 題：「観光ビジネスにおけるマーケティングとデータ分析」
- ・講 師：公益社団法人日本観光振興協会観光DX共創部長 森岡 順子 氏

◆講演②

- ・演 題：「道外での観光に関する学習の取組事例」
- ・講 師：長崎県教育庁高校教育課キャリア教育班 参事 馬場 剛 様



講演資料（日本観光振興協会 森岡様）



講演資料（長崎県教育庁 馬場様）

参加者の声

【アンケート結果（一部）】※回答数19

- ▶ 授業で活用できるマーケティングツールの活用事例が参考になりました。（教育委員会関係者）
- ▶ 情報があふれる現代社会において、データを正しく読み解き、活用する力は不可欠である。生徒にその力を育むためにも、教育現場でビックデータの活用を取り入れる必要性を強く感じました。（専門高校教員）
- ▶ RESAS以外に活用できるデータをあまり知らなかったのので、参考になった。（普通科高校教員）
- ▶ 自分はデータの活用についてあまり取り組んでこなかったので、今回のデータ活用方法はとても参考になりました。数字を見える化することの大切さを学びました。（専門高校教員）
- ▶ 実際に高校で行われている授業や企業等との連携についての情報を得ることができ、有意義な内容だった。本校も企業との連携を多く行っているのので、今後の取組の参考としたい。（専門高校教員）
- ▶ 長崎県が県全体で取り組んでいる教育施策や地域連携の事例を知り、自治体が一体となって教育の質向上や地域活性化を目指す姿勢に強い感銘を受けた。（専門高校教員）
- ▶ 市場規模や旅行者層の異なる複数の取組事例があったため、参考になりました。（教育委員会関係者）

【図 41】「観光産業理解促進セミナー」セミナーレポート

オ スマート農林水産業理解促進セミナー [令和8年1月20日(火)開催]

大学等と連携し、高校及び中学校の教員や中高生の保護者等が、スマート農林水産業に関する理解を深めるとともに、農林水産業の価値や魅力を発見することを目的にオンラインで開催した。

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト
「スマート農林水産業理解促進セミナー」
セミナーレポート



令和8年1月20日(火)開催

高校及び中学校の教員や中高生の保護者等が、スマート農林水産業に関する理解を深めるとともに、農林水産業の価値や魅力を発見するため、オンラインセミナーを開催しました。全道から高校・中学校の教員及び保護者、農林水産業関係者等合わせて39名に参加いただきました。ここでは、本セミナーの実施状況を紹介しますので参考にしてください。

セミナーの内容

◆講演①

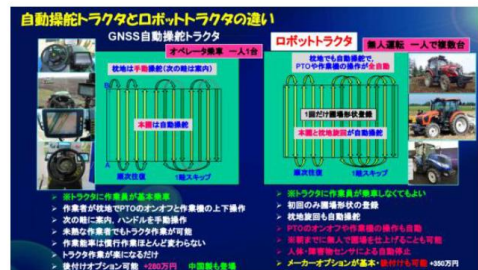
「スマート農業の現状とこれからの方向性」
北海道国立大学機構帯広畜産大学名誉教授
(十勝地区農産協同組合長会デンタル農学専任講師) 佐藤 禎稔 氏

◆講演②

「ドローンを活用したスマート水産業の今後の可能性について」
株式会社大歩代表取締役 中村 徹也 氏

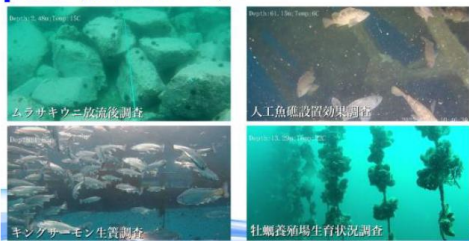
◆事例発表

「データ駆動型農業の実践に向けた学習」
北海道岩見沢農業高等学校農業科学科2年 戸田 匠翔
四釜 悠瑚



講演①資料

▶ROV (水中ドローン)



講演②資料



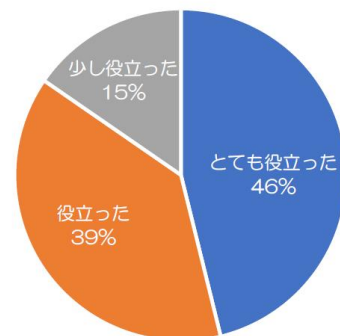
事例発表資料

参加者の声

【アンケート結果(一部)】※回答数13

- ▶ 農業高校の教員である私たちが、スマート農業の講演を聞き、スマート農林水産業に関わる最新の機器、技術に関する情報や知識を取り入れ、アップデートしていかなければならないと思いました。(専門高校教員)
- ▶ 水中ドローンの活用についての講演を聞き、漁業とのつながりや、水産業全体での活用事例等について理解を深めることができました。(専門高校教員)
- ▶ 岩見沢農業高校の取組事例について、未来の農業生産を見据えた、極めて有効な研究を行っていると感じました。(農林水産業及び関連産業関係者)

本セミナーは、スマート農林水産業の理解促進に役立つ内容でしたか。



【図42】「スマート農林水産業理解促進セミナー」セミナーレポート

(5) ONE-TEAM コミッティ（事業運営委員会）

産学連携コーディネーターを含む有識者 11 名（委員名簿は 97 ページに掲載）で構成し、参集形式により、年 3 回の会議を開催した。本プロジェクトの円滑な推進に向けて、専門高校の視察や産学連携に関する協議を行い、専門的見地から指導・助言をいただいた。

【第 1 回（6 月）】会場：札幌国際情報高校

【主な内容】

- ▶ 令和 6 年度の成果と課題
- ▶ 令和 7 年度事業計画の具体的な検討等
- ▶ 実習等の視察



協議の様子



実習を視察する様子

【第 2 回（10 月）】会場：江別高校

【主な内容】

- ▶ 事業 2 年目の中間報告、各種イベント等の検討
- ▶ 実習等の視察

【第 3 回（2 月）】会場：北海道立道民活動センター

【主な内容】

- ▶ 研究成果と課題の検証
- ▶ 次年度以降の取組



協議の様子（第 2 回）



協議の様子（第 3 回）

ONE-TEAM コミッティ委員による助言の内容

※第3回 ONE-TEAM コミッティにおける委員の発言から一部抜粋

<本事業における成果>

- 各種イベントに参加した生徒にとっては、大きな自信につながった。
- 生徒たちは産学連携による学びを通して、「専門高校での学びを深めるほど、進路の可能性が広がる」ということを理解できていた。
- 本プロジェクトの取組を通して、生徒たちは、専門分野の学びの広がりを知ることができていた。また、企業側も産学連携によって、様々な専門性やスキルをもった人たちとつながる機会になった。
- 異なる分野との産学連携や、学科の垣根を越えた専門高校間の連携が数多く見られた。
- 学校と産業界が「一緒に人を育てる」という意識をもつきっかけとなった。

<課題・今後に向けた取組>

- 専門高校の学びが「進路を狭めるものではなく、可能性を広げるもの」であることを発信し続ける必要がある。
- 産業実務家教員リストは、活用方法や打合せのノウハウなどを具体的に記載することにより、現場の教員が活用しやすくなる。

令和7年度 ONE-TEAM コミッティ委員名簿

氏名	所属・職	役割
月館 海斗	株式会社すみか・代表取締役	産学連携コーディネーター
岡部 善平	小樽商科大学・教授	
百瀬 康弘	北海道経済連合会・常務理事	
和田 順子	旭川市立大学・新学部設置準備室特命准教授 株式会社エム・ケー・プロジェクト・代表取締役	
齊藤 潔	北海道農政部生産振興局技術普及課 ・首席普及指導員	
矢野 伸一	北海道経済部 AI・DX 推進局 DX 推進課 ・スタートアップ担当課長兼 AI 推進担当課長	
桑名 真人	一般社団法人北海道農産協会・てん菜部長	
亀山 喜明	北海道小樽水産高等学校・校長	道央拠点校
鈴木 康礼	北海道室蘭工業高等学校・校長	道南拠点校
池田 隆	北海道旭川商業高等学校・校長	道北拠点校
室伏 諭	北海道更別農業高等学校・校長	道東拠点校

4 拠点校アンケート結果

文部科学省の委託業者を通じて、拠点校4校の生徒や教員を対象としたアンケート調査を実施した。アンケートの主な結果は次のとおりである。

[調査期間] 令和7年10月31日（金）から令和7年12月10日（水）

生徒（回答者数：190名） ※学年の内訳：1学年61名、2学年120名、3学年9名

設問1 今年度、学校での授業や実習の中で、企業や地域の人が講義をしたり、手伝ったりしたことは、どれぐらいありましたか。【1つのみ選択】

項目	回答数	回答者数に対する割合
1 一度もない	25	13%
2 月1回未満	120	63%
3 月1回から週1回の間	40	21%
4 週1回以上	5	3%

設問2 今年度、学校行事やイベント（授業や実習以外）で、企業や地域の人が話をしたり一緒に活動したりしたことは、どれぐらいありましたか。【1つのみ選択】

項目	回答数	回答者数に対する割合
1 一度もない	64	34%
2 月1回未満	101	53%
3 月1回から週1回の間	23	12%
4 週1回以上	2	1%

設問3 今年度、企業や地域の人に関わっている課題研究やグループワークに参加した経験はありますか。【1つのみ選択】

項目	回答数	回答者数に対する割合
1 参加したことがある	69	36%
2 参加したことはない	121	64%

設問4 今年度、企業や地域の施設を訪問する活動（見学やインターンシップなど）に参加した経験はありますか。【1つのみ選択】

項目	回答数	回答者数に対する割合
1 参加したことがある	152	80%
2 参加したことはない	38	20%

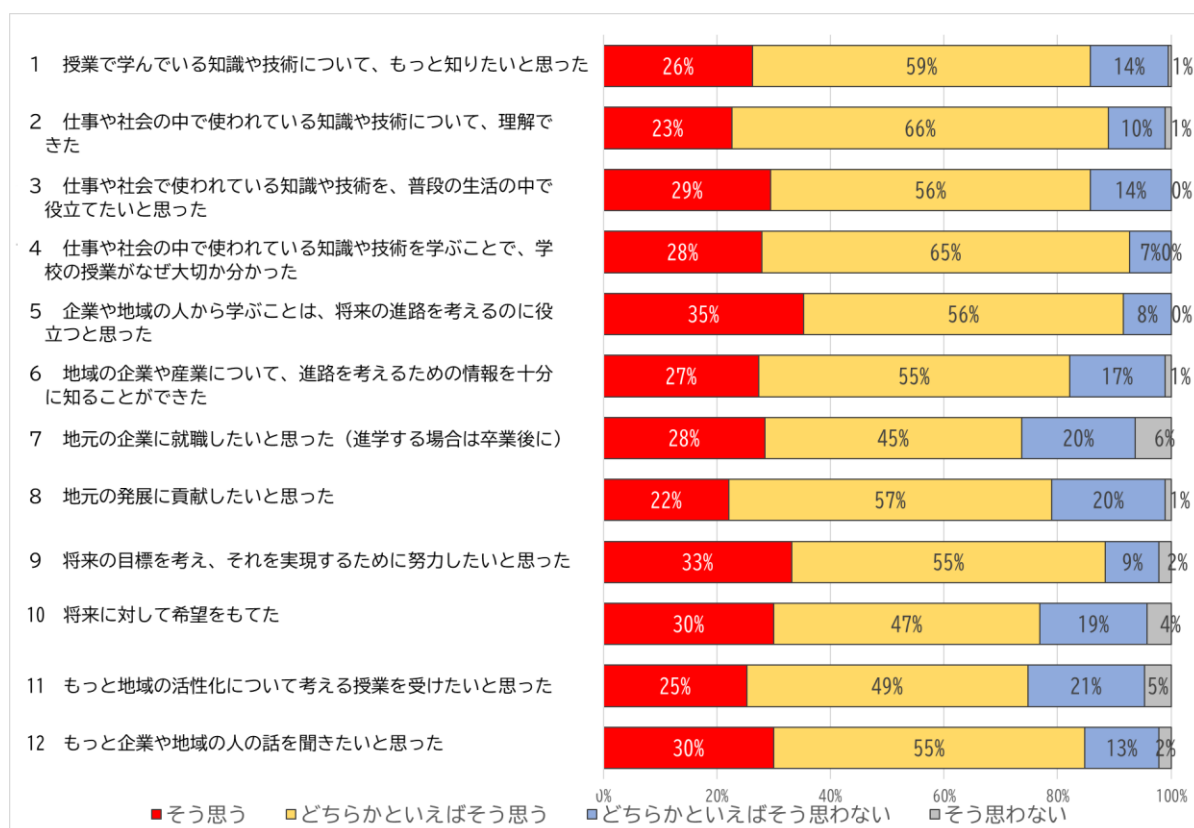
設問5 企業や地域の人提供した学びの機会（授業・実習・イベント等）は、自分の興味関心に合っていましたか。【1つのみ選択】

項目	回答数	回答者数に対する割合
1 そう思う	43	23%
2 どちらかといえばそう思う	117	62%
3 どちらかといえばそう思わない	27	14%
4 そう思わない	3	2%

設問6 企業や地域の方が提供した学びの機会（授業・実習・イベント等）からは、大人たちの熱意が伝わってきましたか。【1つのみ選択】

項目	回答数	回答者数に対する割合
1 そう思う	43	23%
2 どちらかといえばそう思う	117	62%
3 どちらかといえばそう思わない	27	14%
4 そう思わない	3	2%

設問7 企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等に取り組んでみて、あなたの考えについて、最もあてはまるものを一つ選んでください。【それぞれについて4段階で回答】



設問8 企業や地域社会の方から学ぶ授業や実習等について、どのように感じていますか。（印象に残ったこと、その時に感じたことなどを書いてください）【自由記述】

<190名の回答から一部を抜粋>

- 会社の方々の熱意がとても伝わってきた。
- 「こういうことをする企業なんだな」と感じた。将来のことについても、ある程度イメージが湧いた。
- 自分たちの行動で、少しでも地域がよくなっていけばいいと思った。
- 高価な機器を扱うことができ、貴重な経験になった。
- もっと話を聞いてみたいと思った。
- 皆さんすごくニコニコしていて楽しそうだった。

- 自分は高校に入学する前から卒業後の進路を決めていたけど、企業の方からの話を聞いて、魅力を感じた職業や、興味をもったことが多くあったから、まだ進路を決めていない人にとっては有り難く、よい機会だと思った。
- 普段の授業では体験できないことが数多くできて、たくさんの経験ができた。
- 自分にとってはあまり興味がなかったことでも、話を聞いている間に興味が湧いてきて真剣に話を聞くことができ、たくさんのことを学べた。
- 普段学校では教えてくれないことや覚えておくべきことを話してくれるおかげで、いろいろ考えをもつことができた。
- どの企業でも人材育成や社内の雰囲気づくりを徹底されていて、働きやすそうだなと思った。
- 「卒業後には自分もこんなことをやっているのかな」と、自分と企業の方を重ねてみれた。
- 企業の方の話を聞いて、専門高校で学ぶ自分には将来性があることを実感した。
- 働く上では高校で習う知識が必須だと感じたので、今後の勉強を頑張るべきだと思った。
- 企業の方が積極的に動いており、若者に対する期待や熱意が特に印象に残った。
- 就職することや働くことについて学べる機会をもらえてよかった。
- 人生の先輩に話をしてもらって、自分が働くために必要なことを学べて、とてもためになった。
- 将来の夢を叶えられるように資格や技術を身に付け、社会でいろいろな人の役に立てるように努力していきたい。
- 企業の人に授業をしてもらった時に、「将来役に立つかもしれないことを教わっているんだな」と実感できて嬉しかった。
- 普段の授業でなんとなく分かっているけど、詳しく教わっていないことや、やっていないことに視点を置いてくれたおかげで、未知の部分に触れることができた。また、地域と関連付けた学習だったため理解も早まったし、未知だったからこそ浮かび上がる疑問も、企業の方々が答えてくれるので、楽しんで取り組むことができた。
- インターンシップを通して、今後の目標や夢を明確にすることができた。
- 自分が思っている以上にいろいろな進路があると分かった。
- 日本を支える産業や物流などの根幹を知ることができ、とてもよかった。
- いろいろな企業があって、どの企業もお客様のことを考えていると思った。

職業に関する教科を担当する教員（回答者数：24名）

設問1 学校が産学連携に取り組む必要性を、あなたは十分に理解していると思いますか。

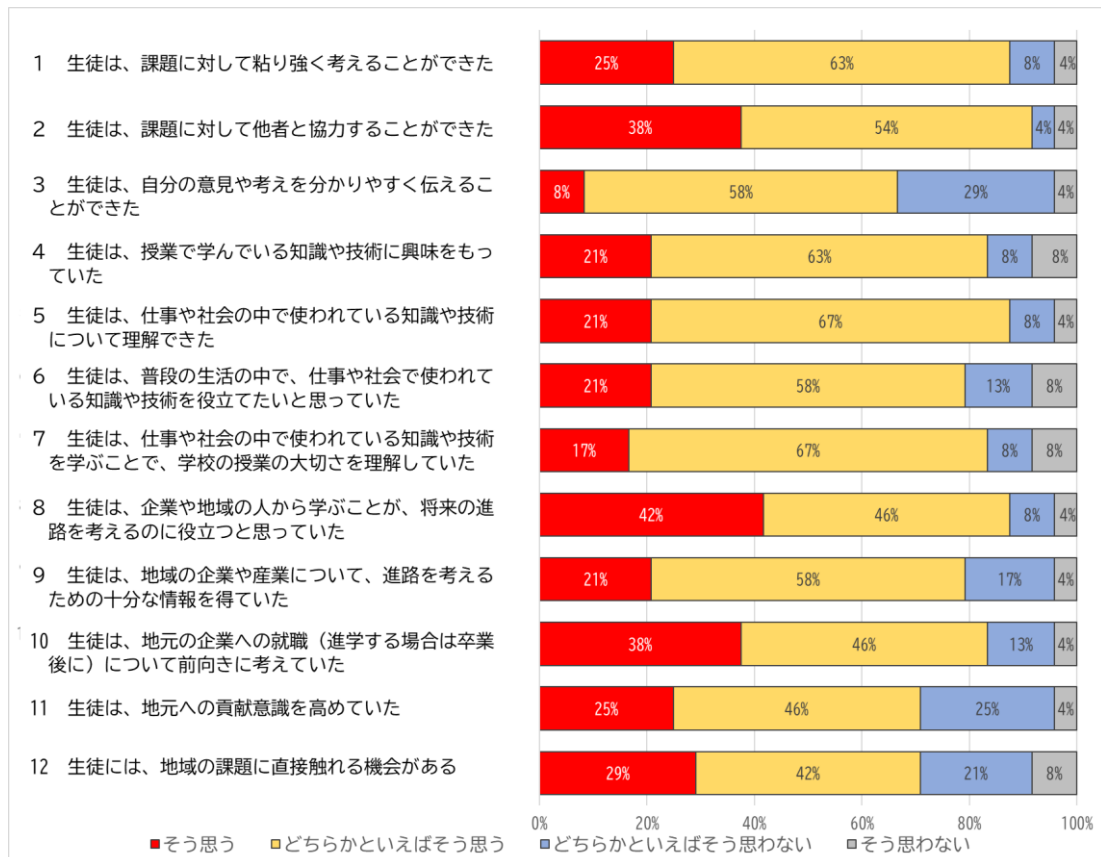
【1つのみ選択】

項目	回答数	回答者数に対する割合
1 そう思う	11	46%
2 どちらかといえばそう思う	11	46%
3 どちらかといえばそう思わない	1	4%
4 そう思わない	1	4%

設問2 産学連携の取組が、学校の目標に合っていると思いますか。【1つのみ選択】

項目	回答数	回答者数に対する割合
1 そう思う	11	46%
2 どちらかといえばそう思う	12	50%
3 どちらかといえばそう思わない	0	0%
4 そう思わない	1	4%

設問3 産学連携の取組における生徒の状況について、あなたの考えに当てはまるものを選んでください。【それぞれについて4段階で回答】



設問4 あなたは、地域の産業や企業について理解していると思いますか。

【1つのみ選択】

項目	回答数	回答者数に対する割合
1 そう思う	7	29%
2 どちらかといえばそう思う	16	67%
3 どちらかといえばそう思わない	1	4%
4 そう思わない	0	0%

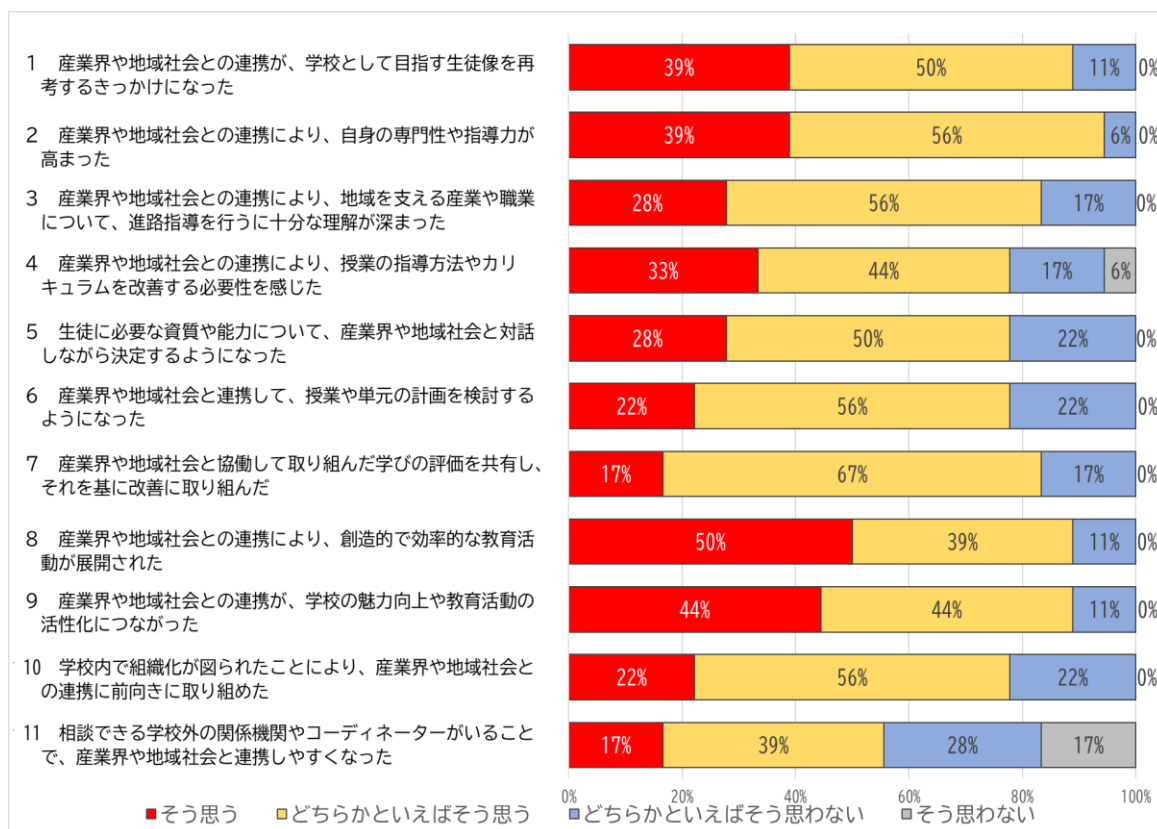
設問5 あなたは、生徒の関心に合った学習の機会を提供できていると思いますか。

【1つのみ選択】

項目	回答数	回答者数に対する割合
1 そう思う	4	17%
2 どちらかといえばそう思う	14	58%
3 どちらかといえばそう思わない	6	25%
4 そう思わない	0	0%

設問6 産学連携の取組について、あなたの考えを教えてください。

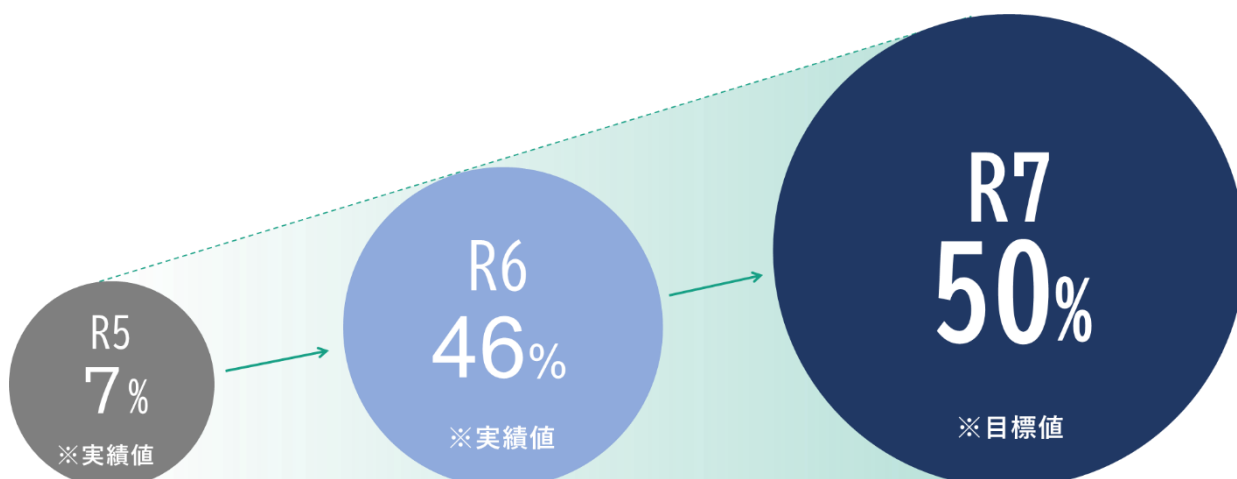
【それぞれについて4段階で回答】



5 成果指標

【指標①】

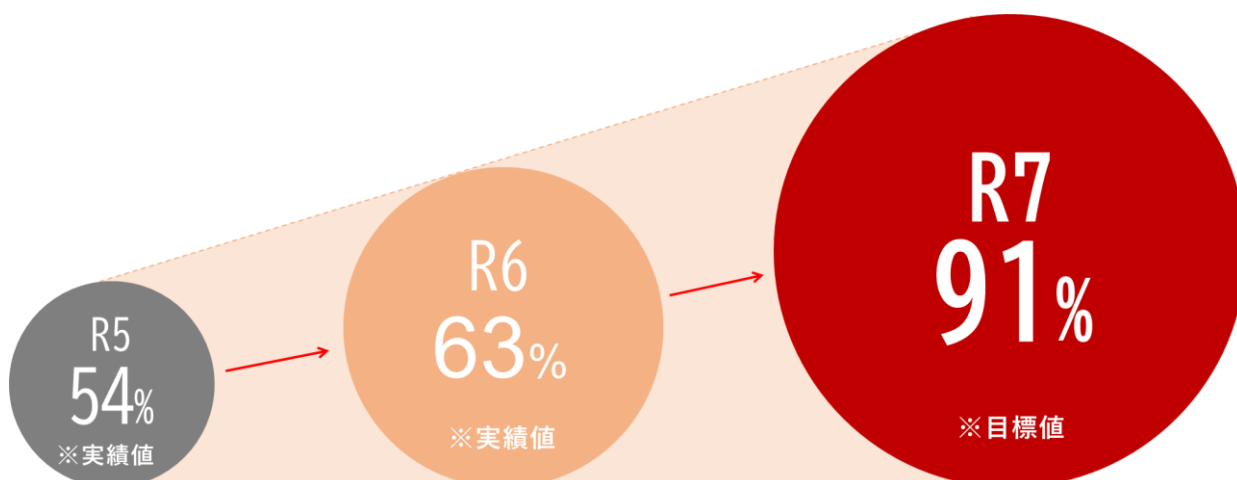
コンソーシアムの構築や産業実務家教員による指導の教育課程への位置付けなど、
産業界との連携・協働体制を組織的に構築できている専門高校の割合
(対象) 道立の専門高校 (56 校)



※令和7年度の実績値は令和8年5月に集計予定

【指標②】

産業界の有識者を招いた協議等の機会を設けて、地域の人的・物的資源を活用しながら
教育活動を行っている専門高校の割合
(対象) 道立の専門高校のうち、農業科・工業科・商業科・水産科 (54 校)



※令和7年度の実績値は令和8年5月に集計予定

6 「マイスター・ハイスクール事業」企画評価会議委員による講評

マイスター・ハイスクール事業及びマイスター・ハイスクール普及促進事業に取り組む教育委員会等の関係者を対象として、事業の成果等を発信する成果発表会が、令和8年1月30日（金）に東京都内で開催された。

**マイスター・ハイスクール事業及び
マイスター・ハイスクール普及促進事業
成果発表会 2026/1/30 10:00~14:20**

開催趣旨 産業界と専門高校(工業高校、農業高校、水産高校等)が一体となった次世代の産業人材育成の先進的取組の成果について、発信します。

開催の流れ

- 10:00~10:05 : 開会挨拶
- 10:05~10:45 : パネルディスカッション
- 10:45~11:05 : 調査研究事業報告
- 11:25~12:00 : 事業成果発表(前半)
- 12:05~13:05 : 休憩
- 13:05~14:20 : 事業成果発表(後半)

時間	A	B	C	D	E
11:25~12:00	熊本県 (農林・工業・商社)	山形県 (県内全校)	愛知県 (稲沢)	宮城県 (農林)	静岡県 (工業)
13:05~13:40	福井県 (工業・農林・商社)	長崎県 (県内全校)	三重県 (稲沢)	宮城県 (農林)	兵庫県 (工業)
13:45~14:20	新潟県 (水産・農林)	北海道 (農林・工業・水産)	-	学校法人一川学園 滝川学園高等学校 (工業・商社)	仙台市立 仙北工業高等学校 (工業)

※事業実施期間：2023年度～2024年度～2025年度～ ※(P)は拠点校の学科

【図 43-1】 成果発表会チラシ

令和7年度
マイスター・ハイスクール事業及び
マイスター・ハイスクール普及促進事業
成果発表会

北海道教育委員会
「北の専門高校
ONE-TEAMプロジェクト」

●年月日：令和8年1月30日（金）
●会場：ビジョンセンター田町

【図 43-2】 発表スライド（表紙）

それぞれの発表後には、「マイスター・ハイスクール事業」企画評価会議委員による講評の時間が設けられており、ここでは、北海道教育委員会の発表に対する講評のうち、主な内容について紹介する。

1 取組についての評価

- 北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクトにおいて企画した様々なイベントや事業を通して産学連携を図っている。
- 広大な北海道において各地の企業と専門高校のネットワークを構築するために、4つの拠点校への重点的支援や産業教員実務家リストの活用を図っている。特に「学校と産業界が一緒に人を育てていく」という意識の醸成に意を配していることから、今後のより密度の濃い産学連携の構築が期待される。
- 北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクトでは、趣旨として掲げられている「横と縦のつながり」を基盤に、明確なゴールイメージが設定され、それに対応した活動内容と評価指標（KPI）が適切に構築されていた。そのため、取組全体に一貫性があり、方向性がぶれることなく着実に進められていた点が高く評価できる。

- 専門高校と産業界をつなぐ在り方について、多面的・多角的な視点から工夫された連携のアイデアが随所に見られ、学校と産業界の双方にとって意義のある関係づくりが行われていた。特に、産学連携コーディネーターである月館氏の継続的な活動により、人的ネットワークが大きく広がったことは、本プロジェクトの重要な成果の一つであると考えられる。
- 北海道が抱える経済界の課題である半導体、洋上風力発電、六次産業化などに関連する職業への理解を深めるとともに、現場で指導に当たる教員が抱える課題にも目を向けて、様々な角度から問いを設定していた点が特徴的であった。
- オンラインと参集のイベントを効果的に組み合わせることで、多様な立場の関係者が参加しやすい環境が整えられており、取組の質を高める工夫がなされていた。加えて、学校の経営層にあたる管理職間の交流を促進するとともに、北海道産業教育審議会との方向性の共有を図ることで、取組を支える基盤が丁寧に整備されていた。こうした重層的な連携により、プロジェクト全体の安定性と実効性が高められており、今後の継承や発展にも大いに期待がもてる取組である。
- 専門高校ユナイテッドなど、道県を超えての取組も素晴らしい。

2 今後の課題と考えられること

- これまでに培ったマイスター・ハイスクール普及促進事業における経験、ノウハウを今後のネクストハイスクール構想に活かしていくためには、産学連携の更なる充実が求められる。具体的には、こうした事業によって生徒にどのような力が付いたのか、あるいはどのような力が伸びなかったのかを定量的に把握し、その対応策を産学連携のプラットフォームで協議、実践し、更にコーディネーターを活用した伴走支援による横展開を進めていく必要がある。その過程で普通科を含めた学科間、あるいは学校間の連携を更に強化していくことも重要になってくると思料される。
- 専門高校における取組は、農業、工業などを中心に、特色ある実践が数多く見られた一方で、今後は看護、福祉といった分野においても、取組の更なる充実が期待される。これらの分野は、地域社会の基盤を支える重要な役割を担っており、専門高校における学びの意義も大きいと考えられる。例えば、看護師や介護福祉士の人材確保は、北海道としても重要な課題の一つであることから、学びの内容を一層充実させるとともに、今後の医療・福祉分野の在り方を見据え、どのような資質・能力を備えた人材を育成していくことが求められるのかについて、有識者や関係機関と意見交換を行う機会を設けることも有効であると考えられる。
- こうした取組を通して、専門分野の学びを地域課題と結び付けながら深化させることで、生徒が将来の役割を具体的に思い描き、地域社会を支える担い手として成長していくことが期待される。
- 産業実務家教員ミーティングの実施や、学校と産業で一緒に育てている感を作るという意識改革の取組に今後期待。



【図 44-1】令和7年度成果概観図（1ページ目／全3ページ）

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

専門高校の横のつながり（学科の垣根を越えた連携） × 縦のつながり（産業界や中学校との連携）を結んだ12本の糸

1 ONE-TEAMニュース

【主な内容】

- ◆ プロジェクトの取組や専門高校における産学連携の好事例、各種イベント等の情報を掲載し、専門高校や産業界等に広く発信

【成果】

- 専門高校や産業界の情報を広く普及・啓発
- 産業界関係者からは、「専門高校の取組が知れるので発行が楽しみ」との声が多数



ONE-TEAMニュース（第8号）

3 教員等向け各種セミナー

【主な内容】

- ◆ 関係機関等と連携して各種セミナーを開催
 - ▶ 建設DX ▶ 半導体 ▶ 観光産業
 - ▶ 洋上風力発電 ▶ スマート農林水産業

【成果】

- 新たな産業への教員等の理解促進
- 参加対象を幅広く設定したことで、中高の教員、産業界関係者や中高生保護者など、多くの方が参加【参加者計：約160名】



エアシャワーを浴びる高校教員（半導体実践セミナー2025）

5 産学連携シンポジウム

【主な内容】

- ◆ 拠点校や産業界の関係者による事例発表、生徒も交えたパネルディスカッションやグループ協議を行うイベントを4圏域で開催

【成果】

- 4会場合わせて、専門高校の教員と生徒、産業界関係者の約200名が参加
- 教員と産業界関係者が、産学連携のノウハウや持続可能な産学連携の在り方を共有



産学連携コーディネーターのファシリテーションによる生徒の協議

2 生徒が新たな産業を学ぶ機会を創出

【主な内容】※道経済部と連携した取組

- ◆ 半導体
 - 大学教授や企業の技術者を講師とした出前講座を、高校2校で実施
- ◆ 洋上風力発電
 - 企業の技術者を講師としたオンライン併用による出前講座のほか、見学バスツアーを開催

【成果】

- 新たな産業について、生徒が実践的・体験的に学べる機会を創出



洋上風力発電施設見学バスツアー

4 専門高校の価値や魅力の発信

【主な内容】

- ◆ 専門高校の価値や魅力を掲載した「専門高校魅力発見ガイド」を制作して全道の中学校に送付
- ◆ 中学生やその保護者、中学校教員等を対象に、専門高校の在校生と卒業生がトークセッションを行うイベント「専門高校魅力発見ミーティング」を開催してアーカイブで配信（公開中）

【成果】

- 中学生やその保護者の専門高校への理解を促進



専門高校魅力発見ミニイベント（アーカイブ配信チラシ）

6 高校生チャレンジ in どさんこプラザ

【主な内容】

- ◆ 農業・商業・水産科の生徒が、学科の垣根を越えて連携し、企業と協働で開発した商品をJR札幌駅構内にある北海道のアテナショップ「どさんこプラザ札幌店」で販売

【参加校数：7校、出品商品数：9品】

【成果】

- 6次産業化を体験的に学ぶ機会を創出
- 専門高校の価値や魅力を発信



店舗前で商品を販売する生徒

【図 44-2】 令和7年度成果概要図（2ページ目／全3ページ）

北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト

7 ONE-TEAMフォーラム

【主な内容】

- ◆拠点校を会場として、教員や産業界関係者が外部講師による出前授業を見学した上で、意見交換を実施【参加者数：4会場計約150名】

【成果】

- 参加者アンケートでは「出前授業を見学したことで、産学連携を身近に感じることができた」とや、「具体的な連携のイメージを描くことができた」などの回答が多数



出前授業の見学（道北会場）

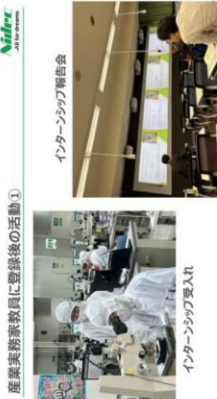
9 産業実務家教員リスト2.0/産業実務家教員ミーティング

【主な内容】

- ◆R7に作成した産業実務家教員リストをアップデート【R8登録数：51事業所等】
- ◆リストの登録企業や、今後の登録に関心のある企業を対象としたミーティングを開催し、事例発表や意見交換を実施

【成果】

- 産業実務家教員同士の横のつながりを強化
- 産業界におけるリストの認知度向上



産業実務家教員に登録後の活動①



インターンシップ実入れ

産業実務家教員による発表資料

11 おしごとガイドブック～2025年度版～

【主な内容】

- ◆中高生が新たな産業や働き方に関する理解を深めて職業を選択することや、中学生が専門高校の魅力や学習内容等を踏まえて進路を選択することをねらいとして、ガイドブックを制作し、中高1、2年生に配付

【成果】

- 中高生やその保護者、教員の新たな産業や専門高校への理解を促進



おしごとガイドブック～2025年度版～

8 S7サミット（専門高校代表者会議）

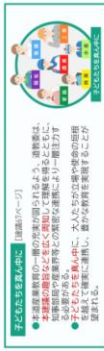
【主な内容】

- ◆専門高校や中学校の代表校長、経済団体関係者等が、第29期北海道産業教育審議会建議（R7.11）の内容を共有した上で意見交換を実施

【成果】

- 高校と産業界の関係者が、産業教育の課題や今後の在り方を共有し、「一緒に人を育てている」といった意識を醸成する必要性を理解

今後の実現に向けて～子どもたちを真ん中に～



子どもたちを真ん中に～
「一人ひとりを育ていく」という意識
「一緒に人を育ていく」という意識
「一緒に人を育ていく」という意識



建設（概要版）

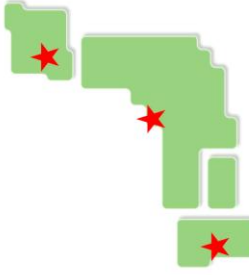
10 専門高校コナイツット

【主な内容】

- ◆北海道、福井県、熊本県の専門高校の生徒や教員が、産学連携における先進事例の共有やグループ協議を行うオンラインイベントを開催

【成果】

- 3道県の参加者数：生徒14名、教員13名
- 道や県の垣根を越えて、地域産業の魅力や産学連携における先進的な取組を共有
- 令和8年度は参加地域を拡大して開催の予定



道や県の垣根を越えた連携

12 北の専門高校ONE-TEAMフェスタ（成果発表会）

【主な内容】

- ◆専門高校の生徒や教員、産業界関係者、中高生の保護者等が参加し、産学が連携した学びによる成果発表や交流会を行い、YouTubeで全国に配信

【成果】

- 参加者数：254名
- ※参集168名（うち生徒34名）、オンライン86名
- 生徒・教員と産業界関係者の交流が実現
- 専門高校がもつ価値や魅力を広く発信



交流会の様子

本事業における【成果○】と【課題△】

- 産学交流の機会を創出し、相互のニーズを把握
- 連携可能な企業情報や専門高校の価値・魅力を発信
- △連携の持続化と効果を実感できる一層の工夫

対応

- ◆産業実務家教員リストのアップデートと活用促進
- ◆学校と産業界が「一緒に人を育てていく」という意識を醸成している事例を広く普及・啓発

将来

今後の目指す姿

- 地域を支える最先端の職業人材の持続的な育成
- 地域創生の実現

【図 44-3】令和7年度成果概要図（3ページ目／全3ページ）

8 次年度以降の方向性

次年度以降、北海道教育委員会では、本プロジェクトで得たノウハウや、人と人とのつながりを生かし、次に示したとおり、サステナブルな産学連携を推進するとともに、専門高校の価値や魅力を発信していくこととしている。

1 「産業実務家教員リスト」の活用を一層促進

今後も、本プロジェクトで作成した産業実務家教員リストの更新を継続するとともに、専門高校におけるリストの活用を一層促進することとしている。

産業実務家教員リストには、出前授業や現場見学等を通じて、半導体などの先端技術について学べる企業を数多く掲載している。さらに、近隣の専門高校だけでなく、全道の専門高校を連携の対象としている企業も複数掲載している。(図 45 を参照)

今後も、こうした企業の情報や効果的な連携事例について、専門高校はもとより、広く産業界にも発信していくこととしている。

1 ニデック SV プローブ電子株式会社(上富良野町)との連携

ニデック SV プローブ電子(株)は、出前授業や工場見学、インターンシップの受入れなどの連携が可能であり、道内全ての専門高校を対象としています。新たな産業について学ぶ機会として、是非活用してください。

・苫小牧工業高校情報技術科

工業高校の価値や魅力、半導体が社会に与える影響等について広く小・中学生や地域住民に発信することを目的に、企業や自治体と連携したイベント「苫工半導体展」を毎年開催しています。

・名寄高校情報技術科

最新設備を有する実習棟「キタミライ」(令和6年度新設)を活用しながら、半導体に関する基礎について学んでいます。さらに、こうした先端技術に関する学びを一層充実させるために工場見学を行うことで、生徒の進路意識の高揚や学習意欲の向上につながるなど、大きな成果が見られています。



<「苫工半導体展」の様子(苫小牧工業高校)>



<工場見学の様子(名寄高校)>

【図 45】産業実務家教員リストの活用事例 (ONE-TEAM ニュース第6号に掲載)

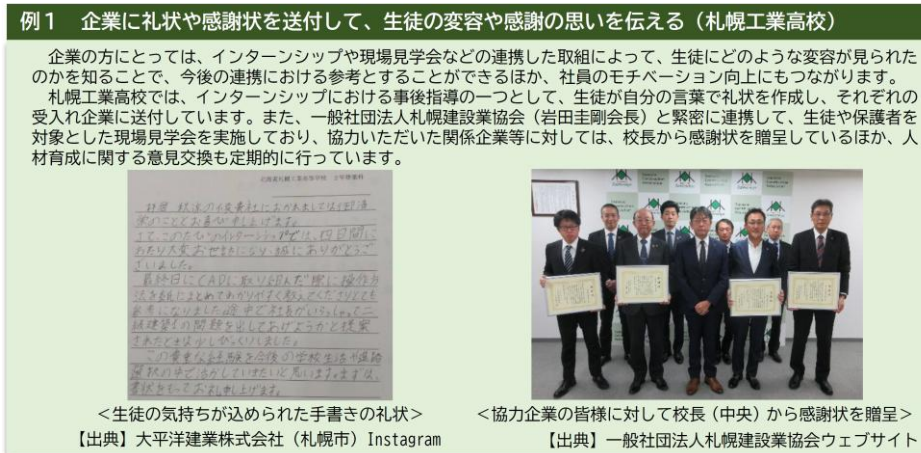
さらに、産業実務家教員の継続的な周知と確保に努めるとともに、サステナブルな産学連携の支援を行うこととしている。

例えば、令和7年度に初開催した産業実務家教員ミーティング(オンライン)を継続して開催し、企業側と学校側、それぞれから見た連携による成果の発表に加え、生徒や経済団体関係者による発表などを行うことで、本プロジェクトで構築した人と人とのつながりを途切れさせることなく、高校と産業界のサステナブルな連携を支援していくこととしている。

また、ONE-TEAM ニュースのように、高校教員と産業界関係者を対象にした通信の発行を継続するなどして、広く産学連携に資する情報発信を行うこととしている。

2 学校と産業界が「一緒に人を育てていく」という意識を醸成

企業にとっては、インターンシップや現場見学会などの連携した取組によって、生徒にどのような変容が見られたのかを知ることで、今後の連携における参考とすることができるほか、社員のモチベーション向上にもつながる。（図 46 を参照）



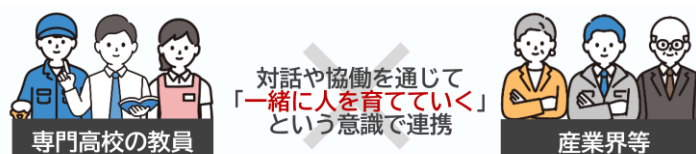
【図 46】生徒の変容や感謝の想いを企業に伝えている事例（ONE-TEAM ニュース第8号に掲載）

また、学校と産業界等が人材育成の理念を共有し、コンソーシアムのような体制を構築することは、連携した取組が継続しやすく、持続可能な産学連携につながる。（図 47 を参照）



【図 47】地域と学校が協働できる体制を構築している事例（ONE-TEAM ニュース第8号に掲載）

北海道教育委員会では、学校と産業界の「一緒に人を育てていく」という意識を醸成していくため、学校と産業界が対話や協働を通じて、こうした意識の下で連携しながら人材育成に取り組んでいる事例を収集し、ONE-TEAM ニュースのような通信や各種会議等を通じて、広く普及・啓発していくこととしている。



【図 48】産学連携において重要な視点（第29期北海道産業教育審議会建議から引用）

3 産業構造や働き方の変化に対応した取組

半導体や洋上風力発電に関する出前授業や見学会など、産業構造や働き方の変化に対応するために実施してきたこれまでの取組について、道の知事部局や関係機関との連携を継続し、オンラインも活用しつつ、可能な範囲で継続して開催する。

また、教員を対象として実施してきた半導体などの新たな産業を理解する研修についても、出前授業と同様、オンラインを活用しつつ、専門高校以外の教員も参加対象として、継続した開催を検討している。



【図 49】洋上風力発電施設の見学バスツアー



【図 50】半導体に関する工業科教員研修
(講師：北海道経済産業局職員)

4 専門高校がもつ魅力や可能性を発信

ONE-TEAM コミッティ（事業運営委員会）では、委員から「専門高校にこそ、広い将来の選択肢がある点などについて、中学生やその保護者に発信することが有効である」との助言をいただいた。

こうした点を踏まえて、令和7年度に作成して全道の中学校に配付した「専門高校魅力発見ガイド」を一層魅力的かつ効果的なものとするため、アップデートしていくこととしている。

令和8年度にアップデートする内容としては、工業科を卒業して農業分野で働く卒業生の姿など、自身の出身学科とは異なり、多様なキャリアで活躍している専門高校の卒業生を紹介することとしている。

併せて、令和7年度に初開催した「専門高校魅力発見ミーティング」を継続して開催することとしており、一人でも多くの中学生やその保護者、中学校教員に参加してもらえるよう、中学校長会等の協力を得ながら、効果的な周知に努めることとしている。



【図 51】「専門高校魅力発見ミーティング」農業科のトークセッション
(右上) 在校生、(下) 卒業生、(左上) 産学連携コーディネーター

9 参考資料
 (1) 新聞記事

北海道通信（日刊教育版）令和7年4月24日（木）

北の専門高校 ONE-TEAM
6年度成果報告書作成
道教委 イベント等紹介

道教委は、北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト6年度成果報告書をまとめた。事業に関わる各種イベントやセミナー、刊行物などを1冊に集約。静内農業高校を拠点校に取り組んできた1年間の成果を報告するとともに7年度の方

効果的な取組に他の専門高校に自走可能な形で展開する「横のつながり」を構築するもの。

事業初年度は、6年度は、静内農業高を拠点校に、各種ミーティングを通して、専門高校と産業界の持続可能な連携の在り方を発信。道教委高校教育課に配置している産学連携コーディネーターが各職業学科を担当する指導主事と協働し、専門高校と産業界の連携を支援してきた。

報告書では、産業界の関係者が一堂に会する「産学連携シンポジウム」「産学連携カンファレンス」などの関連イベント、半導体に関する出前授業や洋上風力発電に関する出前授業・見学バスツアーなど、生徒を対象にした新たな産業・技術革新に対応した取組などを報告。道内の職業学科7学科の教育活動の特色や小学科ごとの学習内容などを解説している「職業学科理

解推進ガイド」や、中高生向けに作成した「おしごとガイドブック」など、各種刊行物を紹介している。

7年度は、静内農業高が地方公共団体や産業界と連携・協働体制を整える中で得たノウハウを道内の4圏域の拠点校を中心に実践し、その成果を道内の専門高校に普及することで、全ての専門高校と産業界との連携を充実させていく。



ONE-TEAM拠点校が会合

6、7月にシンポジウム

道教委 産学連携の取組発表

道教委は4月28日、道庁学連携シンポジウムを6、7月にかけて拠点校のあるE-TEAMプロジェクト4圏域で開催する予定を確認したほか、各拠点校の代表者が産学連携した特徴的



な取組を発表。地元企業と連携した商品開発や企業実習、学科の垣根を越えた専門高校同士の実践などを共有した。

拠点校ミーティングは、事業を円滑に推進するため、本年度から四つの圏域に配置した拠点校（更別農業高校、室蘭工業高校、旭川商業高校、小樽水産高校）の代表者が一堂に会し、本年度の取組の概要等について理解を深めるとともに、専門高校と産業界等との連携を推進する上での

共通認識を図ることが目的。各拠点校の教頭や担当教諭ら8人が出席した。開会に当たり、高校教育課の石田曉課長補佐があいさつ。プログラムの趣旨や拠点校ミーティングのねらいなどに触れ「拠点校の代表者には、事業の内容についてあらためて確認いただき、4圏域それぞれの地域の実態に応じて、今後の産業界等との連携の推進に資する事業運営に生かしてほしい」と求めた。

引き続き、藤田朋軌キャリア教育指導係長が7年度の事業計画および拠点校の役割について、星澤克幸指導主事が本年度4圏域で開催する産学連携シンポジウムの基本構想についてそれぞれ説明した。

藤田係長は、拠点校ごとに参集で開く「ONE-TEAMフォーラム」や、七つの職業学科の関係者が一堂に会する「北の専門高校S7サミット」を開催するほか、北の専門高校ON E-TEAMフェスタで2年間の事業成果を共有することなどを確認した。

星澤指導主事は、産学連携シンポジウムを6月から7月にかけて4圏域で開催する予定を示し、会場設定や参加者の招集について今後調整するとした。

このあと、各拠点校が産学が連携した特徴的な取組について発表した。

小樽水産高は、各科の取組を報告し、新商品開発や企業との連携等について説明。(株)分北海道との連携による商品開発や、麵屋武蔵との出前授業の実施などを紹介した。

室蘭工業高は、前年度から取り組んでいるMICO N（エムコン）を紹介。室蘭工業大学による出前授業や室蘭建設業協会・登別建設協会・伊達市建設協会と連携した企業実習などの実践を伝えた。

旭川商業高は、地域における商業教育の重要性を強調し、多くの高卒就職者を輩出している実績を報告。また、チャレンジフィード北海道事業への参加や、農業高校との連携による商品開発などの取組についても紹介した。

更別農業高は、様々な企業や研究機関と連携した事業について報告した。畜産試験場との連携協定や農業機械メーカーとの協力関係について説明したほか、文部科学省のDXハイスクールを活用したドローン技術の導入や、他校と連携した取組などについて紹介した。

専門高校PRへ
啓発資料を作成

道教委

道教委は、リーフレット「北海道の専門高校が開催する学習成果発表会を紹介しませう」を発行した。北の専門高校ONETTEAMプロジェクトの一環。専門高校の概要や、本年度開催する専門高校の魅力を広く発信する学習成果発表会について紹介している。

プロジェクトは、産業界と専門高校のサステナブル（持続可能）な連携の充実に図るとともに、専門高校の価値や魅力を広く発信し、魅力ある北海道を創る人材育成を推進するもの。リーフレットでは、道内の専門高校7学科（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉）の学習内容を記載。このほか、農業高校収穫祭やロボット競技大会、高校商業教育フェアなどの各種学習成果発表会を紹介している。

道教委 産学連携シンポジウム

7月16日から4圏域で

教員、生徒、関係者が発表

道教委の「北の専門高校ONETTEAMプロジェクト」産学連携シンポジウムにおける各圏域の開催日程がまとまった。7月16日に開く道北圏域を皮切りに、道内4圏域で開催。教員、生徒、産業界の3者に

よる発表や、パネルディスカッション、協議などを行い、持続可能な産学連携の推進に向けて共通理解を図る。

ONETTEAMプロジェクトは、専門高校と企業や中学校等の連携を推進し、専門高校の価値や魅力を啓発する「縦のつながり」とともに、専門高校が学科の垣根を越えて連携し、効果的な取組を他の専門高校に自走可能な形で展開する「横のつながり」を構築するもの。

最終年度の本年度は、農業・工業・商業・水産の学科を設置する全道の専門高校から拠点校をそれぞれ1校設定。更別農業高校、室蘭工業高校、旭川商業高校、小樽水産高校の4校を選定した。

各圏域におけるシンポジウムの開催日および会場は以下のとおり。

- ▽道北圏域 7月16日（イオンモール旭川駅前）
- ▽道央圏域 7月23日（道第二水産ビル）
- ▽道東圏域 7月24日（帯広信用金庫中央支店）
- ▽道南圏域 7月25日（室ガス文化センター）

圏域ごとに開催する産学連携シンポジウムは、専門高校の教員、産業界関係者が産学連携の意義や方法等

専門高魅力発見ミーティング

各学科の特色など紹介

7月10日に開催 道教委

道教委は7月10日、オンラインで中学生保護者および中学校教員向けに「専門高魅力発見ミーティング」を開催する。「北の専門高校ONETTEAMプロジェクト」の一端。道教委の各担当者が農業



科、工業科など、専門学科7学科の特色や小学科の教育内容について解説するほか、道教委の産学連携コーディネーターと専門高校の在校生や卒業生によるトークセッションなどを実施する。

ミーティングは、前年度実施した「中学校教員向け職業学科理解促進セミナー」を改良し、より発展させたもの。対象を中学生の保護者にも拡大し、専門高校の価値や魅力をより一層発信する。

当日は、午後1時30分開始。①農業科②家庭科③商業科④看護科⑤福祉科⑥工業科⑦水産科の順で1コマ当たり20分程度の説明を予定している。

オンライン開催で、参加の出入りは自由。道教委高校教育課キャリア教育指導係の各担当者が各科の教育活動の特色や進路先、小学科の違いなどについて解説する。

また、新たに道教委産学連携コーディネーターの月館海斗氏と学科ごと在校生や卒業生によるトークセッションを展開する。

参加申し込みは、2次元バーコードから。締め切りは7月3日。

道教委など 建設DX理解促進へ

8月8日にセミナー

新たに高校生意見発表も



就職した道
内高校の卒
業生による
体験談発表
などを行う。

セミナーは、前年度から2カ年で取り組む北の専門高校ONE-TEAMプロジェクトの一環で実施するもの。進路指導を担当する教員や中高生の保護者らがDX化が進む建設業に関する理解を深めるとともに、建設業の価値や魅力を発見することをねらっている。

道教委は8月8日午後2時から、道建設部と共催で建設DX理解促進セミナーをオンライン開催する。本年度は、中学校教員、中高生の保護者、建設業関係者まで参加対象を拡大。新たに高校生による意見発表を実施するほか、建設企業に

当日は、(株)砂子組の真坂紀至常務執行役員企画営業部部长が「建設DXの現状と取組事例」をテーマに講演するほか、ハラダ工業(株)土木事業部の吉村篤建設DX推進委員長が建設業における働き方改革の現状と取

組事例について解説する。また、ハラダ工業工事支援部の佐藤ゆうかさん(留萌千望高卒)と西淵舜亮さん(留萌高卒)が「バック

オフィス業務等の魅力とやりがい」をテーマに体験談を語る。このほか、浜頓別高校の林田保輝教諭が「建設業を

テーマとした「総合的な探究の時間」と題して事例発表、札幌工業高校土木科3年の野村彩華さんが「土木科で学んだテクノロジー

で北海道の未来を創る」をテーマに意見発表を行う。申し込みは、2次元バーコードから。締め切りは7月25日。

道教委 職業学科の学習内容等紹介

専門高校魅力ガイド作成

在校生、卒業生インタビューも



道教委は、本道産業の担い手を育成する「北の専門高校ONETEAMプロジェクト」の一環で、「専門高校魅力発見ガイド」を作成した。中学生等に向けて、道内公立高校に設置している職業学科7科における学習内容や、取得できる主な資格、特徴的な部活動等

を紹介しているほか、在校生や卒業生によるインタビューを掲載。「専門的な知識を学ぶことができ、職業の選択肢が広がる」「産業界など多くの人とのお出合いがある」「多くの資格・検定を取得できる」など、各専門高校、職業学科の良さや魅力を伝えている。

同ガイドブックは、道教委高校教育課のホームページに掲載。月館海斗産学連携コーディネーターは、同ガイドブックをきっかけに、一人でも多くの中学生が専門高校について理解を深め、本道の未来の創り手になるよう期待している。

同ガイドブックは、中学生や保護者、中学校教員に、専門高校が持つ価値や魅力についての理解を一層深めてもらおうと作成した。道内の公立高校に設置されている農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉の七つの職業学科ごとに、学びのカテゴリーや各小学科の学習内容、取得できる主な資格、就職先・進学先、特徴的な部活動などを掲載している。

「夢に向かう在校生インタビュー」「輝く卒業生インタビュー」と銘打ち、在校生および卒業生へのインタビューを掲載。それぞれ学校・学科を選んだきっかけや、好きな実習、将来の目標、中学生に向けたメッセージなどを寄せている。

うち農業科の在校生は「実習や販売会、産業界の方々からの講義など、たくさんの方との出合いがある」「森林の仕組みや樹木のことについて詳しく学ぶことに加え、演習林で自然を間近に感じることができ」など、農業高校の魅力を紹介。工業科の卒業生は「専門的な知識を学ぶことがで

産業実務家教員を募集

道教委 ONE—TEAM



道教委
は、北の専
門高校ON
E—TEAM

Mプロジェクトの一環で、
専門高校との連携が可能な
各産業に従事する「産業実
務家教員」を募集してい
る。出前授業の実施や生徒・
教員に対する技術指導な
ど、実践的・体験的な学習機

会を提供できる人・事業所
を公募。持続的で専門高校
と産業界の双方がプラスに
なる関係の構築を目指す。

道教委は前年度、産業実
務家教員の登録者情報を集
めた産業実務家教員リスト
を作成。6年度末日で36事
業所が登録され、専門高校
は各校のニーズに合わせて
リストの産業実務家教員と
連携している。

本年度も各産業の職業
人・事業所のうち「高校と

連携した取組を行いたい
がどこに連絡するべきか分
からない」「高校生に自社
や業界の業務内容を知らせ

たい」「会社に高校生を招
き職場の意識改革を行いた
い」「業界の発展のため高
校生を積極的に指導した
い」人などを募集している。

登録した人・事業所は
「産業実務家教員リスト
2・0」に掲載され、全道
の道立専門高校に「高校と
連携を望む職業人」として
周知される。

登録は、2次元バーコー
ドから。募集締め切りは12
月19日。

道教委 産学連携シンポジウム（道北）

縦、横のつながり強化

旭商高、旭農高が実践発表

【旭】道教委は16日、イオンモール旭川駅前

「北の専門高校ONET EAMプロジェクト」産学連携シンポジウム（道北）を開催した。上川・留萌・宗谷管内の専門職業学校がある高校の教諭と生徒や道内企業・団体の関係者を合わせて41人が参加。旭川商業高校と旭川農業高校が前年度に実践した産学連携の取組を発表したほか、参加者同士で持続可能な産学連携について協議した。

ONE TEAMプロジェクトは、専門高校と企業や中学校等の連携を推進し、専門高校の価値や魅力を啓発する「縦のつながり」とともに、専門高校が

学科の垣根を越えて連携し、効果的な取組を他の専門高校に自走可能な形で展

開する「横のつながり」を構築するもの。

最終年度の本年度は、農業・工業・商業・水産の学科を設置する道内の専門高校から拠点校をそれぞれ1校設定。道北圏域からは旭川商業高が選ばれた。

同日は、旭川商業高と旭川農業高が前年度に実践した産学連携の取組発表のほか、持続可能な産学連携をテーマにしたパネルディスカッションや協議を行った。

旭川商業高の発表では、同校流通ビジネス科の三好帆希さん（3年）が「地域産業の発展に対する取組、地域の魅力の発信」と題して実践を発表した。



生徒の実践発表

「マーケティング」や「商品開発と流通」の科目で学習したことを実践するために「商品開発応用」という独自科目で市内の企業と連携して製品を販売した

り、生徒実習販売会を行ったりしていることを話した

「活動では、生徒が商品の仕入れ先の確保や値段交渉などを行っている。仕入れ先を市内・道内企業を中心にしたこと、地域の魅力の発信に寄与できた」と活動と成果を披露した。

旭川農業高の発表では、同校食品科学科の堀内美咲さん（3年）と高村萌果さん（3年）、沼田雅美教諭が旭川商業高の生徒と共同



他のグループの協議を聞いて、アイデアリサーチをする生徒たち

旭川農業高が開発した「あつたか旭川まんのご当地グルメ」に向けて、旭川商業高に販売までの市場調査等を協力してもらったことを紹介した上で「旭川産業創造プラザのコー

ディネットのもと、両校で協議し、姉妹都市を結ぶ韓国の家庭料理をベースにした2種類の味の「あつたか旭川まん」を開発・販売した。持続可能な消費と生産、パートナーの理解や社会の

で商品開発・販売に取り組む「Project A (Collaboration for Asahikawa)」の実践を発表。旭川市の観光・農業地域の課題解決をねらって

仕組んで学んでアイデアを商品化するのを学習した。など、前年度の活動と成果を発表した。

7年度からは、販路拡大と販売方法の改善を予定。「旭川商業高には、発信活動やマーケティングに基づいたパッケージデザインの提案をお願いする」とこれからの連携を強調した。

パネルディスカッションでは、企業・団体関係者と教員、生徒が持続可能な産学連携に向けての案を交流。「企業が抱える課題を生徒の発案で解決できるもの（にしたい）」「就職に有利な資格を取得できたり、経験が生かされたりするもの（にしたい）」「企業との連携がよい」「企業との連携が

で、生徒のコミュニケーション能力を育てることが大切」などの意見が上がった。

協議は、5つのグループに分かれて実施。「担当の先生が異動する産学連携の取組が終わってしまう恐れがあるため、連携協定を結ぶなどして、互いの協力関係や内容を文書化することが大事」などの意見が出た。

旭川商業高の近藤泰和さん（3年）は「企業の人々の考えに触れることができ、コミュニケーション能力が大切になることを学んだ。これからの活動や社会に出た時に役立たい」と感想を話した。

専門高校魅力発見ミーティング 社会で役立つ本物の学び

道教委 各学科の特色紹介

道教委は7月上旬、オンラインで中学生保護者・中学校教員向け「専門高校魅力発見ミーティング」を開催した。道教委の各担当者が先に作成した「専門高校魅力発見ガイド」を活用しながら専門学科7学科の特色や小学科の教育内容を解説したほか、道教委の月館海産学連携コーディネーターと専門高校の在校生、卒業生によるトークセッションを展開。在校生は専門高校に入学したきっかけや将来の夢などを語り、卒業生は専門高校での学びで得た知識や技術が社会で役立っていることなどを伝えた。

「北の専門高校ONE」音さんが「農業と福祉をかねておこなっている専別農業高校でいろいろを学びたい」との思いで同校に進学したことを伝え、将来、介護福祉士になる夢を語った。

旭川農業高校卒業生で能登農場（剣淵町）で働く登坂太さんは、少しでも早く農業に関する知識・技術を身に付けておきたい、自ら考えて農作業ができるようになれば両親も楽になることを専門高校を選んだ理由として挙げた。

道教委高校教育課キャリア教育指導係の各担当者が①農業科②家庭科③商業科④看護科⑤福祉科⑥工業科⑦水産科の順で、1コマ当たり8分程度で説明。各説明には、先に作成した「専門高校魅力発見ガイド」を活用した。

また、月館産学連携コーディネーターと在校生・卒業生によるトークセッションでは、専門高校を選んだ理由や、将来の夢、専門高校の強みなどについて意見を交わした。

農業科では、更別農業高校生活科学科2年の安田恋は「保育士になりたいので保

術者資格を取れる函館商業高に入ったと振り返り、地元IT企業に就職して社会に貢献したい」と将来の展望を語った。

札幌東商業高校情報処理科を卒業し、小樽商科大学商学部夜間主コースに通う横濱大和さんは、コロナ禍でオンライン授業が増え、パソコンに触れる機会が増えたことから情報系に興味を持ち、商業高校に進学した過去を振り返った。その上で、商業高校では多様な進路選択が可能であることを強調した。

看護科では、稚内高校衛生看護科3年の米木伶那さんが「医療に携わりたい」という形に地域に貢献したいというかのためにやりたいという幼い頃からの夢をかたるために看護科を選んだ」と語った。

美瑛聖華高校看護科を卒業し、現在、札幌東徳州会病院で働く武藤かりんさんは「誰よりも1年早く看護師になれるという魅力に引かれ、少しでも早く働きたい」という気持ちから看護科を選んだ」と回顧。看護科での学びについては「同じ目標に向かって仲間と共に5年間過ごすからこそ、互いを支えて協力し合っただけでなく、切磋琢磨し合うことができた」と述べ、チームでの学びの重要性を強調した。

福祉科では、置戸高校福祉科3年の舟根紗来さんが「父親がガイドヘルパーとして働く姿を見て福祉の仕事に興味を持ち、介護福祉士の資格取得を目指して入学した」と述べた。

置戸高福祉科を卒業し、西田山病院介護医療院で働く小樽未来創造高校機械電気システム科を卒業し、㈱北海電工で働く長谷川亜美さんは、コンピューターを使って設計や製図を行う技術やソフトウェア「CAD」など、学校の学びで得た技術が実務で役立っていることを伝えた。

水産科では、小樽水産高校海洋漁業科3年の更谷奏斗さんが、テレビで見た漁師の姿に憧れて入学し、航海士を目指して学んでいることを語り、50日間の長期乗船実習で台湾に行った経験を共有した。

函館水産高校機関工学科を卒業し、現在、同校に勤務する工藤聖矢教諭は、自身も水産高校出身で民間企業での経験を経て教員になった経緯を共有し、実践的な学びが実際の職場で大いに役立っていることを強調した。

月館産学連携コーディネーターは「学校で得た実践的な知識と企業でのリアルな経験が交差することで、生徒一人ひとりが卒業にも役立つ本物の学びになる」と今後の産学連携のさらなる発展に期待している。

日頃の学びが実社会に

更別農高、厚岸翔洋高が発表〈道東〉



【帯広発】道教委は7月24日、帯広市内の帯広信用金庫中央支店でマイスター・ハイスクール普及促進事業「北の専門高校ON E-TEAMプロジェクト」産学連携シンポジウム（道東）を開催した。写真Ⅱ。拠点校である更別農業高校（室伏校長）や指定校としてマイスター・ハイスクール事業に3ヵ年取り組んだ厚岸翔洋高校（山本十三校長）が産学連携の事例を発表。道東圏域における産学連携の意義や方法等

について理解を深めた。北の専門高校ON E-TEAMプロジェクトは、マイスター・ハイスクールの普及促進事業。産学構造や仕事内容の絶え間ない変化に即応した職業人材が急務になっていることから、マイスター・ハイスクール事業において静内高校、厚岸翔洋高が構築した職業人材育成システムを広く横展開し、産業界と職業学科を設置する高校（専門高校）が持続可能な連携の充実を図るとともに、専門高校の価値や魅力を広く発信し人材育成を推進するもの。

地域に根差した活動を横展開を広く行い、道東では小樽水産高校、道南では室蘭工業高校、道北では旭川商業高校、道東では更別農業高が拠点校として圏域ごとに活動している。

更別農業高2年の安田彦音さんは「学科間連携による学びから私たちが得たこと」と題し実践発表。持続可能な農業経営学習においてホクレンなどの企業と連携したスマート農業の取組として「ひまわり迷路」を作成したほか、地元企業と連携したレトルトカレー製造などの活動を紹介した。また、農業用ドローンの学習を進めている同校は、同じくドローンを学ぶ旭川工業高校と講義を受講したり、合同イベントを実施したりするなど連携を深めており、農業×工業の連携によって課題解決の可能性を広げている。

安田さんは「各分野のプロジェクトと連携学習を行うことで専門力を飛躍的に向上させるとともに、物事を多面的に学ぶ重要性を認識し、学習内容の広がりと深まりを実感し学習意欲が向上した。また、外部と連携することで日頃

の学びが実社会につながっている実感した」と話した。

引き続き、厚岸翔洋高の飯田直登教諭が「マイスター・ハイスクール事業における地域連携と今後の本校の在り方」をテーマに発表した。

同校は4～6年度においてマイスター・ハイスクール事業の指定校として、スマート水産業などの実践研究に取り組み、スマートアイによる海洋観測を行い「海の見える化」、ドローンを活用したホタテの資源マップ作成、未利用魚でてんかまを製造し、今夏には缶詰の販売を予定するなど成果を上げている。

飯田教諭は「事業が開始した直後、地元漁師との連携に頭を悩ましていたが、企業と連携し分析した海洋データを共有することで地元漁師との連携が強化され、相互に学び合う体制が構築されたことから事業の充実につながった」と振り返った。

事業が終了した現在は、コミュニティ・スクールを導入したり、学校設定科目を開設したりするなど、教

育活動を維持するための活動を進めており、そうした活動事例を紹介した。

このほか、帯広信用金庫地域サポーター部の清水豊考査役が「産業界から見た産学連携の意義」持続可能な連携に向けて」と題し、プロジェクトを通して感じたことを伝えた。

清水考査役は、事業者から見て産学連携はアイデアの受発信から世代間交流に発展したり、地元理解の深化につながったりするなど「双方にメリットがあるもの」とした上で、特定の事業者・経営者への偏りが現状として見られることから支援人材の拡大、半年スパンが多く断片的になる可能性から継続性の確保といった課題を提起した。

また「産学連携を持続可能なものにしていくため、民間コーディネーターの派遣や支援、出前授業の広域化などの必要性がある」と説いた。

このあと「産学連携のために取り組んでいること」「産学連携を持続可能にするためのアイデア」を議題にパネルディスカッションを展開した。

道教委 2圏域で産学連携シンポジウム

長期的な視点で関係を

企業の最新知識を学校に伝達



道教委は7月23日、札幌市内の第二水産ビルで「北海道の専門高校ONLINE Tea mプロジェクト」産学連携シンポジウム（道志）を開催した。写真1。持続可能な産学連携の推進に向け、教員・生徒・産業界の三者による発表やパネルディスカッション、協議を展開した。道志圏においては、長期的な視点で企業と関係性を構築する大切さや、企業の最新知識を学校にも取り入れる必要性などを訴える声が上がった。

道教委は7月23日、札幌市内の第二水産ビルで「北海道の専門高校ONLINE Tea mプロジェクト」産学連携シンポジウム（道志）を開催した。写真1。持続可能な産学連携の推進に向け、教員・生徒・産業界の三者による発表やパネルディスカッション、協議を展開した。道志圏においては、長期的な視点で企業と関係性を構築する大切さや、企業の最新知識を学校にも取り入れる必要性などを訴える声が上がった。

道教委は7月23日、札幌市内の第二水産ビルで「北海道の専門高校ONLINE Tea mプロジェクト」産学連携シンポジウム（道志）を開催した。写真1。持続可能な産学連携の推進に向け、教員・生徒・産業界の三者による発表やパネルディスカッション、協議を展開した。道志圏においては、長期的な視点で企業と関係性を構築する大切さや、企業の最新知識を学校にも取り入れる必要性などを訴える声が上がった。

文科科学省の「マイスタール・ハイスクール普及促進事業」の採択を受け、2カ年計画で進める同プロジェクトは、専門高校と企業や中学校等の連携を推進し、専門高校の価値や魅力を啓発する「解のつながり」と、専門高校が学部の垣根を越えて連携し、効果的な取組を他の専門高校に自主可能な形で展開する「横のつながり」を構築することを目指している。

最終年度の本年度は、専門高校が分散している広域

道志圏においては、企業関係者が産学連携の意義や方法等について理解を深めることがねらい。道志圏域には、空知・石狩・後志管内の専門高校の教員や道内企業・経済団体等の関係者、専門高校で学ぶ代表生徒たち55人が参加した。

開会に当たり、高校教育課の高田安和課長があいさつ。「本道において、次世代半導体製造拠点の立地をはじめとした産業構造や、仕事内容の絶え間ない変化に即応した職業人材の育成が急務になっている」として、シンポジウムで得た成果を各企業・学校に持ち帰り、高校と産業界とのさらなる連携の推進に生かすよう求めた。

同課キャリア教育指導係の北畑智隆主任指導主事がプロジェクトの概要を説明したあと、小樽水産高校教員らと、専門高校が学部の垣根を越えて連携し、効果的な取組を他の専門高校に自主可能な形で展開する「横のつながり」を構築することを目指している。

最終年度の本年度は、専門高校が分散している広域

工業科3年の岩村厚希さんが「工業高校との連携によるアグリテックの実践」をテーマにそれぞれ発表し、古賀教諭は、積丹町においてワカスやコンブを用いた藻場再生に向けた公平栽培実習場での取組を紹介。ワカスの採苗、ナマコの採卵、ダイヒシク実習のほか、近隣の小・中学校と合同での体験実習などを行っていることを伝えた。

岩村厚希さんは、同社が取り組む資源調査や潜水作業、藻場再生などを紹介し、産業界の課題解決に寄り添うことの大切さを述べた。

古賀教諭は、積丹町においてワカスやコンブを用いた藻場再生に向けた公平栽培実習場での取組を紹介。ワカスの採苗、ナマコ

仁平さんは、空知建設協会の協力を得て、ハウス周年栽培による農業生産・所得向上の実証研究などを紹介。岩村さんは、札幌工業高校と連携しながらICTやロボット技術を用いた新しい農業「アグリテック」導入促進の取組を伝えた。

続くパネルディスカッションでは、発表者の古賀教諭、小笠原さん、仁平さんに加え、小樽水産高校栽培課3年の小林一華さん、相負担を軽減しながら、互いにメリットのある関係を構築することが重要な

岩見沢農薬高農薬土木工学科の三品

歩教諭、滝川工業高校電子工学科3年の大橋悠希さん、機軸子組企画営業部長の8人がパネリストを務め、道教委の月間海斗産学連携コーディネーター司会のもと、「サステナブルな産学連携に向けてできること」それぞれの立場から、テーマに熱い議論を交わした。

このあと全体で「産学連携のために取り組んでいること」「産学連携を持続可能にするためのアイデア」をテーマに協議。参加者は、高校と産業界とのさらなる連携の推進に向けて活発に意見を交わした。

中高教諭等向け建設DXセミナー

業界の魅力をPR

講演や事例・意見発表

道 教 委
道 建 設 部

道教委と道建設部は8日、オンラインで建設DX理解促進セミナーを開催した。㈱砂子組（奈井江）の真坂紀至常務執行役員やハ

ラダ工業㈱（留萌）の吉村篤執行役員工務部長が講演したほか、浜頓別高校の林田保輝教諭による事例発

表、札幌工業高校土木科3年の野村彩華さんによる意見発表を実施。それぞれの立場で建設業への理解促進を図る取組を紹介し、高

校・中学校の教諭や保護者らに対して、業界の魅力を強みにPRした。

北の専門高校プロジェクトの一環として前年度から実施している同セミナーは、進路指導を担当する教

員や中高生の保護者等がDX化が進む建設業に関する理解を深めるとともに、建設業の価値や魅力を発見す

ることがねらい。本年度は、中学校教員、中高生の保護者、建設業者関係者ま

で参加対象を拡大した。講演では、砂子組の真坂

常務が建設業界におけるデジタル技術の進化の変遷を説明。平成28年にi-Construction、令和6年にi-Construction2・Oがスタートし、3次元データの活用などによって「建設業はわかりにくいから、わかりやすい」に変化している」と現状を紹介した。

現在では3Dプリンターの活用も進んでいるとし「今後は本格的な導入が図られていく」と展望。自らの経験から「建設業はいろいろな職種が存在する産業はない」とし、デジタル技術の発展に伴い、現場に従事する技術者以外にも活

躍の幅が広がっている状況を示した。

ハラダ工業の建設DX推進委員長を務める吉村執行役員工務部長が「建設業に

おける働き方改革の現状と取組事例」をテーマに講話。工事現場における週休2日の取得状況や生産性向上の取組などに触れ「世間が抱く業界のイメージとはかけ離れてきている」と強調した。技術者の高齢化が進行し「業界は若い力を求めている」と説明。建設業は地域にとって不可欠な基

幹産業とし「建設業の魅力をぜひ伝えていただきたい」と要請した。

事例発表では、林田教諭が建設業をテーマとした総合的な探究の時間における取組を発表。地域研修や現場見学、体験活動を通じて生徒が建設業への理解を深めている様子を伝えた。

意見発表では、野村さんが「土木科で学んだテクノロジーで北海道の未来を創る」をテーマに、土木科での学びを紹介。現在取り組んでいる「もっちー広場活用プロジェクト」について、トータルステーションでの測量やデータ化、地域住民へのアンケート実施など具体的な活動内容を説明した。

道教委 産学連携シンポジウム（道南） 持続可能な在り方探る

室工高や大野農高が実践発表



【室蘭発】道教委は7月下旬、室蘭市内の室方ス文化センターで「北の専門学校ONE TEA Mプロジェクト」産学連携シンポジウム（道南）を開催した。写真＝川原・日高・渡島管内の専門職業学科がある高校

の教諭と生徒や道内企業・団体関係者を合わせて約50人が参加。室蘭工業高校と大野農業高校、室蘭市建設業協会がそれぞれ前年度に実施した産学連携の取組を発表した。また、協議では参加者同士で産学連携のための取組や産学連携を「持続可能にするためのアイデア」について意見を交わした。

同日は、室蘭工業高の鈴木圭吾教諭が「持続可能な産学連携モデル（M-CO-2）の構築と実践」、大野農業高農業科学科2年の野田和吏さんが「企業や水産高校との連携した学びで得たもの」、室蘭市建協の橋詰昌明会長が「地域のインフラを守り続けるため」と題してそれぞれ発表。

鈴木教諭はM-CO-2について、室蘭工業高を中心に上級学校・保護者・地域・自治体・企業・関係団体と共同事業体を結成し、PRによって各方面からの支援・援助の輪を広げていくものと説明。「生徒のキャリア教育の支援共有やデジタル人材の育成を目的にひとづくり、まちづくりに関連した連携事業の展開を目的としている」と話した。

また、本年度に実施した企業実習を紹介し、生徒からの満足度が高いことや建設業への興味・関心が向上していることを示した。産学連携の課題として「金銭面」「実施内容」「持続的な活用確保に直接つながるものではない」という共通理解

を持つ必要がある。引き続き、イメージの向上を目指すとしたスマートフォンから「実践を」と呼びかけた。野田さんは、学校間・学科間の横の連携を目指す姿をテーマに農業科学科畑作班が過去に取り組んだ函館水産高校などと連携したプロジェクト学習についての実践報告を行った。プロジェクトでは、同じ1次産業を支える高校生が協力し、化学肥料減肥と貝殻廃棄問題の両方の課題解決に挑戦。貝殻を使うことで1000平方メートルの生産

費を1万1612円削減できることが分かった。野田さんは「専門学校が連携し、情報を発信していくことで企業や行政からも注目され、地域産業をさらに発展させていくことにつながる。農業における見方や考え方をより深く意識するようになった」と話した。

パネルディスカッションでは「サステナブルな産学連携に向けてできること」それぞれ立場から「をテーマに7人のパネリストが発表。発表者は、室蘭工業高の鈴木教諭と電子機械科3年の渡辺陸斗さん、室蘭市建協の橋詰会長、大野農業高の古川茂樹教諭と野田さん、函館水産高水産食品科3年の柳屋唯莉さん、国分北海道（佛道）支社函館支店の山口彩夏氏が務め、道教委の月館海斗産業連携コーディネーターの司会のもと討論を交わした。

ONE-TEAMの一環でセミナー

洋上風力発電理解促す

松前高・村上教諭実践発表

道 教 委

道教委は3日、オンラインで北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト洋上風力発電理解促進セミナーを開催した。北海道大学の北方生物圏フィールド科学センター長・宮下和士教授による講演や、松前高校の村上謙吾教諭による実践発表、DENZAI㈱の吉田昌弘取締役専務執行役員による洋上風力発電の業務内容と地元採用の説明などを実施。各講師から、洋上風力発電は、地域経済の循環率の向上や、質の高い雇用創出につながる可能性があることなどが示された。

セミナーは、高校教員等が洋上風力発電に関する理解を深め、本道産業構造の

変化に対応した指導の充実を図るとともに、高校と産業界が一体となった洋上風力発電人材に係る育成の取組を推進するもの。公立高校等の進路指導や教科指導、総合的な探究の時間を担当する教諭、各教育局のキャリアプランニングスーパーバイザーら43人が参加した。

はじめに、宮下教授が「洋上風力発電と地域創生」と題して講演し、洋上風力発電の概要やメリット・デメリット、地域創生との関連性などについて解説した。世界の再生可能エネルギーの動向について説明し、エネルギーの安定供給と持続可能性に向けた行動

方針が重要視されていることを指摘。カーボンニュートラル達成に向けて、温室効果ガスの排出量よりも吸収量を多くすることで、地球環境の回復に積極的に貢献しようとする概念「クライメート・ポジティブ」の重要性に触れ「気候変動に対して人間や環境にポジティブに働きかけることが求められている」と説いた。

また、洋上風力発電のメリットとデメリットを整理。メリットとして大規模導入が可能であること、国産エネルギーとしてエネルギー安全保障に貢献できること、生活エリアから離れたところなどを挙げた一方、デメリットとして自然

景観への影響や海洋生物への影響などを挙げた。地域創生と洋上風力発電の関係性については「洋上風力発電は地域の極めて有望な資源であり、それを地域が最大限に活用できる仕組みを構築することが成功の鍵になる」と強調。その上で「地域住民自らが中心になって、関係者と共に地域経済循環率の向上や雇用の質・生活の質の向上を目指すことが重要」と締めくくった。

引き続き、松前高で進路指導主事を務める村上教諭が「探究活動を通じた洋上風力発電の理解の促進と進路指導」をテーマに実践例を発表した。村上教諭は、松前高の地域の教育資源を活用しながら地域で育てる学習「松前学」を紹介。人文科学ゼミ、社会科学ゼミ、自然科学ゼミ、保健福祉ゼミの四つのゼミに分かれて全学年合同で実施しており、それぞれ生徒が設定した地域課題をどのように解決していくかについて探究学習を進めていることを報告した。

また「松前町の再生可能エネルギーの活用法」をテーマに探究した生徒の取組事例を紹介した。

このあと、吉田取締役専務執行役員が洋上風力発電

に関わる業務内容と地元での採用について解説。洋上風力発電事業における様々な業務内容を紹介し、地元での雇用創出の可能性を示した。

道教委 ONE-TEAMコミッティ 実現したいこと明確に 江別高 授業見学や総括へ協議



高校の産学連携の充実に向け、専門的見地から指導助言を行う。

この日の第2回会合には、委員7人が出席した。

道教委は8日、江別高校（箕浦真人校長）で本年度第2回ONE-TEAMコミッティを開催した。写真。事業の進捗状況の確認や向校事務情報と生活デザイン科の授業見学のほか、事業の総括に向けた取組について協議。委員からは、今後の各取組に対する具体的な提案や、事業終了後も連携を継続するための工夫などについて様々な意見が出された。

ONE-TEAMコミッティは、産学連携に係る課題解決に向けた協議、教員・企業向け研修の企画や事業の評価・改善を行う事業運営委員会。北の専門高校ONE-TEAMプロジェクトを円滑に推進するため、事業の今後の取組や各専門

や、全道4カ所で実施した産学連携シンポジウム、半導体実践セミナー、建設DX理解促進セミナーなどの実施を報告。また、産実務家教員の募集を7月から開始し、12月19日が締め切りであることを紹介した。

藤田係長は、事業の総括に向けた取組として、ONE-TEAMフォーラムや専門高校ユニテッド、産実務家教員ミーティングなど今後の取組の基本構想を提示した。

ONE-TEAMフォーラムは、道内4カ所で開催する予定で、地域の魅力やニーズを捉えた意見交換を行う予定を示した。

専門高校ユニテッドとして、道や県の垣根を越えて地域産業の魅力や産学連携の先進的取組を理解するオンラインイベントを12月に予定していることを報告。産実務家教員が産学連携の事例や経験を共有し、横の連携を築くことを目的とした「産実務家教

員ミーティング」を来年1月、専門高校の校長と道産業教育審議会委員が今後の本道の産業教育の在り方について理解を深める「S7（エスセブン）サミット」を12月ごろに実施する予定であることを伝えた。

同プロジェクトの2年間の事業成果を共有し、次年度以降の産業界との持続可能な連携につなげるイベント「北の専門高校ONE-TEAMフェスタ」は2月に実施する予定。全道の中

学1年生と高校1年生に配布する「おしごとガイドブック」の作成状況を報告し、専門高校を卒業した若手技術者の紹介や連携事例などを掲載する予定であることなども伝えた。

引き続き、事務情報科1年の「簿記」と生活デザイン科3年の「ファッション造形」「染織制作」の授業を見学した。

このあと、事業の総括に向けた今後の各種取組について協議。委員からは「産実務家教員ミーティング」では、産業界に実践例を紹介し、様々なつながりがあることを広げてほしい」「S7サミットでは、高校側のニーズなどをどのように発信すると良いのかを検討できると良い」「ONE-TEAMフェスタでは、産学連携は手段であり目的にならないよう、産学連携で向を実現したいのかを学校や産業界に明確に示していく必要があるなど、様々な意見が寄せられた。

第3回ONE-TEAMコミッティは、来年2月に開催する予定。

北堀主任指導主事は、本年度の進捗状況として専門高校魅力発見ミーティング

について説明した。

続いて、キャリア教育指導係の北堀智隆主任指導主事が本年度の進捗状況について、藤田明軌キャリア教育指導係長が今後の取組について説明した。

道教委 ONE-TEAMフォーラム

産学連携へ好事例共有

小樽水産高が実践発表（道央）

【小樽発】道教委は10月28日、小樽水産高校（亀山喜明校長）で北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト「ONE-TEAM」の「道央」を開催した。道央の教職員をはじめ、道内企業や教育関係者ら約40人が参加。小樽水産高が取り組んでいる地域産学連携に関する事例や、企業連携について情報共有し、産学連携への理解を深めた。



道央拠点の小樽水産高で開かれたONE-TEAM「道央」には、空知・石狩・後志管内の教職員20人のほか、道内企業や産学連携に関する事例を共有し、産学連携への理解を深めた。

道央拠点の小樽水産高で開かれたONE-TEAM「道央」には、空知・石狩・後志管内の教職員20人のほか、道内企業や産学連携に関する事例を共有し、産学連携への理解を深めた。

産学連携の事例共有。道央拠点の小樽水産高で開かれたONE-TEAM「道央」には、空知・石狩・後志管内の教職員20人のほか、道内企業や産学連携に関する事例を共有し、産学連携への理解を深めた。

持続可能な連携探る

更別農高でドローン出前授業（道東）



取組の成果を紹介したほか、例として、ドローンによる出前授業等を実施し、産学連携の意義や方法等について理解を深めた。

この日、産業界等と地域産業における人材育成の核となる専門高校が、地域の魅力やニーズを捉えて意見交換等を実施し、産学連携の意義や方法等について理解を深めることを目的に、ONE-TEAM「道東」を開催した。

【帯広発】道教委は10月31日、更別農業高校（室伏論校長）で北の専門高校ONE-TEAMフォーラム「道東」を開催した。産学連携の事例共有や、産学連携の意義や方法等について理解を深めた。

この日、産業界等と地域産業における人材育成の核となる専門高校が、地域の魅力やニーズを捉えて意見交換等を実施し、産学連携の意義や方法等について理解を深めることを目的に、ONE-TEAM「道東」を開催した。

産学連携の事例共有。道東拠点の更別農高で開かれたONE-TEAM「道東」には、空知・石狩・後志管内の教職員20人のほか、道内企業や産学連携に関する事例を共有し、産学連携への理解を深めた。

この日、産業界等と地域産業における人材育成の核となる専門高校が、地域の魅力やニーズを捉えて意見交換等を実施し、産学連携の意義や方法等について理解を深めることを目的に、ONE-TEAM「道東」を開催した。

地域人材育成策を討論

室工高で再エネ等出前授業〈道南〉

【室蘭発】道教委は10月中旬、室蘭工業高校鈴木康礼校長と北の専門高校ONE TEAMプロジェクト（道南）を開催した「写真」。胆振・日高・渡島管内の専門職業学校がある高校の教諭と道内企業・団体関係者、産業界に関心のある教育関係者を合わせて35人が参加。協議では、働き手不足解消に

向けて学校や企業がどのように向き合っていくべきか等について活発に意見を交わした。

ONE TEAMプロジェクトは、専門学校と企業や中学校等の連携を推進し、専門高校の価値や魅力を磨き出す「縦のつながり」と、専門高校が学級の垣根を越えて連携し、効果的な取組をほかに専門高校に自走可能な形で展開する「横のつながり」を構築するもの。産業界等と、地域産業における人材育成の核になる専門高校が、地域の魅力やニスを捉えて意見交換等を実施し、産学連携の意見等について理解を深める。

最終年度の本年度は、専門高校が分散している広域な北海道において、4圏域に拠点校を配置。道南圏域からは室蘭工業高が選ばれた。各拠点校における産学連携の優れた成果を道内の専門高校に普及させることで、産業界と高校の連携のより一層の充実を図っている。



当日は、関西電力㈱再生可能エネルギー部門北海道事務所の村上純亮副所長が「変化する地域産業に対応できる人材を育てていく」と、産業界との協働を通して地域への愛着や誇りをどう醸成するのかがテーマに意見を交換。現状の成果と課題を話し合った。

当日は、関西電力㈱再生可能エネルギー部門北海道事務所の村上純亮副所長が「変化する地域産業に対応できる人材を育てていく」と、産業界との協働を通して地域への愛着や誇りをどう醸成するのかがテーマに意見を交換。現状の成果と課題を話し合った。

参加者は「高校進学は将来の就職先に大きく影響すると考える。小中学生のうちから産業界等に興味を持ってもらえる働きかけが必要」との理解を得るため「地域住民との交流の機会をより増やし、地域の名物・特産物を好きになってもらうことで、地域への愛着を育てることができる」との意見が上がった。

ONE TEAM事業でセミナー 観光学習 好事例共有 長崎県の実践紹介等 道教委

道教委は10月28日、オンラインで「北の専門高校ONE TEAMプロジェクト」観光産業理解促進セミナーを開催した。日本観光振興協会観光DX共創部の森岡順子部長による講演や、長崎県教委高校教育課キャリア教育担当の馬場剛参事による事例発表などを実施。森岡部長は、テーマを活用した観光マーケティングの手法や具体的な分析手法を伝え、馬場参事は、文部科学省のNEXT長崎人材育成事業を活用した産学官連携による観光ビジネス教育の一端を紹介した。

道教委高校教育課キャリア教育指導係の北畑智隆主任指導主事が同セミナーの趣旨等を説明したあと、森岡部長が「観光ビジネスにおけるマーケティングとデータ分析」をテーマに講演した。

森岡部長は、観光ビジネスにおけるマーケティングの目的と意義について「マーケティングは、売れる仕組みのことで、観光資源を商品と見立て、魅力ある商品をつくり、旅行者に提供すること。観光資源の背景、歴史、文化を含めてストーリー化し、商品化する」と観光客の増加と消費向上につながる」と説いた。

また、ブランド構築の重要性や、持続可能な観光を目指すためのオーバートリプ防止、資源保全の必要性を指摘。地域の魅力を戦略的にプロモーションして観光客を呼び込み、地域経済の活性化を目指すマーケティング手法「テストステーション・マーケティング」の概念を紹介し、観光地を目的地として選んでもらうための商品づくりの重要性を説いた。

引き続き、馬場参事が長崎県の観光に関する学習の取組事例について発表した。

馬場参事は、観光に関する専門性を持つ教員が不足しているため、産学官連携の取組を活用して実践的な観光ビジネス教育を実現した経緯を説明。文科省のマイスター・ハイスクール普及促進事業「NEXT長崎人材育成事業」を活用し、産業界と連携した専門高校における産学教育の学びを進めていることを伝えた。

また、佐世保商業高校の観光ビジネス教育の実践を紹介。情報マーケティング科のマーケティングコースで6年度から観光ビジネスを開講し「観光ビジネスのモデル校」を目指して取組を展開していることを報告した。

観光ビジネス教育の成果として「生徒が観光ビジネスのプロに触れる機会になり、社会につながる良い教材になっていることや外部連携によって生徒の探究的な学びが充実していること」などを提示。一方、課題として「内容が多岐にわたっており、時間が不足していること」や「外部人材と連携する際に教師がファシリテーターとしての役割を果たす必要があること」などを挙げた。

最後に、教員の授業力向上や授業改善に向け、学びのシンポジウムを実施するなかで、教員自身の取組を見直す機会を創出していく考えを示した。

参加者からは「授業で活用できるマーケティングツールの活用事例が参考になった」「長崎県が県全体で取り組んでいる教育施策や地域連携の事例を知り、自治体が一体になって教育の質の向上や地域活性化を目指す姿勢に感銘を受けた」との意見が寄せられた。

道教委 ONE-TEAM

12月15日にサミット

道産業教育審議を共有

道教委は、12月15日午前9時30分から札幌市内の第二水産ビルで「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」S7サミットを開催する。専門高校を代表する校長等が第29期道産業教育審議会建議の概要を共有。今後の本道産業教育の在り方について理解を深める。

S7サミットは、前年度実施した「4Sサミット」をさらに発展させたもので、七つの職業学科の代表者やONE-TEAMプロジェクト拠点校長、道産業教育審議会の委員、産学連携コーディネーターなどが一堂に会し、産学連携の在り方等について意見を交わし合うもの。

道産業教育審議会の建議「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」の内容を共有するほか、専門高校の魅力化・産学連携についての情報提供、①専門高校の魅力化・魅力発信に向けて取り組むべきこと②生徒の学びを深める持続可能な産学連携に向けて取り組むべきこと③の2テーマに基づいた意見交換などを行う。

ONE-TEAMフォーラム〈道北〉
産学連携 観光産業の今後は
旭商高国際ビジネス科が発表



【旭川発】道教委は10月下旬、旭川商業高校（池田隆校長）で北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト「道北」を開催した「写真」。同校国際ビジネス科の実践を共有したほか、授業で協力関係を結ぶなど、地域産業における人材育成の核になる専門高校が、地域の魅力やニーズを捉えて意見交換等を実施し、産学連携の意義などを深めることを目的としている。

最終年度の本年度は、農業、工業、商業、水産の学科を設置する全道の専門高校から拠点校をそれぞれ1校設定。道北圏域からは旭川商業高が選ばれた。

同フォーラムは、産業界等と地域産業における人材育成の核になる専門高校が、地域の魅力やニーズを捉えて意見交換等を実施し、産学連携の意義などを深めることを目的としている。

ぶ幌野リゾートの相内学長が北海道統括総支配人の講演、参加者同士でのテーマ別協議を実施。産学連携による観光産業のこれからを考えた。

ONE-TEAMプロジェクトは、専門高校と企業や中学校等の連携を推進し、専門高校の価値や魅力を啓発する「縦のつながり」とともに、専門高校が学科の垣根を越えて連携し、効果的な取組を他の専門高校に自走可能な形で展開する「横のつながり」を構築するもの。

当日は、旭川商業高国際ビジネス科2年生40人をはじめ、教員や企業・団体の関係者約80人が参加した。同

校国際ビジネス科の水野龍とを知る力につながる」と生教師が、同科の意義や星野リゾートとの協働授業の内容などを説明。観光産業に力を入れる国や道の方向性、4年度に改定された学習指導要領で「観光ビジネス科目」が新設されたことなどを紹介した上で「地域を中心としたビジネスを学ぶことで、観光ビジネスを学ぶことには意義がある。地元を知る力が、国際的な

とを知らぬ力につながる」と解説した。

また、道観光人材支援事業協同組合を通じて、星野リゾートと協力関係結んだことを話し「管内にあるトマムリゾートとOMO7での現場学習や、職員からサレバについて学ぶ授業を行っている」と伝えた。

続いて、星野リゾートの相内北海道統括総支配人が「観光ビジネスの実際につ

いて」と題して講演。本道の観光産業の価値や経済への影響力、各地域の魅力について説明した。

最後に、参加者同士でテーマ別協議を実施。①地域の「働き手不足」に学校と企業がどう応えるのか②変化する「地域産業」に対応できる人材をどう育ていくのか③産業界との協働を通して地域への愛着や誇りを醸成するのかなの3点について議論を交わし、産学連携を通じた観光産業のこれからを考えた。

とを知らぬ力につながる」と解説した。

また、道観光人材支援事業協同組合を通じて、星野リゾートと協力関係結んだことを話し「管内にあるトマムリゾートとOMO7での現場学習や、職員からサレバについて学ぶ授業を行っている」と伝えた。

続いて、星野リゾートの相内北海道統括総支配人が「観光ビジネスの実際につ

いて」と題して講演。本道の観光産業の価値や経済への影響力、各地域の魅力について説明した。

最後に、参加者同士でテーマ別協議を実施。①地域の「働き手不足」に学校と企業がどう応えるのか②変化する「地域産業」に対応できる人材をどう育ていくのか③産業界との協働を通して地域への愛着や誇りを醸成するのかなの3点について議論を交わし、産学連携を通じた観光産業のこれからを考えた。

10日に専門高ユナイテッド
産学連携の好事例共有

道、福井県、熊本県が実践発表等

道教委は10日、マイスター・ハスクール普及促進事業「専門高ユナイテッド」をオンライン開催する。北海道、福井県、熊本県の代表生徒による実践発表や、生徒と教員を分け、それぞれの地域産業の

道県のうち、各教育委員会が選定した専門高校の代表生徒および教員、農業、工業、商業、水産、家庭看護、福祉各1人。当日は、地域産業の魅力や専門高における学びを生かした将来の目標等）をテーマに、更別農業高校、福井県立武生商工高校、熊本県立天宮工業高校の3校による実践発表のほか、生徒と教員を4班ずつに分けて協議を実施。生徒グループでは「地域産業の魅力や産学連携における先進的な取組を理解することで、地域産業を支える人材育成の充実を図る。対象は、同事業の先進的取組に取り組んでいる3

道県のうち、各教育委員会が選定した専門高校の代表生徒および教員、農業、工業、商業、水産、家庭看護、福祉各1人。当日は、地域産業の魅力や専門高における学びを生かした将来の目標等）をテーマに、更別農業高校、福井県立武生商工高校、熊本県立天宮工業高校の3校による実践発表のほか、生徒と教員を4班ずつに分けて協議を実施。生徒グループでは「地域産業の魅力や産学連携における先進的な取組を理解することで、地域産業を支える人材育成の充実を図る。対象は、同事業の先進的取組に取り組んでいる3

道教委 高校生チャレンジ

おひとついかがですか

道立5校の開発商品販売



道教委は9日から2日、札幌駅構内催事スペースのどさんこプラザ札幌店で「高校生チャレンジ」の各校のオリジナル商品のPRと販売を行った。道立5校が企業と連携して開発した商品7種

販売した商品は、両館水産高校の「函館あさひふりほぐし」、富良野高校の「ビスナッツ」、下川商業高校の「さつまいもとうどん」、更別農業高の「さらのうばんかレー」「まのうきま」、本別高校の「まるで肉が混ぜただけごま坦麺のもと」「まるで肉が混ぜただけ シャーシヤミ麺のもと」の7品。また、

中島教育長に販売商品を説明した

来場者との交流（商品詳細等）によって、今後の改善・充実につながるもの。札幌店での販売は5年度から実施しており、今回で4回目となる。

販売協力校の千歳高が開発した「千歳オリジナル缶バツ」のカプセルトイ販売機を設置した。



道立高校3校の生徒が接客を担当した

当日の販売・接客は、千歳高、富良野高、更別農業高の生徒計9人が担当。生徒たちは「高校生が開発した商品です」「おひとついかがですか」などと大きな声で接客した。

また初日には、道教委の中島俊明教育長や大鐘秀峰委員が視察に訪問。生徒たちの懸命な接客に耳を傾けるとともに、各校の商品を購入し、商品のPRに精をこらした。道立高校3校の生徒が接客を担当した。更別農業高3年の齋藤義輝さんは「さらのうばんかレー」について「子どもから高齢者まで幅広い年齢層にも食べてもらえるよう工夫した。非常食にもなるので災害時など困った。非常食にもなるので災害時など困った」と笑顔で話した。

道教委 専門高校ユニテッド 産学連携の先進事例共有

更別農高など3校実践発表

道教委は10日、オンラインでマイスター・ハイスクール普及促進事業「専門高校ユニテッド」を開催した。更別農業高校、福井県立武生商工高校、熊本県立天草工業高校の3校の代表生徒がそれぞれの教育活動を発表。コムギの6次産業化やスマート農業、商業と工業の連携による地域企業の課題解決、地域企業との連携による実践的な学びなど、それぞれの産学連携の先進的な取組を共有した。

専門高校ユニテッドは、専門高校で学ぶ生徒等が、道や県の垣根を越えて、地域産業の魅力や産学連携における先進的な取組を理解することで、地域創生を支える人材育成の充実を図ることがねらい。事業に取り組んでいる3道県のうち、各教委が選定した専門高校の代表生徒および代表教員27人が参加した。

開会に当たり、高校教育課の石田曉課長補佐があいさつ。産業構造が大きく変化する中で、専門高校の生徒が実習や現場体験を通して社会に近い場所で学びを深めることの価値を示し、この交流が専門高校の可能性を広げる契機になるよう期待した。

続いて、参加生徒を代表して旭川商業高校流通ビジネス科3年の大橋くるみさんが「他地域の専門高校の学びや特色を知る機会が少ない中で、今回の交流は貴重な機会。この出会いを通して自分たちの強みや課題を見つめ直し、学びや進路選択に生かしていきたい」とあいさつした。

実践発表に移り、更別農業高は、作物栽培、家畜飼育、食品加工、草花栽培、福祉の分野でのプロジェクト学習について説明。コム

ギの6次産業化の学習では、帯広畜産大学と連携したスベルト小麦の栽培・加工・販売などを進めていることを紹介した。

また、生物刺激剤を活用した持続可能な栽培、農業用ドローンの操縦資格取得と実習を通して、スマート農業を学んでいることを報告。これら産学連携を通じて専門力の向上、社会とのつながりの実感、課題解決能力の育成、学習意欲の向上などにつながっていることを伝えた。

武生商工高では、商業と工業の連携による課題研究の実践を紹介。地域企業から実際の課題を受け、商業科のマーケティングやデザインの見点と工業科の設計や加工技術を組み合わせて解決策を提案する取組を伝えた。

天草工業高では、熊本県版マイスター・ハイスクールの特徴として、市町村単位で学校・企業・行政・銀行が連携し、地域を担う産業人材育成に取り組んでいることを報告。スクールミッションとの整合性を図りながら、機械科、電気科、土木科、情報技術科の各学科で地元企業と連携した特色ある取組を行っていることを紹介した。

このあと、生徒・教員グループに分かれて協議を展開。各グループは地域産業と専門高校の学びの連携、企業との協働による実践的な学習の重要性などを共有した。

ONE-TEAM S7サミット

持続可能な産学連携を

道教委 魅力発信など協議



道教委は15日、札幌市内の第二水産ビルで「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」S7サミット（専門高校代表者会議）を開催した。写真＝。第29期道産業教育審議会建議の内容をもとに「専門高校の魅力化・魅力発信」や「生徒の学びを深める持続可能な産学連携の取組」について協議。各専門高校の校長か

らは「企業との連携を属人的なものから組織的なものへと発展させることが必要」「中学生に専門高校の進路選択肢の多様性を広く伝えることが大切」などの声が上がった。

S7サミットは、農業、工業、商業、水産、家庭看護、福祉の七つの職業学科を代表する校長や「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の各拠点校の校長が一堂に会し、今後の本道産業教育の在り方について協議するもの。専門高校の代表者ら14人が参加した。

開会に当たり、道教委の高田安利高校教育課長があいさつに立ち「サミットの内容を専門高校の各部会等に持ち帰り、今後予定され

ている各部会の研究会などで専門高校と産業界とのさらなる連携の推進に生かしてほしい」と呼びかけた。引き続き、第29期道産業教育審議会の岡部善平会長が建議「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」について説明した。

岡部会長は、調査結果からSNSの情報発信について高校教員や卒業生は有効と考えているものの、中学生や中学校教員はあまり関心を持っていないという結果が出たことを伝え、SNSの有効活用を課題として提示。その上で「中学生に向けて、専門高校の実際の学びをどのように発信していくかが重要になる」と述べた。

企業と連携を進める上で必要条件として、高校側は、予算・経費の確保や相互の信頼関係を重視する一方、企業側は高校側のニーズ把握を重視しているというギャップについて指摘。連携に充てる時間の確保、担当者とのコミュニケーション、近隣に連携できる専門高校がないことなどを連携における課題として挙げ「連携が属人的になりがちであり、これを持続可能なものにしていくことが重要」と強調した。

道教委の石田暁課長補佐が文部科学省の第4期教育振興基本計画や中教審の高校教育の在り方ワーキンググループの審議のまとめなどについて説明したあと、専門高校の魅力化・魅力発信や、生徒の学びを深める持続可能な産学連携に向けた取組について意見を交わした。

各専門高校の校長からは、体験入学や企業との継続的な連携の重要性や、教員の個人的なつながりに依存しない連携構築の必要性、在校生徒が教育活動を中学生に直接伝える効果を訴える声などが上がった。

道教委 産業実務家教員ミーティング

持続可能な連携体制へ

企業や高校生が実践発表

道教委は20日、オンラインで北の専門高校ONLINE TEAMプロジェクト「産業実務家教員ミーティング」を開いた。第29期道産業教育審議会がまとめた建議の内容を共有したほか、企業関係者と高校生が産学連携の実践をそれぞれ発表。産業実務家教員や教育局の産業教育担当者ら13人が参加し、持続可能な連携体制の構築やコーディネート機能の重要性などについて共通理解を図った。

ミーティングは、産業界の関係者等が産学連携の意義や事例を共有し、互いの知見を深めるとともに、横

の連携を築き、専門高校における産学連携のさらなる充実・発展を図ることが目的。開会に当たり、高校教育課の石田暁課長補佐が挨拶。ミーティングの内容をそれぞれの企業に持ち帰り、高校と産業界のさらなる連携の推進に生かすとともに、今後の専門高校と産業界の持続可能な連携体制の構築に向けて実り多い機会になるよう期待を寄せた。

引き続き、第29期道産業教育審議会の明田川知美副会長が建議「本道産業の担

い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」について説明した。明田川副会長は、厚岸翔洋高校の海中ドローン活用事例や岩見沢農業高校のスマート農業の取組を紹介しつつ①専門高校の魅力発信②職業学科教員の確保③産業界との連携の三つの課題のもと分析した結果を報告。調査結果から約40%の中学生が専門高校を選択肢に入れていることや、多くの企業が連携に積極的であることを明らかにした。

堂畑さんは学生の立場から産学連携の意義について発表し、建設業界への進路決定の過程を共有。1年生で製図の基礎、2年生で木造平屋建て住宅の自由設計、3年生で最新の3Dモデリングソフトの操作方法を学んだことを振り返った。また、女性現場監督という将来の夢を語り「現場監督として一人前になった際には、実際の仕事で役立つ知識やリアルな現場のことを先輩たちに伝え、建設業の魅力ややりがいを広めたい」と意欲を示した。

このあと、ブレイクアウトルームに分かれ、持続可能な連携体制の構築、予算確保の課題、コーディネーター機能の重要性などについて協議した。

北の専門高校ONE-TEAMフェスタ

連携の輪 地域を越えて

産業界と対話の場に 道教委

道教委は13日、札幌コンベンションセンターで、北の専門高校ONE-TEAMフェスタを開催した。専門高校6校が企業と連携した実践を発表したほか、商品販売やポスター発表による交流会を行い、地域や分野の枠を越えて連携の輪を広げた。

同フェスタは、専門高校の価値や魅力の発見、産学連携につなげる「北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の2年間の取組の成果を共有する場として開催。高校生、学校・企業の関係者ら約170人が参加した。

開会に当たり高田安利高校教育課長は「本日の交流を、今後の高校と産業界とのさらなる連携に生かしてほしい」と期待した。

続いて（株）LAUGHGRUP代表取締役社長の大坪友樹氏が「海とまちを近くする会社」の地域づくり実例」と題して講演。水産領域における流通や企業基盤、地域と共に成長するビジネスモデルなどを語った。

成果発表では、事業の拠点校の小樽水産、室蘭工業、旭川商業、更別農業と、旭川商業、置戸が加わり計6校の生徒が登場。産学連

携によるインターシッピングや地域課題の解決に向けた探究活動などを紹介した。室蘭工業高2年の五十嵐正彦さんは学校祭における企業連携企画などの成果を報告し「学校だけでは得られない多くの体験ができた。今回の機会を大切に、目標の重機整備士に向けて努力したい」と語った。

交流会では各校がブースを設け、商品販売やポスター発表を実施した。函館工業高校はレーザー彫刻機を用いたコースター政策を実演し、来場者がタブレットで入力したデザインをそのまま刻印するなど、専門

性を生かした取組で注目を集めた（写真）。

更別農業高のレトルトカレー、函館水産高校の魚の瓶詰めなど産業界と連携して開発したオリジナル商品も並び、高校生の実践力と創意工夫が光った。

ポスターセッションでは、地域と連携して実施した探究活動やキャリア教育の成果を発表。企業関係者との名刺交換を行い、交流を深めた。

参加した生徒は「社会とのつながりや社会人としての考えを学ぶことができた」「これまで知らなかった分野に触れ視野が広がった」と手応えを語った。



産業界の関係者は「事業展開を考える上で、地域外の取組を知る貴重な機会。対面で語り合える場を今後も広げてほしい」と期待する声が上がった。

道教委 ONE-TEAMコミッティ

学科越えたつながりを

次年度の産学連携へ協議

道教委は19日、札幌市内のかでる2・7で第3回ONE-TEAMコミッティ

を開いた「写真」。北の専門高校ONE-TEAMプロジェクト」の取組成果を報告するとともに、次年度に向けた方向性を協議。

幅広い視野を持つ職業人材の育成に向け、学科を越えたつながりの創出や、中学校向けの情報発信の工夫を提案した。

同プロジェクトは、専門高校の価値や魅力の発見、産学連携につなげることを目的に、6、7年度の2カ年で実施。学校と産業界の交流機会の創出や相互ニーズの理解、連携可能な企業の情報の整理、専門高校の

魅力発信など、様々な取組を進めてきた。

魅力発信など、様々な取組を進めてきた。

会議は、事業終了後の産学連携の在り方、各専門高校における連携の充実方策について協議し、専門的助言を得ることを目的に開催した。企業、大学、行政関係者ら6人の委員が参加した。

はじめに道教委が本年度の取組を説明。半導体や洋上風力発電に関する出前講座、北海道のアンテナショップにおける商品販売、中学生・保護者・中学校教員向けの「専門高校魅力発見ガイド」の作成などの取組を示した。

さらに、事業終了後の重点事項として①産業実務家教員リストの①層の活用促進②産業実務家教員の確保と持続可能な連携体制の構築③学校と産業界が共に人材を育てる意識の醸成の3点を挙げ



さらに、事業終了後の重点事項として①産業実務家教員リストの①層の活用促進②産業実務家教員の確保と持続可能な連携体制の構築③学校と産業界が共に人材を育てる意識の醸成の3点を挙げ

た。リスト活用の促進に向け、活用事例に加え、依頼方法や事前打ち合わせの進め方など具体的な手順を示すことも検討していくとした。

意見交換では、学科横断の連携強化の必要性が指摘された。「生産から販売、流通までを一体的に学ぶ視点が重要。対面の会合以外にもつながりを生み出す仕組みが必要」「専門高校の

学びは普通科の探究学習と重なる部分も多い。生徒の活躍の場を広げることが大切」との提案があった。情報発信の工夫の必要性も共有した。「専門高校に関心のある層だけではなく、幅広い生徒・保護者に向けた発信が必要」「学校祭や発表会に地域住民を招くほか、販売実習などの取組を小中学生に伝えることが大切」といった意見を示した。

(2) 第29期北海道産業教育審議会建議（概要版）

第29期北海道産業教育審議会建議（概要版）

「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」

北海道産業教育審議会は、「本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査」を実施し、令和7年（2025年）11月25日、北海道教育委員会に建議を行いました。

3つに整理した本道産業教育における課題

本道産業教育における課題を次の3つに整理した上で、13年振りとなる大規模調査を実施し、調査結果の分析を行いました。【建議2ページ】

課題 01

【専門高校の魅力】

専門高校の志願者が減少傾向



課題 02

【職業学科の教員】

職業学科の教員確保が困難



課題 03

【産業界との連携】

先端技術を学ぶ企業等との緊密な連携



調査概要、調査対象及び回答者数は、次のとおりです。

第29期北海道産業教育審議会（R5.12～R7.11）審議課題

本道産業の担い手育成に資する産業教育の在り方に関する調査

本審議会の主な所掌事項

（注）第29期審議課題に関する内容を抽出

産業教育（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、福祉）の振興を図ること

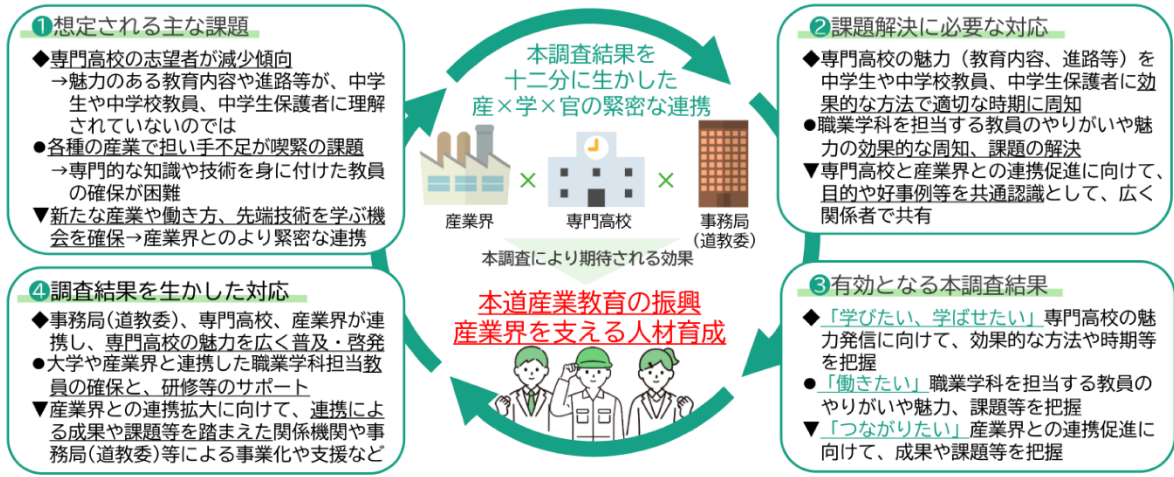
- 【取組例】 ・教育内容及び方法を改善
- ・産業界との協力を促進
- ・施設又は設備の整備及びその充実
- ・教員等の現職教育又は養成計画の樹立及びその実施



本調査の目的

（産業教育の振興に向け）産業構造の変化やグローバル化、少子高齢化など、社会の急激な変化に伴う生徒の変容や社会のニーズ等の把握

【イメージ】産業教育の振興に資する本調査の活用サイクル



※図中の◆●▼が上記課題の01～03にそれぞれ対応

【調査概要図】

◆ 調査対象及び回答者数

- | | | |
|--------------------|------------------|-----------------|
| ▶ 専門高校在校生 (1,143名) | ▶ 専門高校卒業生 (556名) | ▶ 職業学科教員 (171名) |
| ▶ 大学生・大学院生 (225名) | ▶ 企業関係者 (244名) | ▶ 中学生 (1,823名) |
| ▶ 中学校教員 (129名) | ▶ 中学生保護者 (574名) | |

調査結果を受けて

本道産業教育の3つの課題に基づき、次の4つの観点で分析を行いました。[建議8～58ページ]

◆ 分析における4つの観点

- ① 専門高校を取り巻く関係者間の認識【職業学科での学びはどう見られているか】
- ② 専門高校と中学校の関係性【高校についての情報をどこから得ているのか】
- ③ 専門高校と企業の関係性【高校と企業はどのようにつながることができるか】
- ④ 専門高校と大学(教員養成)の関係性【職業学科で働くことはどのように捉えられているか】

分析結果を踏まえ、本道の産業教育において今後取り組むべき方向性を3つの視点で示しました。

(注) 本概要版のグラフについては、建議から一部抽出・加工しています。

1

専門高校の魅力発信

[建議59ページ]

【調査で把握できたこと】

- ・進路選択において、約40%の中学生が専門高校を選択肢に入れている。
- ・普通科を希望する中学生でも、約26%が専門高校に興味をもっている(図A)。
- ・多くの中学生は、体験入学や見学会から高校についての情報を得ている(図B)。
- ・中学生の進路の相談相手は、中学校教員が約64%、保護者が約77%。

◆ 発信内容

- ・道教委及び専門高校は、専門高校がもつ「**学びの広がり**と**進路の可能性**」を強調しながら、魅力を発信することが大切である。
- ・中学生や保護者が、産業構造の変化と将来のキャリアをイメージできるよう、「**スマート化**」や「**テクノロジー**」等のキーワードを活用しつつ、**先端技術に触れる機会が多いこと**、**未来を創るまちづくり**に関する学習に取り組める点などを発信することが有効である。

◆ 発信方法

- ・多くの中学生は、自分の興味や関心に合ったことが学べるのかを知りたがっており、専門高校は、**実習の様子などをタイムリーに発信**することが重要である。
- ・**SNS (Instagram) やnote**などで、生徒の活躍を広く発信することや、**生徒自身が発信**することなどが考えられる。

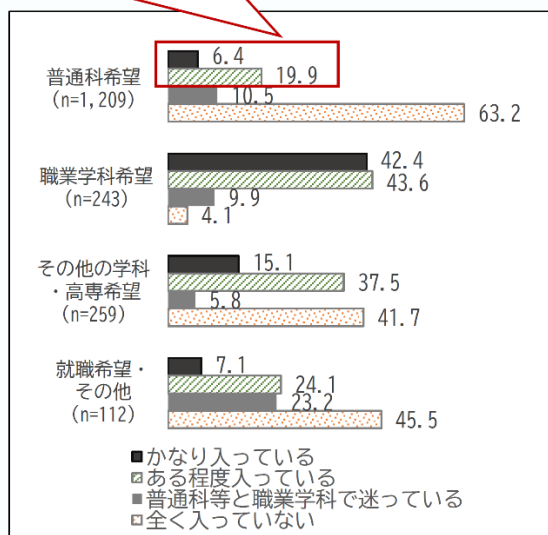
◆ 魅力を実感できる工夫

- ・専門高校は、中学生やその保護者、中学校教員に対して、**学科ごとの特色ある実習等を見える化**することが大切である。
- ・**中学生や保護者が高校生と触れ合い**、専門高校の魅力を実感できるよう、学校祭や地域におけるイベントなどの機会を効果的に活用することが考えられる。

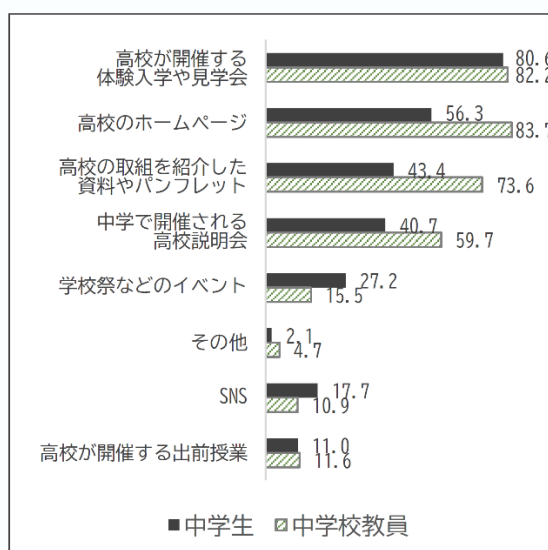


【ポイント】

普通科希望の中学生のうち、約26%は専門高校が選択肢に入っている。



図A 職業学科が進学先の選択肢にどの程度入っているか (%) 【回答者】中学生



図B 高校に関する情報メディア (%) 【回答者】中学生、中学校教員

② 専門高校の教員確保

[建議62ページ]

【調査で把握できたこと】

- ※対象：職業学科の教職課程履修者
- 多くの学生が、教職の魅力について理解している（図C）。
 - 学生の約42%が、就職先として、民間企業と教職で迷っている。
 - ワークライフバランスを重視している学生は、民間企業を希望する傾向にある。

◆ 教職の魅力発信の方法

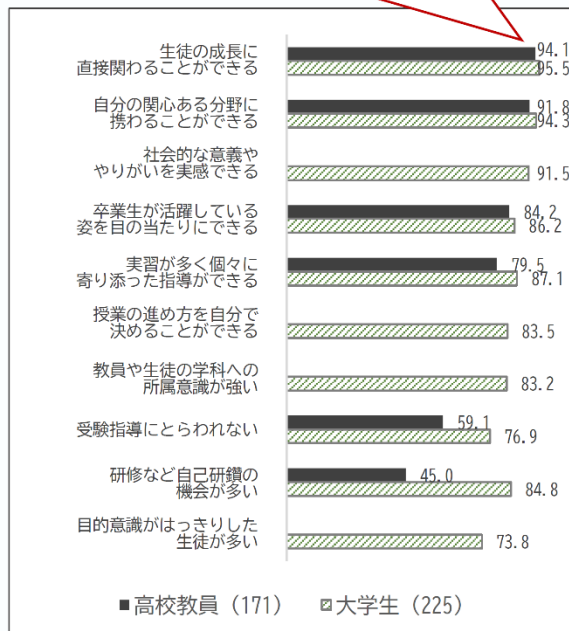
- 道教委は、専門高校及び教職課程を有する**大学と連携を密にし、情報交換に努めることが重要である。**

◆ 教職の魅力向上につながる取組

- 道教委は、専門高校の教員がやりがいを実感して生き生きと働くことができるよう、**環境の整備に努める必要がある。**
- 道教委は、教員の**ワークライフバランスの向上**に取り組み、その成果を効率的に学生に伝えることが重要である。



【ポイント】
教職課程の学生は、教職の魅力
十分に理解している。



(注) 「とても思う」「まあ思う」に回答したものの合計
図C 職業学科の教員の「魅力」 (%)
【回答者】高校教員、大学生

③ 産業界との連携

[建議64ページ]

【調査で把握できたこと】

- 多くの企業が、専門高校との連携について、何らかの形で積極的に連携したいと考えている（図D）。
- 教員の多くは、交通費や経費の確保が課題と考えている一方で、企業の多くは、経費や謝礼を課題とは考えていない。

◆ つながる機会の創出

- 道教委は、**教員と産業界**が集うイベントの開催等に努める必要がある。

◆ 連携における協働とコミュニケーション

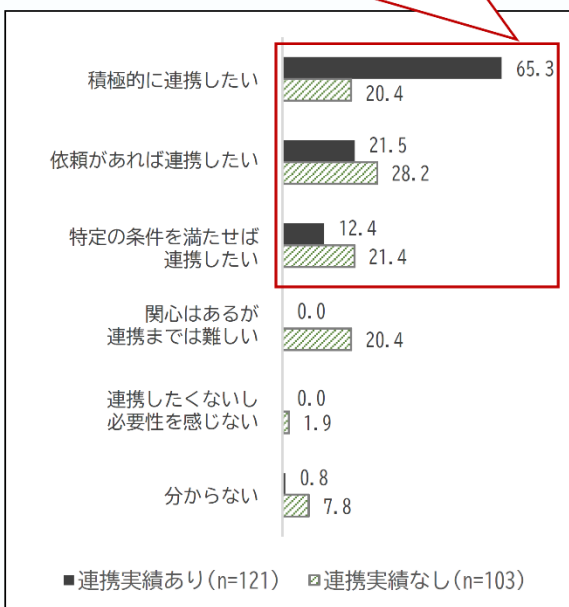
- 連携の導入においては、**顔が見える形**でコミュニケーションを取ることが重要である。
- 教員と企業が「**一緒に人を育てている**」と実感できるような取組の工夫が必要である。

◆ 連携の見直しと発展的解消の可能性

- 前例踏襲型の連携ではなく、**連携を見直し**たり、発展的に解消することも必要である。



【ポイント】
多くの企業が、専門高校と連携
したいと考えている。



図D 専門高校との連携の見直し・意思 (%)
【回答者】企業

今後の実現に向けて～子どもたちを真ん中に～

子どもたちを真ん中に [建議67ページ]

- 本道産業教育の一層の充実が図られるよう、道教委は、**本建議の趣旨などを広く周知**して理解を得るとともに、知事部局や産業界等との緊密な連携により一層注力する必要がある。
- **子どもたちを真ん中**に、大人たちが立場や使命の垣根を越えて確実に連携し、豊かな教育を実現することが望まれる。



◆ 専門高校の価値と可能性

- ・ 予測が難しい社会においては、子どもたちが新しい時代を切り拓くための資質・能力を獲得することが必要である。専門高校には、新しい時代を切り拓く**教育的な価値や可能性**がある。

◆ 「学びの広がりと進路の可能性」の発信

- ・ 特色ある学習や進路先などが見える化し、「**学びの広がり**と**進路の可能性**」を強調しながら、専門高校がもつ価値や魅力を、中学生や保護者に広く発信し続けることが必要である。
- ・ 道教委には今後、各学校の情報発信がより活性化するよう、必要な**人材の配置**や、適切な**予算措置**の検討が求められる。



◆ 教員確保と魅力向上を図る工夫

- ・ 道教委は、専門高校の教員確保に向け、**大学等との連携**や、教員採用試験の**実施時期の見直し**など、学生の実態に応じた工夫に取り組むことが必要である。
- ・ 実習助手等を含めた専門高校の教職員への**スキル向上策の事業化**や、**ワークライフバランスの向上**につながる取組など、教員の魅力向上を図る工夫が求められる。

◆ 「一緒に人を育てていく」という意識

- ・ 専門高校は、産業界等と連携し、例えば「**課題研究**」において先端技術に触れる機会を確保するなど、学習活動の一層の充実を図ることが重要である。その際、対話や協働を通じて「一緒に人を育てていく」という意識を醸成することが大切である。
- ・ 産業界等と一体となった各学校の取組を促進するため、道教委には、**連携コーディネーターの戦略的な配置**など、他県の事例を参考にした予算措置の検討が求められる。



対話や協働を通じて
「一緒に人を育てていく」
という意識で連携



本建議は、審議会事務局のwebページに掲載していますので、二次元コード又はURLから御覧ください。

【URL】 <https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/dousanshin/204423.html>

【問合せ先】 北海道産業教育審議会事務局（北海道教育庁学校教育局高校教育課）

住所：札幌市中央区北3条西7丁目 TEL：011-204-5705



(3) 本プロジェクトに御協力いただいた事業所等並びに事務局一覧

建設DX理解促進セミナー（令和6年9月）

講演

- ・荒井建設株式会社
- ・一般社団法人建設ディレクター協会
- ・ヤマグチ株式会社

産学連携シンポジウム（令和6年11月）

講演・パネルディスカッション

- ・株式会社砂子組
- ・国分北海道株式会社
- ・北海道経済連合会

参加事業所等

- ・石森電気工事株式会社
- ・石屋製菓株式会社
- ・伊藤組土建株式会社
- ・Inquiry 合同会社
- ・NTC コンサルタンツ株式会社
- ・株式会社 NTT e-Drone Technology
- ・遠軽舗道株式会社
- ・株式会社大林組
- ・片桐機械株式会社
- ・学校法人片柳学園日本工学院北海道専門学校
- ・金沢星稜大学
- ・北土建設株式会社
- ・草野作工株式会社
- ・株式会社グリーンパワーインベストメント
- ・国分北海道株式会社
- ・coco スペース
- ・株式会社サッポロドラッグストア
- ・株式会社砂子組
- ・株式会社すみか
- ・公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
- ・福井コンピュータ株式会社
- ・株式会社 FUJI
- ・株式会社ベネッセコーポレーション
- ・北海道エア・ウォーター・アグリ株式会社
- ・北海道経済部産業振興局次世代半導体戦略室
- ・北海道経済連合会
- ・北海道建設業協会
- ・北海道建設部建設政策局建設管理課
- ・株式会社北海道水工コンサルタンツ
- ・北海道電気工業業工業組合
- ・ホワイトパープル
- ・まちのミライ
- ・三ッ輪建設工業株式会社
- ・山根土建株式会社
- ・株式会社 LinC
- ・株式会社レンタコム北海道

高校生チャレンジ in どんさんこプラザ（令和6年12月）

連携事業所等

- ・有限会社共済農場
- ・株式会社合食函館第一工場
- ・有限会社たばた商事
- ・有限会社根室菓舎はやかわ
- ・株式会社フタバ製麺
- ・北海道エア・ウォーター・アグリ株式会社

4Sサミット（令和7年1月）

講演

- ・株式会社セイコーマート

半導体理解促進セミナー（令和7年1月）

講演

- ・国立大学法人北海道大学
- ・ミツミ電機株式会社

参加事業所等

- ・株式会社アイエヌジー
- ・株式会社アムコーテクノロジージャパン
- ・公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
- ・公益社団法人北海道看護協会
- ・国立大学法人北海道教育大学札幌校
- ・株式会社北海道銀行
- ・北海道経済連合会
- ・北海道建設新聞社
- ・北海道新聞社
- ・吉田学園情報ビジネス専門学校

洋上風力発電理解促進セミナー（令和7年2月）

講演

- ・国立大学法人長崎大学
- ・日本海洋事業株式会社

参加事業所等

- ・日本海洋事業株式会社
- ・日本郵船株式会社
- ・北海道経済部ゼロカーボン推進局ゼロカーボン産業課

観光産業理解促進セミナー（令和7年2月）

講演

- ・一般社団法人小樽観光協会
- ・公益社団法人北海道観光機構

産学連携カンファレンス（令和7年2月）

講演・パネルディスカッション

・札幌テレビ放送株式会社

参加事業所等

- ・アクサ生命保険株式会社
- ・荒井建設株式会社
- ・勇建設株式会社
- ・一般社団法人 Ezofrogs
- ・一般社団法人札幌地方自動車整備振興会
- ・一般社団法人北海道観光資源創造センター
- ・一般社団法人北海道ビルダーズ協会
- ・株式会社 NTT e-Drone Technology
- ・国立大学法人北海道大学機構小樽商科大学
- ・片桐機械株式会社
- ・学校法人片柳学園日本工学院北海道専門学校
- ・株式会社グリーンパワーインベストメント
- ・公益社団法人北海道観光機構
- ・国分北海道株式会社
- ・札幌市建設局
- ・札幌テレビ放送株式会社
- ・札幌ポデー工業
- ・株式会社砂子組
- ・ソウルドアウト株式会社
- ・ダイキン工業株式会社
- ・株式会社滝川自工
- ・道路工業株式会社
- ・ニデック SV プロープ電子株式会社
- ・日本郵船株式会社
- ・日本旅行札幌支店
- ・株式会社星野リゾート
- ・北海道経済連合会
- ・北海道コカ・コーラボトリング株式会社
- ・北海道職業能力開発大学校
- ・北海道武蔵女子大学
- ・北海道旅客鉄道株式会社
- ・株式会社ミツハシ北海道事業所
- ・ミツミ電機株式会社
- ・株式会社メガ・コミュニケーションズ
- ・有限会社藤井牧場
- ・有限会社松岡商事
- ・雪印メグミルク株式会社
- ・酪農学園大学
- ・株式会社 LinC

おしごとガイドブック～2024 年度版～

協力事業所等

- ・エア・ウォーター北海道株式会社
- ・上磯郡漁業協同組合
- ・株式会社砂子組
- ・株式会社大歩
- ・医療法人徳州会札幌東徳州会病院
- ・ミツミ電機株式会社
- ・株式会社ハニーズホールディングス
- ・株式会社ホスピタリティオペレーションズ
- ・株式会社北海電工
- ・株式会社北海道興農社
- ・社会福祉法人北海道友愛福祉会静苑ホーム
- ・株式会社三星

産業実務家教員リスト（令和6年度）

※令和6年度に登録いただいた事業所等

- ・あすなる道路株式会社
- ・荒井建設株式会社
- ・飯田建設株式会社
- ・有限会社インテリアほりえ
- ・上田ファーム株式会社
- ・植村建設株式会社
- ・梅津電気株式会社
- ・株式会社 S.E エンジニア
- ・株式会社 NTT e-Drone Technology
- ・加藤建設株式会社
- ・上磯郡漁業協同組合
- ・株式会社キクザワ
- ・医療法人社団久仁会
- ・株式会社公清企業
- ・斉藤井出建設株式会社
- ・一般社団法人札幌地方自動車整備振興会
- ・ジオテック株式会社
- ・新谷建設株式会社
- ・株式会社砂子組
- ・株式会社豊富牛乳公社
- ・西江建設株式会社
- ・株式会社西村組
- ・ニデック SV プロープ電子株式会社
- ・日本甜菜製糖株式会社
- ・丹羽建設株式会社
- ・有限会社藤井牧場
- ・株式会社藤田組
- ・株式会社星野リゾート
- ・北海道インテリア事業協同組合
- ・北海道コカ・コーラボトリング株式会社
- ・一般社団法人北海道ビルダーズ協会
- ・北海道三菱自動車販売株式会社
- ・MONO テク（道立高等技術専門学院8校）
- ・弁護士法人森・濱田松本法律事務所
- ・株式会社和秀

専門高校魅力発見ガイド

協力事業所等

- ・医療法人溪仁会介護医療院西円山病院
- ・住友電工テクニカルソリューションズ株式会社
- ・青函フェリー株式会社
- ・日本通運株式会社
- ・函館米穀株式会社
- ・株式会社ハニーズホールディングス
- ・北海道美唄聖華高等学校専攻科看護科
- ・稚内禎心会病院

専門高校魅力発見ミーティング（令和7年7月）

協力事業所等

- ・国立大学法人北海道大学機構小樽商科大学
- ・医療法人溪仁会介護医療院西円山病院
- ・光塩学園女子短期大学
- ・医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院
- ・能登農場
- ・株式会社北海電工
- ・北海道函館水産高等学校

産学連携シンポジウム（令和7年7月）

講演・パネルディスカッション

- ・帯広信用金庫
- ・株式会社海洋探査
- ・国分北海道株式会社
- ・一般社団法人産学官創造ネットワーク
- ・株式会社砂子組
- ・ハラダ工業株式会社
- ・室蘭市建設業協会
- ・有限会社レイブプロジェクト

参加事業所等

- ・旭川市立大学
- ・市立旭川病院
- ・荒井建設株式会社札幌支店
- ・株式会社安西製作所
- ・株式会社伊藤工業
- ・北海道胆振総合振興局
- ・植村建設株式会社
- ・株式会社 NTT e-Drone Technology
- ・大内建設株式会社
- ・株式会社小澤建設
- ・国立大学法人北海道大学機構小樽商科大学
- ・帯広信用金庫
- ・株式会社海洋探査
- ・関西電力株式会社
- ・木島建設株式会社
- ・木下建設株式会社
- ・栗林機工株式会社

- ・KeHare 株式会社 C.O.C
- ・建成ホーム株式会社
- ・国分北海道株式会社
- ・株式会社小林組・大基
- ・三洋興熱株式会社
- ・ジオテック株式会社
- ・株式会社砂子組
- ・株式会社成進
- ・太平電機株式会社
- ・高堂建設株式会社
- ・地崎道路株式会社
- ・東海産業株式会社
- ・十勝電気工事業協同組合
- ・ニデック SV プローブ電子株式会社
- ・日本郵船株式会社
- ・函館どつく株式会社室蘭製作所
- ・ハラダ工業株式会社
- ・広尾町役場
- ・株式会社福津組
- ・弁護士法人 森・濱田松本法律事務所
- ・北海道コカ・コーラボトリング株式会社
- ・北海道エア・ウォーター・アグリ株式会社
- ・北海道経済連合会
- ・公益財団法人北海道中小企業総合支援センター
- ・北海道パートナーズとちか
- ・株式会社北海道博報堂
- ・北海道武蔵女子大学
- ・株式会社ミツハシ北海道事業所
- ・室蘭市
- ・室蘭市建設業協会
- ・公益財団法人室蘭テクノセンター
- ・株式会社メイセイ
- ・株式会社山田組
- ・有限会社レイブプロジェクト
- ・株式会社若佐組

半導体実践セミナー2025（令和7年8月）

共催

- ・国立大学法人北海道大学
- ・北海道半導体人材育成等推進協議会
- ・技術研究組合最先端半導体技術センター

協力

- ・株式会社産業タイムズ社
- ・ミツミ電機株式会社
- ・Rapidus 株式会社
- ・北海道経済部 AI・DX 推進局次世代半導体戦略室

講演

- ・株式会社産業タイムズ社
- ・北海道経済産業局
- ・公益財団法人北海道科学技術総合振興センター
- ・国立大学法人北海道大学
- ・ミツミ電機株式会社
- ・Rapidus 株式会社

建設DX理解促進セミナー（令和7年8月）

講演

- ・株式会社砂子組
- ・ハラダ工業株式会社

参加事業所等

- ・株式会社砂子組
- ・地崎道路株式会社
- ・日本技術士会北海道本部
- ・ハラダ工業株式会社

洋上風力発電理解促進セミナー（令和7年10月）

共催

- ・北海道経済部 GX 推進局 GX 推進課

講演

- ・DENZAI 株式会社
- ・国立大学法人北海道大学

参加事業所等

- ・秋田県産業労働部
- ・日本郵船株式会社
- ・北海道経済部 GX 推進局 GX 推進課

ONE-TEAM フォーラム（令和7年10月）

出前授業

- ・株式会社海洋探査
- ・北海道経済連合会
- ・関西電力株式会社
- ・株式会社星野リゾート
- ・有限会社レイブプロジェクト

参加事業所等

- ・旭川市経済部経済総務課
- ・ISHIYA グループ株式会社 150F プランニング

- ・株式会社伊藤工業
- ・北海道胆振総合振興局
- ・植村建設株式会社
- ・株式会社 NTT e-Drone Technology
- ・国立大学法人北海道大学機構小樽商科大学
- ・帯広信用金庫
- ・学校法人片柳学園日本工学院北海道専門学校
- ・株式会社金田自動車
- ・関西電力株式会社
- ・KeHare 株式会社 C.O.C
- ・国分北海道株式会社
- ・株式会社小杉商店
- ・株式会社コンストラクションサポート藤井
- ・近藤工業株式会社
- ・社会福祉法人更別村社会福祉協議会
- ・三和シャッター工業株式会社
- ・ジオテック株式会社
- ・高堂建設株式会社
- ・株式会社滝川自工
- ・東海産業株式会社
- ・株式会社トートー事務機
- ・ニデック SV プロープ電子株式会社
- ・東しゃこたん漁業協同組合
- ・株式会社ヒト・コミュニケーションズ
- ・富士建設株式会社
- ・株式会社星野リゾート
- ・公益社団法人北海道観光機構
- ・北海道観光人材発掘事業事務局
- ・北海道経済連合会
- ・北海道武蔵女子大学
- ・マジカルヒューマンテクノロジー株式会社
- ・三菱マヒンドラ農機株式会社
- ・室蘭市建設業協会
- ・株式会社メイセイ
- ・有限会社レイブプロジェクト
- ・株式会社ワンダースタイルズ

観光産業理解促進セミナー（令和7年10月）

講演

- ・公益社団法人日本観光振興協会

参加事業所等

- ・国立教育政策研究所
- ・事業構想大学院大学

高校生チャレンジ in どさんこプラザ（令和7年12月）

連携事業所等

- ・株式会社合食函館第一工場
- ・有限会社たばた商事
- ・千歳市観光協会
- ・有限会社浜田旅館
- ・北海道エア・ウォーター・アグリ株式会社
- ・株式会社野菜田

産業実務家教員ミーティング（令和8年1月）

講演

- ・ニデック SV プローブ電子株式会社
- ・北海道武蔵女子大学

スマート農林水産業理解促進セミナー（令和8年1月）

講演

- ・国立大学法人北海道国立大学機構帯広畜産大学
- ・株式会社大歩

参加事業所等

- ・株式会社 NTT e-Drone Technology
- ・株式会社グリーンパワーインベストメント
- ・株式会社大歩

北の専門高校 ONE-TEAM フェスタ（令和8年2月）

講演

- ・株式会社 LAUGH GROUP

参加事業所等

- ・あすなろ道路株式会社
- ・荒井建設株式会社札幌支店
- ・ISHIYA グループ株式会社 150F プランニング
- ・株式会社いろはなケアサービス
- ・王子製紙株式会社苫小牧工場
- ・株式会社海洋探査
- ・関西電力株式会社
- ・株式会社グリーンパワーインベストメント
- ・王子コンテナ株式会社札幌工場
- ・国分北海道株式会社
- ・白鳥建設工業株式会社
- ・株式会社すみか
- ・ダイキン HVAC ソリューション北海道株式会社
- ・ダイキン工業株式会社
- ・株式会社滝川自工
- ・株式会社道新サービスセンター
- ・戸田建設株式会社
- ・ニデック SV プローブ電子株式会社
- ・野口観光株式会社
- ・福島建設工業株式会社
- ・株式会社星野リゾート
- ・公益社団法人北海道観光機構
- ・北海道経済部観光局観光振興課
- ・北海道経済部 AI・DX 推進局
- ・北海道経済連合会
- ・北海道武蔵女子大学
- ・北海道 LIXIL 製作所
- ・有限会社松岡商事
- ・株式会社ミツハシ北海道事業所
- ・雪印メグミルク株式会社

おしごとガイドブック～2025 年度版～

協力事業所等

- ・株式会社エコニクス
- ・レストランオリヴィオ
- ・医療法人溪仁会西円山病院介護医療院
- ・ダイキン工業株式会社
- ・株式会社高橋組
- ・株式会社デンソー北海道
- ・東海農場
- ・日本通運株式会社
- ・ビットスター株式会社
- ・市立稚内病院

産業実務家教員リスト 2.0

※令和7年度に新たに登録いただいた事業所等

- ・株式会社上田組
- ・一般社団法人小樽観光協会
- ・合同会社小野農園
- ・学校法人片柳学園日本工学院北海道専門学校
- ・ケイセイマサキ建設株式会社
- ・国分北海道株式会社
- ・株式会社近藤組
- ・Sweets GUPPY
- ・月形黒毛和牛母牛研究会
- ・東海産業株式会社
- ・戸田建設株式会社札幌利友会
- ・野口観光株式会社
- ・ハラダ工業株式会社
- ・ファームエイジ株式会社
- ・北海道電気技術サービス株式会社
- ・株式会社ロジネットジャパン

「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」事務局

No	所 属	役 職	氏 名
1	北海道教育庁学校教育局	指導担当局長	山城 宏一
2	北海道教育庁学校教育局高校教育課	課長	高田 安利
3	北海道教育庁学校教育局高校教育課	課長補佐 (キャリア教育指導)	石田 暁
4	北海道教育庁学校教育局高校教育課	キャリア教育指導係長	藤田 朋軌
5	北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係	主査	林 永理
6	北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係	指導主事	星澤 克幸
7	北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係	主任指導主事	北堀 智隆
8	北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係	指導主事	石田 康幸
9	北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係	主事	佐藤 春菜
10	北海道教育庁学校教育局高校教育課	産学連携コーディネーター	月館 海斗

※令和7年度の運営者のみ記載している



マイスター・ハイスクール普及促進事業
「北の専門高校 ONE-TEAM プロジェクト」
令和7年度（2025年度）成果報告書

北海道教育庁学校教育局高校教育課キャリア教育指導係

〒060-8544 北海道札幌市中央区北3条西7丁目 TEL 011-204-5705

Web ページ https://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/sangyo_top.html

